Bö-tanz's the 15th all-out attack

老いたる時間 A true daughter of Old Time

Science! true daughter of Old Time thou art!

科学よ!　お前こそ　まこと「老いたる時間」の娘!

科学よ!　お前こそ、まこと「老いたる時間」の娘!

Science! True daughter of Old Time thou art!

Edgar Allan Poe

時は遠い未来。暗がり、人工的な明かり、汚物、鉄屑、人間、そして機械・・・

Junk Metal City　_隠蔽された地下都市。地上都市の人々がこの地下に閉じこもったのは 50 年前いや 70 年前、もしかしたら 100 年前かもしれない。過去の情報はことごとく混乱している。この街では歴史など幻影の幻影に過ぎないのだ。だから避難した本当の理由についても定かなところは分からない。あるものは地球規模の核汚染だといい、またあるものは正体不明の病原菌(病原体)の蔓延だと主張する。

とにかくその地獄の時、都市は超克したのだ。業火の中で自らを完全に分解し再構築したのだ。一匹の芋虫が堅い蛹の殻の中で、すべての組織を解かし、再び一頭の蝶として復活するように・・・「蝶は芋虫の記憶を持ち得ない」_蛹化での自己分解は当然神経系の解体をも含む。神経細胞で構成された三次元的回路網としての記憶もその構造の消滅とともに失われる。

「再生都市は過去の歴史を持ち得ない」のだろう、きっと・・・

地下都市 Junk Metal City の内部には Polycarbonate 建材で作られた巨大な建築物が並んでいる。緻密に計算され尽くされた機能美を極めた外観を持つ構造体はすべての生命の接触を拒絶しているかのようだ。その神々しいビル群の東側に掃きだめのような地域が存在する。朽ち果てた鉄骨を無造作に溶接したような、または廃材を山のように積んだだけに見える建物が這いつくばるように固まっている。ここが Under である。落伍者たちの街だ。

淀んだ闇にしとしとと雨が降り続いている_いや、これは雨なんかじゃない。湿気を孕んだ空気が都市の熱に煽られて膨張し上昇し、高い天井で結露する。自らの重みを支えきれなくなった水滴が重力の作用に従い次々と落下する。

雨__Under の奴等はそう呼んでいる、それも何の感慨もなしに・・・

「Junk Metal City の雨は主に Under に降る」
これは、この地下都市の巨大な天井の形状によるものであろう。

むせ返るような熱帯夜、雨はまだ降り続いている・・・

登場人物

信ちゃん

ゼンジー商会(ジャンク屋)の店員。5 年前、記憶を失い彷徨っているところをゼンジー東京に拾われる。何故かバイオコンピュータシステムやモレキュラー・エレクトロニック・デバイス等に造詣が深く、ゼンジー商会の裏の仕事(人体の違法改造・コンピュータ・クライムのコンサルティング)を一手に引き受けている。ゼンジー商会の稼ぎ頭。

ゼンジー東京

ゼンジー商会(ジャンク屋)の社長。顔が広い(裏にも表にも)が、ただしそれは Under だけでのこと。楽観的性格だが、ちょっと寂しがり屋の側面も・・・ でもね若い時にゃ、そーとーワルやってたみたいよ。
今はあのテログループ"クマサンチーム"との大きな仕事を控えてちょっとドキドキって感じ？

エリザ嬢

信ちゃんが作ったミミック(人形)。信ちゃん開発のヒューリスティック芸人回路が組み込まれており、人の言葉に人知を越えたボケや鋭いツッコミで対応する面白い機械。信ちゃんの趣味か割合可愛い外観に仕上がっているので、独り者のゼンジイには目の毒だ。
ニューラル・ネットワーク型の情報処理システムを用いており、フィードバックでの学習が可能である。ただ、言語理解のためヤオビクニのコーパス(言語/音声データベース)に繋がりっぱなし(当然違法)なのが、ちょっと気がかり・・・

マリエ

言わずと知れた反電脳テログループ"クマサンチーム"の大将。頭脳明晰、沈着冷静だが、時として爆発する。この精神の秩序崩壊の原因として、彼女が幼少のころ脳腫瘍手術をうけ脳圧を弱めるため銀の箝搾子(クランプ)が脳に挿入されたのが原因ではないかと見る後世の歴史家もいる。彼女は Under の生まれではなく、City からのいわゆる"落伍者"である。ここだけの話、"クマサンチーム"にはマリエの上に"ローザ"と言う謎の司令塔が存在する。"クマサンチーム"はこの"ローザ"による指示で行動し、その資金援助により餓死を免れているって訳。

バーダー

反電脳テログループ"クマサンチーム"の切り込み隊長。なんでもかんでも力まかせですまそうとする強引さが売りの男。性格極めて明るく、"クマサンチーム"のコマンドのために揃いの"クマさんキャップ"を夜なべして作るお裁縫好きの一面も・・・ 出生不明、本名不明。その秘密めいたところが証券系OLの心をつかむのか？

ホルガー

反電脳テログループ"クマサンチーム"のコマンド。爆弾・暗殺などのテロ活動に関して完璧に精通しているらしいが、そんなことおくびにも出さない。バーダーとの爆笑コンビの破壊力は TNT 火薬 100 メガトンに匹敵するらしい。

レナ/玲奈

反電脳テログループ"クマサンチーム"のコマンド。腕は確かだが、ボケもすごい。ローザの指示による今回の作戦で(あまりにも悲しすぎる偶然により)過酷な運命の大渦に巻き込まれてしまう。

鰓瀬(えらせ)

都市管理会議のディテクティブ。City の中央病院で起きた奇怪な事件の真相を一堂とともに追う。エリートであるとともにホモセクシャルでもある(芸風はタチ)。

一堂(いちどう)

都市管理会議のディテクティブ。コンピューター・プログラミング全般に造詣が深い。ホモセクシャルである(芸風はネコ)。

巨大コンピューターシステム"ヤオビクニ(八百比丘尼)"

_第 5 世代コンピューターの最終到達点と言われた非ノイマン型人工知能である。服属アーキテクチャーによる半独立的なモジュールの複合体であるが、基本的には自律分散型の超並列デジタルコンピューターにセンサー/フィードバック・エージェントとしてバイオモジュール(モレキュラー・エレクトロニック・デバイス)が組み込まれたものと考えてもらえれば分かりやすいだろう(ってわかんないよね、ふつー・・・)。

都市機能の維持を自律的に行っているので、これが壊れたら都市は壊滅してしまうと想像できるが、どうやらこれはそう簡単に壊れないらしい。それに本体は都市の下方に厚いレドンコンクリートで包埋されていて一切の破壊工作が不可能であるし、端末からの侵入もネットワークの集中統括ゲートウェイに管理されてるので簡単にはいかないみたいよ。

文字通り 800 年生き続けるって感じ・・・

Junk Metal City の人達はヤオビクニを都市の大脳であるって言ったり、人格化(しばしば神格化)したりするけど、「都市を生体に例えることが出来るなら、さしずめ自律神経といったところだね。決して大脳なんかじゃない」って、ゼンジー商会の信ちゃんが笑ってたよ。

fragment 1　Malformed apes

ゼンジー商会。足の長い小さな作業机の傍らに信ちゃんとパンク野郎。

パンク　・・・お願いだよ、信さん。
信　だから言ったろう・・・そんなことしたら筋肉がぼろぼろになって、仕舞にゃ腕が抜け落ちるぞ。
パンク　だってよ、信さん。Dead Swine Industry のギターの Grudge があんなはえーリフ刻めんのはあんたにアクセラレイターー組み込んでもらったからだっていうもっぱらの噂だぜ・・・
信　でっど・すわいん・・・なんだそれ？　目抜き通りに出来た新しい雑炊屋の名前か？
パンク　信さん、惚けんのはやめてくれよ。Dead と俺たちは今度「ピンクのわにさん」でライブバトルやることになってんだよ。
信　ぴんくの・・・
パンク　ピンクのわにさん！　ライブハウスだ、雑炊屋じゃねーぜ。とにかく、向うの Grudge が右腕にバイオデバイスぶち込んで　のビートでリフ刻めんのに、それもダウンピッキングだけで刻めんのに、こっちが生身でちんたらギターかき鳴らしてるわけにゃいけねーだろ？
信　いいじゃん、みんな和むよ・・・
パンク　和ましてどうするんだよ！　俺たちは Malformed Apes だぜ！
信　Malformed Apes・・・奇形のサルか？　いい名前だ。（笑う）
パンク　そんな可笑しいか？
信　サルだの、ワニだの、ブタだのって・・・なんだか動物博物館みたいだからさ（笑う）
パンク　・・・笑うんじゃねえよ！（とうとう切れる）

一触即発って言うよりも、すでに爆発してるか？
舞台の上に買物袋を抱えたゼンジーが登場する。

ゼンジー　信ちゃん、なにさわいでるあるか？　・・・おや、お客さんあるか？
信　まあね。
ゼンジー　（パンクに近づき、名刺を差し出す）・・・私ゼンジー、ここの社長さんね。よろしく・・・（大げさに抱き締めたりする）それで何ご所望あるか？
信　（腕を指さし）アクセラレイターぶっ込んで欲しいんだと。
パンク　そ、そうなんだ！　頼むよ、社長さん。信さん何度頼んでも・・・
信　だから、あぶねえって言ってるだろ！　半年後にゃ片腕だぞ！
パンク　Grudge にはしたのに、何で俺にはだめなんだよ！
信　被害者を増やしたくないだけだ・・・
パンク　信さん！
ゼンジー　・・・グラッジっていうと、この前のにいちゃんかね？　たしか、でっど、なんとか、かんとかの・・・

パンク　Dead Swine Industry・・・

ゼンジー　ああ、思い出したあるよお。完璧に思い出したね・・・（パンク野郎に向き直って）・・・おにいちゃん、グラッジがバイオデバイス組み込むのにいくら払ったか知ってるあるか？（首を振るパンク野郎にそっと耳打ち）ごにょごにょ・・・

パンク　（金額を聞き俯いて考え込んでしまうが、やおらポケットに手を突っ込みくしゃくしゃの札を取り出し、机の上におく）分かった、全額キャッシュだ・・・（靴下の中にも手を入れる抜きとられた手の中には皺くちゃの札）足りない分は明日持ってくる。

ゼンジー　おにいちゃん、見かけによらず金持ちあるね。それもキャッシュ・・・　どこで手に入れたなんて、やぼなことは聞かないあるよ。ゼンジーはお金持ち好きなだけあるね（抱きつく）さあ、信ちゃん。準備、準備。

信　ゼンジー、俺・・・

ゼンジー　（首を横に振り、たしなめる）お仕事あるよ、信ちゃん。

信　（しぶしぶ注射器を用意する。針を見てちょっとだけおびえるパンク野郎に説明を始める）・・・ちょっと血を抜くだけだ。MHCを調べるんだ。

パンク　MHC？

信　組織適合性。これをしっかり決めとかないと、せっかくデバイス移植しても根付かねえ。（ゴム管をパンクの腕に縛り付け、消毒する）・・・ちょっとゼンジーの顔を見てくれ。

パンク　（どうして？と思うが、ゼンジーの顔を見つめてしまう）

ゼンジー　（おどけた顔をして）ハーイ、ちょっとちくっとしますよお・・・

ゼンジーが言い終わらぬ内に注射針がパンク野郎の腕に突き刺さる。
パンク野郎の呻き声、そして舞台は暗転。

fragment 2　Junk metal city in the rain

『Junk Metal City in the Rain』の流れる中
暗黒にゆっくりと一条の光がさし込む・・・
幾人かの人々が舞台の上に現れる。何か口々に呟いてる・・・
舞台は暗く、人の表情までは見て取れない・・・

Junk Metal City・・・
この隠蔽された地下都市を／人々は何時からか／そう揶揄するようになった
この街では歴史など／幻影の幻影に過ぎない
再生都市は過去の歴史を持ち得ない／蝶が芋虫の記憶を持たないのと同様に

Junk Metal City・・・
巨大コンピューター『ヤオビクニ』に管理された街／遥か未来の電脳都市
Polycarbonate の巨大な建築物／人工的な間接照明
緻密に計算された機能美は／すべての生命との接触を拒絶する

Junk Metal City・・・
その街の東側にある／掃きだめのような場所
無造作に溶接された朽ちた鉄骨／廃材の山に埋もれた居住地区
Under・・・／そこに住むものは皆そう呼ぶ
Under・・・／落伍者たちの街

Under the Junk Metal・・・
しとしとと雨が降り続く／でも、これは雨なんかじゃ、決してなく・・・
巨大な天井に結露した／油を含んだ水滴が／次々に落ちてきてるだけ・・・
誰が言ったのかしら／Junk Metal City の雨は主に Under に降る
きっと、この地下都市の巨大な天井の形状によるもの・・・

Under the Junk Metal・・・
湿気を孕んだ空気が絡みつく／むせ返るようなこの Under で・・・
暴力と貧困と／欲望がないまぜになったこの Under で・・・
今日も雨は降り続いている・・・

一条の光が消え、舞台は再び暗黒となる。

fragment 3　Terrorists love a teddy bear

薄暗がりに武装した男の影。『クマサンチーム』のコマンドのホルガーである。
駆け出して壁を背にする。指笛を吹こうとするが、上手く鳴らない。
もう一人の男が出てくるバーダーである。ミラータイプのゴーグルをしている。
二人ともかっこいいんだけど、頭にプリチーなクマさんキャップを被っているぞ・・・

バーダー　上手く鳴らせねーんだったら、するなよ。
ホルガー　すまん・・・で、どうだ？
バーダー　やっぱりだ。IR（赤外線）センサーが設置されてる。気付かずにこれに触れたら大変なことになっていたぜ・・・
ホルガー　これがパターン認識デバイスのスイッチになってるわけか？
バーダー　ご名答。パターン認識デバイスが俺たちを危険分子と判断した場合、直ちに排除措置がとられる・・・
ホルガー　ガスレーザーによる報復だな？　それにパターン認識デバイスの判断は長くても十ミリ秒と言われている。すなわちこれに触れた途端、俺たち・・・
バーダー　即死。・・・はっはっはって、笑ってる時じゃないってわけ。
ホルガー　IR（赤外線）センサーの数は？
バーダー　一本、高さは床から六百ミリ。IR（赤外線）センサー回避装置を設置してくれ。
ホルガー　OK。（指笛を吹こうとするが、やっぱり上手く鳴らない）
バーダー　・・・だから、鳴らねーんだったら、するな！
ホルガー　すまん・・・（奥に呼びかける）レナ！

バーダーに呼ばれて、レナ登場。クマさんキャップを被り、手にゴムひもを持っている。

ホルガー　レナ、IR（赤外線）センサー回避装置、設置！

回避装置をきびきびした動きで設置する二人。装置と言ってもゴムひもを床から六十センチのところに引き渡すだけなんだけどね・・・

レ・ホ　　設置完了　！
バーダー　よし、じゃあ俺から飛ぶ。
ホルガー　（ゴムひもを握ったまま）待てバーダー。危険だ、俺がやる。お前はコマンドのリーダーなんだぜ。こんなところで死んでもらっちゃ困る・・・
バーダー　ホルガー、テロリストにとって一番大切なことは何だ？
ホルガー　一番大切？
バーダー　・・・死なないことだ。決して命を粗末にしないこと。俺たちは少数派なんだ。俺たちが敵対する体制と比べて数的に遥かに少ない。だから、一人一人の命の価値は他に比べようも

無いほど高い。

ホルガー　だから、俺が・・・

バーダー　ホルガー、俺を信じろ。『クマサンチーム』のリーダーは決して死なない・・・行くぞ！（と、助走を開始する）

レナ　バーダー、気を付けて！

バーダー　（ぐるぐる走り回りながら）レナ、助走してるときに声かけるなよ。集中力って言うの・・・それが切れちゃうでしょお！

レナ　すまん・・・

バーダー　（気を取り直し、加速してゴムひもに突進していく）・・・とおりゃー、女飛び！

ゴムひもに向かい女跳びを炸裂させるバーダー！でも、足が見事にゴムひもに引っ掛かる。だって、女跳びだから仕方ないじゃん・・・報復レーザーがバーダーの腕を胸を貫く「ビシッ、バシッ！」信じられないという顔をして立ちつくすバーダー。

ホ・レ　バーダー！

バーダー　バルネラビリティ・・・システムが内包している脆弱さのことだ。どうやらこの完全と思われたIR（赤外線）センサー回避装置にもとんだ弱点が隠れていたみたいだな。（自嘲的に笑い）水平にはられたゴムひもを跳び越す時、人はなぜか自然と「女飛び」をしてしまうらしい・・・（膝から倒れ込む）

レナ　バーダー！（つい手に持ったゴムひもを放してしまう。と、そのゴムがホルガーの顔目がけて飛んで行く・・・）

ホルガー　（顔面にゴム直撃）痛で！

レ・バ　（顔を見合わせて）バルネラビリティ・・・

バーダー　近づくな、レナ！お前までレーザーの巻き添えを食うぞ。

レナ　でも・・・

バーダー　早く逃げるんだ！　二次報復が始まるぞ！

ホルガー　バーダー、俺の考えたこんな不完全なIR（赤外線）センサー回避装置ために、こんなことになったんだ。お前をおいて逃げれるもんか！

バーダー　ホルガー、テロリストにとって一番大切なことは？

ホルガー　・・・・・・

バーダー　自分自身の命を大切にしろ・・・

ホルガー　バーダー・・・

バーダー　ホルガー、俺は犬死にしたわけじゃない・・・俺の命と引き換えに回避装置が改良されることになる。俺の死が十人の、いや百人の仲間の命を救うことになるんだ・・・

バーダーの語りの最中に、舞台後方から一人の女が現れる。『クマサンチーム』の首領マリエである。腕組みなんかして、ちょっと怒ってるみたい・・・
あっ、手にハリセン持ってるぞ！

レ・ホ　（マリエに気付き、バーダーにそれを伝えようとする）・・・バーダー。
バーダー　・・・早く行けって言ってるだろう。いいんだよ、これで・・・ときに、お前ら二人、愛し合ってたんだろ？
ホルガー　・・・だから、バーダー（マリエがきたんだけど・・・やばそうな雰囲気なんだけど・・・）。
バーダー　・・・俺はリーダーだから、そんなことぐらいお見通しさ・・・「ビシッ、バシッ！」（レーザーに貫かれる）・・・二次報復が始まりやがった。早く、早く逃げ・・・（マリエが背後からハリセンをバーダーの頭頂めがけて思いっ切り降り下ろす）・・・って、痛でっ！　・・・くら、ホルガー！　ここは殴るところじゃ・・・（と振り返ると、そこにはマリエが立っている）・・・やあ、マリエさん。
マリエ　「やあ、マリエさん」じゃないよ。なにやってんの？
バーダー　なにって・・・
三人　シミュレーション。
マリエ　シミュレーション？
ホルガー　だから、今度の City の中央病院侵入のための・・・
バーダー　そーそー、「愛と友情篇」ってやつ。
マリエ　愛と友情篇？　・・・それで、あんた死ぬわけか？
バーダー　だから、それは最悪のシナリオってやつでね・・・
マリエ　ガスレーザー、びすびす撃ち込まれて、かっこよく死んじゃうわけか？　私達がやろうとしてるのはロマンじゃないんだよ！
バーダー　・・・ちょっと待てよ、マリちゃん！
マリエ　マリちゃん？
バーダー　テロって言うのは、基本的にデモンストレーションって類なわけで、民衆を魅了しなければならないのよ。つまり・・・
レ・ホ　シアトリカル！
バーダー　・・・つまり、芝居的要素も必要なわけ。
マリエ　そんなにお芝居したきゃ、劇団にでも入れば？
バーダー　分からん野郎だな、あんたも。民衆を味方の付けなきゃ、民衆に愛されなきゃだめだ、って言ってるんだろ。
マリエ　で、可愛いこれも、民衆に愛されるための必須アイテムか？（ハリセンでクマさんキャップを小突く）
バーダー　そう、俺たち『クマサンチーム』だろ？　だから、このクマさんキャップを夜なべして作ってみました。
マリエ　あのね、『クマサンチーム』っていうのは、『クマさん』の『チーム』って意味じゃないんだよ。これはフランス語で・・・
バーダー　フランス語？　死んだ言葉じゃねーか。
マリエ　死んだ言葉は意味が変わらないから、いいんだろ！　とにかくこの帽子取れ！
バーダー　今度は頭ごなしに、帽子取れか？

マリエ　（後ろの二人に）取れ！（後ろの二人脱ぐ）
バーダー　（後ろの二人に）被れ！（後ろの二人被る）
マ・バ　お前らは自分の意志がないのか！
レ・ホ　（二人しばし考えた後、帽子を脱ぐ）理由、かっこ悪いから。
バーダー　（膝小僧を抱えて）・・・今俺、とっても孤独。
マリエ　私が大将だということが再認識されたところで、新たなる指示を伝えましょ・・・
レナ　ローザから指示があったのね？
マリエ　そう、今度の中央病院のメディカル・マネージメント・デバイスへの襲撃に関してのね。
レナ　ローザはなんて？
マリエ　・・・ローザは今度の襲撃には優秀なテクが必要だと言ってたわよね。それで、ホルガーに Under のコンピュータ・テクノクラートのリストを作ってもらった・・・
ホルガー　で、人選が決まったって訳か？
マリエ　そう、シンって名前。
ホルガー　信ってまさか？　ゼンジーのところの？
バーダー　げっ、ちょー最悪じゃん。
マリエ　（バーダーに向かい）もう立ち直ったのかい？
バーダー　立ち直ったもなにも、信だけは止めねーか？
マリエ　だめ、ローザが決めたことなんだから・・・
バ・ホ　やだ！
マリエ　なんかあったの、あんた達？　レナ、なんか知ってる？
レナ　じぇんじぇん。
バ・ホ　・・・だって、反りがあわねーんだもん。
マリエ　とにかく、どんな手段を使っても仲間に引き入れること。いいわね・・・
バ・ホ　（レナの肩に手を置き）レナ、お前に託した。
レナ　託されちゃってもな・・・
バーダー　お前ならできる！
ホルガー　素質も充分！
バ・ホ　信ちゃん争奪・御色気作戦！
レナ　ってなに？

はにかんだレナの顔を見つめる真顔の男二人。
急速に闇が舞台を包む。

fragment 4 All that we see is a dream within a dream

潮騒。海風が吹いている。
一人の女が立っている鍔の広い帽子を目深にかぶっている。玲奈である。海を見ているのだ。その傍らに信ちゃん。でも信ちゃんじゃないみたいだ、なんかもっと落ち着いてる。

信　・・・もう車へ戻ろうう。長い間外にいるのは身体に悪いから。
玲奈　もう少しだけ・・・（信を振り返り、笑顔を作る）ごめんなさい、せっかくのあなたの休日だって言うのに、こんなところに・・・
信　いいんだ。きみが「海が見たい」というから・・・
玲奈　「海が見たい」なんて・・・頭がどうかしたんじゃないかって思ったでしょ？
信　いや、別に・・・
玲奈　うそ、思ったでしょ？
信　ちょっと・・・
玲奈　正直でよろしい。・・・だって、今時街の外へ出ようなんて言う輩は自殺志願者ぐらいのものだものね。でも、海を見てみたかったの。一度でいいから見てみたかった・・・ねえ、知ってる？
信　なに？
玲奈　私のおばあちゃんが子供の頃は、この辺りでよく泳いだんだって・・・
信　それは海水の有害性にまだ気付かなかった頃のことだろ？
玲奈　おばあちゃんが言ってたわ、その頃はまだ海の中にはたくさんの生き物がいたって・・・小さな魚や、巻き貝や、海藻、それから・・・
信　愚かな時代だよ。半裸で毒液の中に浸かり、太陽からの有害な電磁波を素肌で受け止め、発ガン性物質や催奇性物質を大量に身体の中に流し込んでいた時代。人はゆっくりと、だが確実に自らの種を滅亡へと追い込んでいった・・・
玲奈　死亡率の増大、出産率の低下・・・それもこれもすべて・・・
信　環境認識の甘さからだ。人々は地球環境の恒常性を盲信していた。垂れ流しにした毒物が自然に浄化されると信じていた、何の根拠も無しに・・・地球のエコシステムは思ったよりも繊細で、脆弱な部分を含んでいた。いったん傾きかけた生態系はあっと言う間に崩壊を開始した、まるでドミノ倒しのように・・・
玲奈　最初のドミノを倒したのは私達なのね？
信　そうだ・・・でも、それを救うのも僕たちなんだよ。
玲奈　それがあなたのやってるジオポリス計画って訳なのね？
信　そう、僕らはあと十年もしないうちに現在建設中の地下都市ジオポリスに移り住むことになる。有害物質から完璧に人類を守る隔離都市へ・・・でも、ジオポリス計画の本当の目的は、地球環境の浄化なんだ。僕らが地下で堪え忍んでいる間、地上部では環境浄化システムが稼働することになっている。それは人工知能により管理された完全自律型のシステムで、ジェネティック・アルゴリズムにより計画設計された巨大プラントが・・・

玲奈　ジェネ・・・なに？　また始まった。システムエンジニアの悪い癖。すぐ難しいことをいい始める・・・

信　ジェネティック・アルゴリズム。ちっとも難しいことじゃない。生物の進化をまねたコンピュータープログラムの開発改良法なんだ。化学プラントを代謝機能の主体としての細胞体、設計プログラムを遺伝情報として自然選択の圧力下で進化させるんだ。つまり、僕たちが地下にいる間に、地上ではコンピューターとそれに作られた様々な化学プラントが生物となり競争しあいながら生態系を形作ることになる。

玲奈　機械が生き物になれるの？

信　比喩だよ。生き物のようなもの・・・それらは巨大知能から完全に独立していないから、生き物とは呼べない、ただの環境浄化システムだ。

死せる海、潮騒。海風が吹いている。玲奈は遠い目をして海を見つめている。

玲奈　・・・それは何時なの？　地球がもとどおりになるのは・・・

信　百年・・・か、それ以上。

玲奈　百年・・・

信　僕らの孫のそのまた孫の頃に、地球はもとどおりになる。太陽の下で裸になって海で泳げるようになる、大気を胸いっぱい吸い込めるようになる。

玲奈　海に魚は戻ってくるの？

信　・・・・・・

玲奈　ねえ、戻ってくるの？

信　魚たちが望めば・・・　さあ、玲奈、もう行こう。長居しすぎた。

玲奈　（遠い目をして海を見つめている）

信　玲奈、君だって判ってるだろう。ここにこうしているのがどんなに危険か。有害な電磁波が降り注いでいるし、催奇性の物質を含んだ飛沫がどんどん肺のなかに入り込んでくる・・・車から降りるのだって完璧な義務違反なんだよ、だから・・・

玲奈　・・・海は泣いたのかな、死んでいく時に泣いたのかな？

信　玲奈、海は人じゃないから泣かないよ。

玲奈　そうね・・　行きましょう。（海から目をそらし、歩き始める）

信　ああ。

玲奈　（唐突に振り返り）「少年と大きな林檎の木」のお話、知ってる？　小さい頃おばあちゃんに読んでもらった絵本。海を見たら思い出したの・・・

・・・あるところに大きな林檎の木があって、少年はその木に登って遊んだり、お腹がすいたら甘い実を食べたりしていたの。少年はその木が大好きだったし、林檎の木だって無邪気に遊ぶ少年がいとおしくてたまらなかった。

舞台がゆっくりと暗くなっていく。玲奈の言葉がだんだんとささやきのように遠くなっていく。

玲奈　・・・ある時、少年がしょんぼりしているのを見て、林檎の木が尋ねたの、「どうしたの、坊や。元気を出して、さあ、いつものように幹を登ったり、枝をぶらんこ代わりにして遊びなさい。」でも、少年は木に登るかわりにこう言いました、「ぼくはお金がほしいんだ。」
「私はお金はもっていないけれど、甘くておいしい実をたくさんつけているわ。だから、この実をもいで篭に入れ、街に売りに行けばいいわ」林檎の木はそう答えると、大振りの枝を少年が登りやすいようにちょっとだけ下の方へ曲げました。少年はこっくりうなずくと、喜んで林檎の実をもぎ始めました。
そんな少年の笑顔を見ているだけで林檎の木は十分に幸せでした・・・

舞台の上にもう玲奈の姿はなく、信ただ一人となる。
明りが転換し、ここはゼンジー商会。ゼンジーが現われる。

ゼンジー　信ちゃん、どうしたあるか？
信　夢を見てさ。
ゼンジー　夢？
信　また、いつもの・・・ちょっとうたた寝したら。
ゼンジー　またいつもの大昔の夢あるか？
信　たぶんな。まだ人が地上にすんでたときの、きっと、俺のじいさんのころの・・・
ゼンジー　きっと、信ちゃん、子供の頃、じいさんからそんな話しばっかり聞いてたのよ。
信　そうかな？
ゼンジー　そうそう、信ちゃん聞き上手、じいさん話し上手。
信　記憶喪失でさまよってるところあんたに拾われてから五年、思い出すことといえば、こんなことばっかり・・・いったいどうなってるんだろうね？
ゼンジー　失った記憶、古い順に出てくる。まあ、ゆっくり思い出す、一番ね。
信　そうだな。
ゼンジー　また玲奈さん、出てきたあるか？
信　ああ。二人で海を見てた。
ゼンジー　うみ？　・・・うみって海のことか？
信　それ以外に何があるんだ？
ゼンジー　これはぜっこーの夢判断の材料ね。ゼンジー、信ちゃんに記憶取り戻させるために夢判断してあげるよ。
信　夢判断？　やったことあるのか？
ゼンジー　こう見えても、昔は、『Under の母』と呼ばれる手相見で、ぶいぶいいわせてたよ。
信　うそくせーな・・・
ゼンジー　いいから、座るあるね。だまって座ればぴたりと当たるあるね。・・・夢判断でいけば、海というのは自我を表わしてるのよ。
信　ジガ？
ゼンジー　自分の心のこと。そして海の底は信ちゃんの深層心理あるね。　・・・で、信ちゃんの見た

海はどんな海だったあるか？

信　有毒で、生き物のいない淋しい海。

ゼンジー　それは、信ちゃんの心が有毒で、淋しいということね・・・

信　おい、どうして急に直接的になるんだよ。もっとこう、象徴的にしてくれよそこんとこも。

ゼンジー　・・・かわいそうな信ちゃん、でもゼンジー味方ね。ゼンジーいるから信ちゃん大丈夫ね。（信に抱きつく）

信　やめろばか、暑苦しい・・・

ゼンジー　というわけで、結論は信ちゃんはゼンジーといるのが一番ということあるね。

信　心が有毒で、淋しいのはおまえだろ。夢判断なんか、やめだ、やめ。ちょっと飯喰いにいってくる。（逃げるように退場）

ゼンジー　（淋しげに）信ちゃん・・・

信が出ていこうとすると、戸口の向こうから唐突に女が現れるレナである。

レナ　・・・うわっ、予想どおり汚いところだね。（奥を見て、二人に気付き）おっ、こりゃ失敬失敬・・・

レナの服装の趣味の凄さ──とにかく常軌を逸したかのように凄い衣裳──に言葉を失うゼンジー商会の二人。

レナ　（うずたかく埃の積もった机の表面を指で撫で）げっ、すげー埃！　ほらほら、見てみなよ、下の方なんてもう堆積岩になってるぜ。先カンブリア時代から一度も掃除しなきゃこんな風になるのかね・・・おっ！　クモの巣だね？　強いよね、クモは・・・こんな最低の生活環境でも、ちゃっかり順応しちゃって・・・ほーら、ぐりぐり（人指し指で綿菓子のように絡め取ろうとするが、逆に絡め取られてしまう）・・・うわ、ひっからまった！　ひっからまってしまいました！！　誰か・・・そこの人！　何ぼけっと突っ立ってんの？　ちょっと助けてよ。

信とゼンジー唖然としたまま、しかしつい反射的に助けに行ってしまう。

レナ　・・・引っ張って！　早く引っ張ってよお！（クモの巣がびちっと切れる。指に絡んだそれをむしり取りながら）ふーっ、助かった、恩に着るよ。・・・にしても、なんなの、このクモの巣の粘り具合は？　突然変異体ってやつかね、そこの兄さん？

信　（尋ねられてしようがなく）・・・さあ？

レナ　街のジャンク屋に分かるわきゃねーよな、だっはっは・・・

信・ゼン　（つられて笑う・・・何だかとっても情けない）

レナ　だっはっは・・・（と、笑いながらちぎったそれを頬張る）

信・ゼン　あっ、喰った！

レナ　・・・重要なたんぱく源だろ？

信・ゼン　たんぱくなの？
レナ　えっ、違うの？
信・ゼン　さあ？
レナ　（ちょっと心配になる）・・・喰っても、だいじょうぶだよね、きっと？
信・ゼン　さあ？
レナ　（詰め寄って）だいじょうぶだよね。
信・ゼン　（反射的に頷いてしまう）
レナ　はー、よかった。
信・ゼン　（微笑みながら幾度も頷く）
レナ　（奥歯に挟まったそれを指でほじくって）でも、けっこーいけるぞ、これ。てきとーに歯ごたえあって・・・
信・ゼン　歯ごたえ・・・
レナ　うん、今度喰ってみなよ。
信・ゼン　（微笑みながら幾度も首を横に振る）
レナ　さてと、喰うもの喰ったし、じゃあな！（と帰ろうとするが）・・・って、ちょっと待てよ、帰っていいんだっけ？
信・ゼン　（微笑みながら肩をすくめる）
レナ　（そーと一悩んでいるようだ）んーっ。・・・帰っていいんだっけ？
ゼンジー　私に聞かれても、そればっかりは分からないあるね・・・
レナ　あっ、思い出した。
ゼンジー　思い出したって、唐突に・・・
レナ　そーだ、お色気作戦だ！
信・ゼン　お色気作戦？
レナ　そーそー、そのために、こんな殿方の喜ぶ扇情的ファッションに身を包んでるわけなんだ。うんうん。
信・ゼン　せんじょうてき・・・（頭抱える）
レナ　なになに、文句でもあるわけ？
信・ゼン　いえ、頭抱えてるだけで・・・
レナ　頭抱える？　頭抱えるっていったら、こうとか、こうとかじゃない？（文字通り頭を抱えてみせる）
信・ゼン　（困って笑う）
レナ　はっはっは・・・可笑しい人達・・・
信・ゼン　可笑しいのは、あなた。
レナ　はっはっは・・・まっ、それはそれとして・・・信って、どいつ？
信・ゼン　・・・・・・
レナ　いないの？
ゼンジー　（信を指さす）
レナ　（信をじろじろ見つめて）・・・へーっ、あんたが信なの？　へーっ、こりゃまた・・・

信　　こりゃまた・・・なんなんだ？
レナ　　ぐっふっふっ、なんでもないよ。
信　　気になるな・・・
レナ　　気にするな。（手を口もとに持っていき、無線機を使っている仕草）・・・では、今からお色気作戦を開始する、チシッ！
信　　チシッ！　って今誰に連絡したの？

そんな信のツッコミなど意にかえさず、レナのお色気作戦が唐突に開始される・・・とはいうものの、レナはその場で嬌声をあげて珍妙なシナをつくっているだけ。「これが作戦か？」と、困惑する信とゼンジー。顔を見合わせた後、疲れたという感じでその場を去ろうとする。
だんだん寂しくなってくるレナ。仕舞にゃ、力無くしゃがみ込んでしまう。正面に向かって大きく見開かれた目には涙が溜まっている。
「上を向フいてへ・・・歩こう、オウオウオウ・・・涙がハ、こぼれなヒよ　　ホおにヒ・・・」
そんないにしえの唄が自然と口をついて出てくる年ごろなんだな、レナは・・・

信　　（可哀想になって）・・・なにがしたいんだ、お前は？
レナ　　（遠くを見つめたまま、力無く）お色気作戦・・・
信　　何のために？
レナ　　ないしょ・・・
信　　誰なんだ、お前？
レナ　　ないしょ・・・
信　　（背を向け、机に向かい）ゼンジー、お引き取り願え。
ゼンジー　　・・・お嬢ちゃん、そういうことある。どんな事情あるか分からないが、帰るがよろし・・・
レナ　　（舌打ちをして、また無線機を使っている仕草完璧に立ち直っている）・・・「お色気作戦」および「可哀想な娘を装い同情をかう作戦」も、ともに失敗。次なる作戦を開始する、チシッ！
信　　誰に連絡してるんだ、お前は？
レナ　　次なる作戦はコードネーム:ジェスチャークイズ！　私は誰で、何のためにここに来たのか任務の都合で私の口から直接言うことは出来ない。でもヒントだったら、OKね。そこで、ジェスチャークイズ！　私はこれからジェスチャーで問題のヒントを伝えます。あなた方のチャンスは一分間だけ。さあ、今日の挑戦者は何問まで答えられるかな？　第一問！　私は何者でしょうか？

言うが早いか、ジェスチャーを始めるレナ。やる気なく答える二人。だが確実に正解がジェスチャーから紡ぎ出されていく。その答えは・・・

信・ゼン　　せーの！　『くまさんちーむ』（正答を叫ぶ二人）

レナ　ピンポーン！（拍手）そのとーり、正解は『くまさんちーむ』でした！
信・ゼン　わーい、わーい、あたった・・・って、クマサンチームだって？
レナ　そう。
信・ゼン　お前、クマサンチームなの？　こんなんが？（レナの頭のてっぺんからつま先まで睨めつける）
ゼンジー　おんや、じゃあ、おねいちゃんはこの前EMPブリットを頼みに来た反電子頭脳の仲間かね？　たしか・・・バーカーとアホガーとかいった変な名前の・・・
レナ　バーダーとホルガー。そうか、あの弾丸はここでつくってもらったのか？　あんたたちあの二人をいぢめたでしょ？
ゼンジー　そういえば、そんな記憶もあるにはあるかもあるよ。
レナ　はっはっは・・・　あるかもあるよってなんだ、おやじ？
信　（真顔になって）帰ってくれ・・・
レナ　へっ？
信　出ってってくれ。（レナに背を向ける）
レナ　何の用かも聞かないうちに？
信　聞きたくもない。・・・おれはお前らが嫌いなんだ。
レナ　私達が嫌い？　あんただってヤオビクニ騙して小銭稼いでるんだろ？同じ穴のむじなじゃないか・・・
信　同じじゃない！
レナ　あんたも同じ反電子頭脳主義者じゃないか。ヤオビクニを憎んでるんだろ？　だから・・・
信　憎む？　ヤオビクニはただの機械だ。機械をどうして憎むことが出来る？　この前EMPブリットを頼まれた時もお前の仲間にこう言ったんだ・・・お前たちはヤオビクニを擬人化しすぎてるってね。
レナ　でも奴は市民を支配している。
信　奴？　・・・あれはただのコンピューターだよ、支配者なんかじゃない！

レナ、拳銃を抜き信の背中に銃口を向ける。緊張が走る。

レナ　端っから、こうしときゃ良かったんだよ。しちめんどくせえったりゃありゃしねー・・・
信　今度は脅しか？　しかし、背後から銃で狙うっていうのは卑怯なやり方だな・・・
レナ　卑怯は若い女の子の専売特許だろ？
信　まあ、それに関しては許そう。俺はフェミニンなおにいちゃんだから・・・でも仕事となるとね、脅されながら働くのはまっぴらごめんだ！

信、金属の長いシャフトで振り向きざまレナの頭をかち割ろうとする。レナはその攻撃をしゃがみこんで難なくかわす。銃口は信に向けられたままだ。

レナ　卑怯は女の子の専売特許じゃなかったのかい？

信　　ごめんごめん。そんなつもりじゃなかったんだ。

って言いながらも、再びレナの頭めがけて攻撃。レナがそれを素手で受け止める。

信　　・・・ちゃんと教育されてるわけね。
レナ　　クマサンチームだからね・・・

二人、しばし見つめあう形となる。信、レナの顔をまじまじと見つめて驚いた顔になる。

信　　玲奈・・・
レナ　　さすが、アンダーグラウンドのテクだね。わたしの源氏名まで知ってやがんの。でも、ちょっと情報にノイズが乗っちゃったみたいね・・・わたしの名前はレーナじゃなくてレナ。
信　　（自嘲気味に大笑いして）いや、似てる人を知っててね、そんだけだ・・・分かった、分かりましたよ・・・俺の負けだ。
レナ　　よかった。とりあえず作戦成功か・・・ゼンジー、あんたは？
ゼンジー　信ちゃんがOKだったら、わたしもOKあるよ・・・ただこれは大丈夫あるか？（『OKマーク』を、手首を返し『銭マーク』にして軽く振る）
レナ　　クマサンチームが潤沢なのはあんたも噂で聞いてるだろ？
ゼンジー　（にんまり笑う）
信　　で、今度はなんだ？　デコーダーか、それとも武器か？
レナ　　詳しい話はうちの大将から聞いてちょうだい。（手紙を信に押しつけるラブレターみたいだぞ！）
信　　なんだ、これ？
レナ　　この中に交渉の日時と場所が書いてある。
信　　でも、ラブレターみたいだぞ、これ？
レナ　　お色気作戦だったからさ、そのノリで・・・　スゲー頓狂なことが書いてあるけど気にするな。手紙の最後にゃ、「信が来なくても、レナはここで待ってます。二時間だって三時間だって、いえ百年でも待ってるつもり・・・だってレナは信のことがダイダイ大好きだから・・・」って書いてるが読み飛ばしてくれ！
信　　・・・たちの悪い罠だな。
レナ　　そう。じゃあ、そのランデブーポイントで待ってる・・・（銃を向けたまま、後ずさる）
信　　最後まで俺に銃を向けてる気か？
レナ　　（ゼンジーに銃口を向け）ゼンジーが銃をしまえばね。
ゼンジー　あちゃー、分かってたあるか・・・（隠して構えていた銃を出し、机の上に置く）
レナ　　（銃をしまい）ねえ、ゼンジー、どうして撃ってこなかったの？　撃つ機会なんていくらでもあったのに・・・
ゼンジー　女の子殺すと夢見悪いからあるね。
レナ　　そういうことにしといてあげる・・・あるね。

ゼンジー　レナちゃんは優しい子あるね。
レナ　　あっ、そうだ。その手紙かして・・・（信から手紙を受け取り、それにキスマークを付ける）
やっぱり、ラブレターはこうでなきゃ・・・実は生まれて初めて口紅ってヤツを塗りたっくったんだ。一度でいいからやって見たかった・・・じゃあな！

レナは手紙を信に渡し、あれよという間に駆け去ってしまう。
手紙を握り締めたまま、レナの言った先を見つめている信。

ゼンジー　どうしたあるか、信ちゃん？
信　　別に・・・（手紙をちらりと見て、机の上に放り投げる）
ゼンジー　これで良かったあるか？　信ちゃん、私なんか悪い予感するね、ちょっとだけ・・・
信　　『Under の母』の占いは当たったためしがねーんじゃないのか？
ゼンジー　そうかもしれないあるねあるね・・・

ゼンジー、何げに机の上のラブレターを拾い上げようとすると、信が俊敏な動きでインターセプトする。

信　　俺宛の！
ゼンジー　信ちゃん？　さっきたしか玲奈って・・・
信　　・・・ゼンジー、腹減ったな、飯でも喰いに行くか？

舞台は待ちかねたように暗転する。

fragment 5 Ward in a ward

舞台上にわりあいきちんとした身なりの男が二人。都市管理会議の鰓瀬と一堂である。ここは中央医療センター（中央病院）の電算処理分室。一堂はディスプレイに向かいキーボードを叩いている。鰓瀬はその傍らでまるで檻の中のクマのように行ったり来たりを繰り返している。突然、端末がしゃっくりのような小さなビープ音を洩らす・・・

鰓瀬　（急いでディスプレイの前に駆け込み）一堂、検索の結果は？

一堂　やっぱりだ、あの事件以前にも十六回の投薬ミスがある。それも、人為的なものじゃなく・・・

鰓瀬　メディカル・マネージメント・デバイス──MMD──上のエラーか？

一堂　そう、すべてMMDによるものだ。しかしそのほとんどが些細なミスで、事故の扱いにはなっていない。

鰓瀬　最後が五年前の事件か？

一堂　この病院で起きた例の・・・三名の患者が重態にそして一名の死者が出たって言うヤツ。これ以降は、投薬ミスは全く起ていない。

鰓瀬　そして最初がちょうど十年前か・・・ログファイルの検索は十年前までで区切ったのか？

一堂　いや、ここに入っている五十年分のMMDのログファイル全体で検索した・・・

鰓瀬　ということは、例の事件をあわせて十七回の投薬ミスが十年前から五年前のたった五年間に集中しているということか？

一堂　そういうこと・・・

鰓瀬　五年間で十七回・・・どう考えても多すぎるな。

一堂　それに集中して起きているのも妙だし・・・

鰓瀬　謎だな、これは・・・

一堂　とにかくこの件は本部に報告しておこう。出向先でもちゃんと仕事してますっていうのを見せておかなくっちゃね。（キーボードをかちゃかちゃか小気味よく叩く）・・・で、どうする？

鰓瀬　ん？

一堂　だから、この謎を解くために次は何をする？

鰓瀬　・・・謎を解く鍵はこのログファイルの中にある訳だから。とにかく、この奇妙な五年間がそれ以外の年と比べ何か他に際だった特徴を持っていないか様々なことについて検索するんだ。例えば入院患者数やその傾向、全体的投薬量と患者との相関・・・

一堂　タイム！　・・・鰓瀬、簡単に言ってくれるよね、様々なことについて検索だなんて・・・この投薬ミスの検索だってどんなに大変だったか・・・病状とそれに対する薬剤のマッチングテーブル作って、一個一個患者のログと突き合わせて・・・それにこの五十年分のMMDのログファイルの容量どれくらいか知ってる？

鰓瀬　いや。

一堂　・・・この中央病院の一年間ののべ患者数は百二十から百五十万人。投薬暦ファイルに限っても一人平均五百メガバイト。だからかける人数、かける五十年で・・・ざっと四万テ

ラバイトにもなる。ギガじゃないよ、四万テラバイトだよ！

鰓瀬　すごいね。

一堂　すごいねじゃないよ、まるで他人事みたいに・・・そんな化け物みたいなデータベースにMMDの中央電算システムからも切り放されたこいつで・・・このせこい機械で検索かけてるんだよ。

鰓瀬　ああ。

一堂　ああ？　君が言うのは「ああ」だけ？（溜息をついて）ほんとさ・・・MMD中央電算システムが使えたらな、検索なんてあっと言う間だろうに・・・

鰓瀬　それはだめだ、MMDは基本的にはヤオビクニの従属アーキテクチャーだろ。奴に勘づかれる。五年前の投薬ミスはMMD上のエラーで、つまりそれを作ったヤオビクニ自身のミスなんだ。だから、俺たちが探っているのを奴が知ったら、隠蔽工作をするに決まっている。

一堂　ちょっと待って。ヤオビクニが隠蔽工作を？

鰓瀬　そうだ。誰だって失敗は隠したいだろ？

一堂　（笑う）

鰓瀬　可笑しいか？

一堂　ヤオビクニはただのデジタルコンピューターだよ、人間じゃない。そんな人間的な感覚なんて持ち合わせていないよ。

鰓瀬　そうかな？

一堂　そうだよ。いやしくも都市管理会議のデテクティブともあろう御人が、そんなことを言うようになるとは・・・それじゃまるでヤオビクニ教の信者か、さもなくば・・・

鰓瀬　反電子頭脳テログループ『クマサンチーム』か？

一堂　そう、それ！　でも、何なんだろうね？　ただのコンピューターを拝んだり、憎んだり・・・

鰓瀬　俺には分かるような気がする・・・

一堂　鰓瀬、本部に報告するぞ。

鰓瀬　出世に響く。今言ったこと忘れてくれ。

一堂　じゃあ、ほっぺたにキスしろ。

鰓瀬　ただいま本官は勤務中ですので・・・

一堂　誰も、いない・・・

鰓瀬　でも・・・仕事中だ。

ちょいとやばい雰囲気の二人を闇が包んでいく。これは、かなりやばい気がするぞ・・・

fragment 6 Eliza was born in a manger

ゼンジー商会。信、そしてゼンジー。信は机に向かい基板をいじってる。ゼンジーはなんか知らんけどそわそわしているぞ。

ゼンジー　信ちゃん、いいあるか？　もうすぐデートの時間あるよ。
信　・・・そうだな。
ゼンジー　着替えなくていいあるか？　お洒落さんしなくていいあるか？
信　お洒落さん？　誰とデートだと思ってんだ？
ゼンジー　レナちゃんとでしょ！
信　クマサンチームとだよ。
ゼンジー　そうだよねー、クマサンチームとあるよ。ただ、あのラブレター読んじゃったから、勘違いするあるよねー。レナちゃんは可愛い、クマサンチームは怖い・・・なんて言うかこのデート、羊羹喰いながら、味噌汁飲んでる感覚ね。
信　お前がやきもきしてどうするんだよ。そんなにやきもきするなら、お前行けば？
ゼンジー　ほんとあるか？
信　いや、冗談・・・
ゼンジー　信ちゃん？
信　ん？
ゼンジー　信ちゃん、レナちゃんのことけっこー好きあるね？　レナちゃんと会うの楽しみにしてるあるね？　愛は恐怖を討ち負かす状態あるね？　んー？
信　ゼンジー、何わけわかんねーことほざいてるんだよ。
ゼンジー　ゼンジーには分かるよ。信ちゃんの心がすけて見えるあるよ・・・
信　ゼンジー、ちょっとこっちへ来い。
ゼンジー　（信のところへ行く）
信　俺が好きなのは、ゼンジー、お前だけだよ。分かってるくせに、要らないやきもちを焼くんじゃない・・・（ゼンジーに顔を寄せて、キスでもするかのように・・・）ゼンジー、愛してるぞ・・・なんてな！（頭突き一発）
ゼンジー　（痛がってる・・・痛くて声もでないって感じ）
信　お前が言っても用なさないだろ？　セキュリティシステムの突破とか、デコードとか言われてもちんぷんかんぷんだろ？　だから俺が行くの！（さっきからいじってた基板を目の近くに掲げ眺めて）こんなもんでいいかな？　これでレスポンスも上がるだろ・・・

そう言いながら、信は先ほどから舞台後方に置かれている布を被った奇妙な物体の後ろに回り、その基板を挿入する。

信　ぱっちん。これで良しと・・・パワーオン、ぷちっ。・・・これけっこー面白いおもちゃなんだ。実はさ、ここ三ヶ月内緒であんたのためにこれ作ってたんだよ。世話になってる恩返しっ

て言うか感謝の気持ちって言うか・・・今日まで仕上げようって思って・・・ほら、今日・・・あんたの誕生日だろ、だから・・・誕生プレゼント・・・

ゼンジー　（信をじっと見つめる喜びのためか、目がうるうるになってる・・・）信ちゃん、ありが・・・あり？（急に小首かしげて）今日わたしの誕生日じゃないあるよ！

信　　えっ、うそ！

ゼンジー　うそじゃないある。

信　　ちょっと待ってよ・・・去年の今日、二人で誕生会開いたじゃん。「ハーピーバースデイ・トゥー・ユー」歌ったじゃん？

ゼンジー　憶えがないあるよ・・・きっとその場のノリだったのね。

信　　うっそー・・・おれー年三百六十五日騙されてたわけ？

ゼンジー　悪気はちっともないあるよ。信ちゃんも女友達たくさん出来れば、こんなうそ平気でつけるようになるね。女の子の数だけ誕生日出来るあるよ、はっはっは・・・

信　　はっはっは・・・じゃないよ！　もういい！　これあげない！

ゼンジー　そんなすねないで・・・分かった、今日はゼンジーの誕生日あるね。信ちゃんだけの誕生日ね。

信　　わーい、ゼンジー。わたし、うれしー！　今日は私だけの「ゼンジーのたんじょおびー」・・・って喜ぶ馬鹿がお前のまわりにゃごろごろいるんかい？　お一っ？　・・・はいはい、分かりましたよ。そうですね・・・誕生日おめでとうございます。いくつになったの？　私からのプレゼントの贈呈で一す。（ほとんどやる気がない・・・続けざまに「ハーピーバースデイ・トゥー・ユー」を無気力に歌う。そして力無い拍手）苦節三ヶ月、こんなナイスな作品をお前ごときにくれてやるのか・・・く一っ、それもまた人生！（布に手をかける）・・・寂しい老人の愉快なお話相手、鬱鬱とした灰色の生活もこれで薔薇色に！　今こそ青春を取り戻すとき！　飛び出す立体「ときめきメモリアル」・・・ヴァーチャル・おじょーちゃん、エリザ嬢だ！

信がばさっと布をはぎ取ると、その下にはフランス人形と見まごうばかりの少女が現れる。

信　　おはようございます、エリザ嬢

と挨拶をかわすと、無表情だったエリザの顔が俄にいかりや長介となり

エリザ　ういーすっ（挨拶を返す。当然、右手もそれに連動した形で動く。と、また瞬時に無表情となる。）

ゼンジー　なにあるか、これ？

信　　お喋りコンピューターだよ。信ちゃん自慢のヒューリスティック芸人回路が組み込まれていて、人の言葉に人知を越えたボケや鋭いツッコミで対応する面白い機械なんだ。一応ゼンジーのロリロリ趣味に合わせて可愛い外観に仕上げてみました。圧搾空気で上半身は自然に動くし・・・

ゼンジー　ちゃんとお喋り出来るあるか？

信　　ハードウエアはそんな悪くないよ。ニューラル・ネットワーク型の情報処理システムを使ってて、フィードバックでの学習が可能なんだ。

ゼンジー　学習までできるあるか？

信　　当然あるよ！　それに、このおもちゃの一番の凄いところはヤオビクニのコーパスを使ってるってことだ。

ゼンジー　コーパス？

信　　ヤオビクニに組み込まれてる言語理解のための言語・音声データベースのことだよ。クマサンチームの大活躍のおかげで、対テロ対策のため昔は解放区だったこの Under にもヤオビクニに直結した監視センサーが設置されてきてるだろ。監視されてるばっかりじゃ腹立つんで、逆にハックしてやったってわけ・・・ハッキングの最中に偶然コーパスにぶち当たってさ・・・まっ、それがこのおもちゃ作るきっかけだったんだけどね。

エリザ　くら、おどれら、わけ分からんことごちゃごちゃゆーとらんで、しっかり相手せんか、このぼけ！

ゼンジー　うわ、びっくりしたあるよ。

信　　さあ、話しかけてやりな。

ゼンジー　でもちょっと怖い感じあるね・・・

信　　何のための学習機能だ？　どんどん話しかけて自分の色に染めればいいじゃないか。好きじゃないの、そういうの・・・この調教師が、うりうり・・・

ゼンジー　調教師ね！　だっはっはっは・・・

エリザ　・・・調教師、学習します。

ゼンジー　何今の？

信　　調教師って言葉を学習してるの。あんた笑ったろ、調教師って言葉で・・・だからさ。エリザはそれ自体が無作為に抽出した言葉で相手に笑いが起こったとき、それを自動的に学習するようになっている。単なるオペラント条件反射型のプログラムなんだけどね。だからエリザが面白いことをいったら大声で笑ってやってくれ・・・エリザは耳だけが頼りなんだ。視覚も皮膚感覚も当然臭覚もないからね・・・

ゼンジー　しかし、あの「学習します・・・」っていうのはどうにかならないあるか？

信　　言葉をコーパスと突き合わせてフレーム化するのにこのハードウエアだとどうしても二秒ほどかかっちまってな・・・黙ってるのも何だし、だから仕方なくそうしているだけだ。なんか上手い言葉でもあったら、憶えさせてやれ。

エリザ　そうだ、憶えさせな、調教師！

ゼンジー　あっ、「調教師」を憶えたある。（心の底から喜んでいる）

信　　なっ、面白いだろ？　じゃあ、俺そろそろ行くから・・・（出ていこうとする）

ゼンジー　ちょっと待つある、信ちゃん。（信を呼び止め、拳銃を手渡す）

信　　デートに銃は必要ねーだろ。（拳銃を返してドアへ向かう）

ゼンジー　デートにはやっぱりこっちが似合うね・・・（ピンブローチを差し出す）

信　　手ぶらじゃなんだよな・・・（ピンブローチを受け取り）あんがと・・・あっ、それからエリザだ

けど、コーパスの関係で電源入ってる間はヤオビクニと繋がりっぱなしになってるから、あんまり長時間それで遊んでるとハッキングがばれて、運が悪きゃ都市管理会議に踏み込まれることになる。だから、あまりはまりすぎるなよ・・・じゃあ、行ってくる。（出ていく）

ゼンジー　信ちゃん、十分に気を付けるあるよ。・・・あっ、そうある。（急に目が輝く、エリザの前に走り込み）今思いついたあるが・・・「学習します」のかわりに「帳面つけとこ」はどうあるか？

エリザ　（二秒ほど無表情で停止しているが、おもむろに・・・）帳面つけとこ・・・

ゆっくりと暗転していく舞台にゼンジーの爆笑が響きわたる。

fragment 7 Tasteful blind date

レナが立っている。Under のとある街角そして街の喧噪。レナの服装は周りのパンクス達と区別がつかない。そこへ信が現れる。

信　　よう、レナ。待ったかい？
レナ　　今来たとこ。
信　　おや・・・一人？
レナ　　あたりまえでしょ、デートなんだから・・・見て見て、初めてのデートだから、服だって気張っちゃったぞ！
信　　（げんなりして）・・・ちょーベリー・ナイス・スーツ・・・
レナ　　やっぱり気に入ってくれたのね！（独り言のように）私の趣味も捨てたもんじゃないわね（ゲハゲハと笑ってる）
信　　（文字どおり頭抱えてる）
レナ　　なにやってんの？
信　　文字どおり頭抱えてんの。・・・あっ、そうだ。君にプレゼントがあったんだ（ポケットを探り、ピンのようなものを取り出す）ピンブローチだ。（と、レナの胸の辺りに付ける）
レナ　　あんがと。・・・じゃあ、行きましょ。（歩き出す）
信　　（追いかけて）行くって何処へ？
レナ　　あたしん家。デリシャスご馳走とごーじゃすワインのおもてなしなの。
信　　そいつはうれしいね。
レナ　　らぐじゅありー気分、満喫って言ったところよ・・・（と、人気のない裏道の壁沿いで立ち止まり、その傍らの金網を蹴って外す）
信　　結構閑静なところにすんでるんだね。
レナ　　（金網を外したところに腰掛けて）・・・目抜き通りも一つ逸れれば、二人だけの世界ってね・・・とりあえず、となりに座って、愛の語らいでもしましょうか？
信　　（しょうがなく、座って）・・・愛の語らいはきみのふぁんしーなお部屋でしたいものだね、お嬢ちゃん・・・
レナ　　（信の唇に指をあて）唇を閉じて・・・
信　　んっ？
レナ　　舌を噛むよ、今からジェットコースターだから・・・
信　　・・・ジェットコースターって、（後ろの深い穴をー別して・・・）まさか！？

レナ、「いっつしょーたいむ！」と叫ぶや否や、信を肘で小突き、ともに穴の中に逆さまにおっこちていく。暗転。信の悲鳴はドップラー効果がかかっている。舞台中央にサスがともる信が座っている。
暗がりからレナの声、「レナのお部屋へようこそ！」
その声で、信が目を覚ます。

信　　食事の用意が出来たのか？
レナ　　まあね・・・

舞台がゆっくり明るくなる。舞台後方にレナ、そしてバーダーとホルガーが立っている。

バーダー　ちょいと身体検査させてもらったが・・・
ホルガー　丸腰で来るとは豪気だね・・・
信　　お前らは・・・たしか、バーカーとアホガー・・・
バ・ホ　　バーダーとホルガーだ！
信　　些細な間違いだ、気にするな・・・にしても、面白い招待の仕方するじゃないか。
バーダー　楽しんでいただけました？
レナ　　ごめんね、わたしはやめればって言ったんだけど、バーダーが・・・
信　　十分に堪能したよ・・・

舞台袖からマリエが現れる。

マリエ　　ごめんなさいね。うちの馬鹿が手荒いことしちゃって・・・
バーダー　（小声でマリエをたしなめる）バーカーじゃなくてバーダー・・・
マリエ　　（バーダーを相手にしていません）・・・でも、こっちにも居場所をおおっぴらに出来ない事情があってね。
信　　そりゃ、クマサンチームだもの。お手手つないで正面玄関から「ハーイ、いらっしゃい。外は暑かったでしょ？　さっ、冷たい麦茶よ・・・」てな訳には行かないと思ってたよ。お互い、非合法は辛いとこあるよね・・・・
マリエ　　この前は、EMPブリットを作っていただきありがとうございました。あの電磁パルスはよく効いたわ。
信　　当社の自信作ですから・・・
マリエ　　端末の外壁を破り内部で電磁波を発生、それによりCPUが正常に動かなくなる・・・よく考えたものね。
信　　考えたのは神林って言う知り合いのテクだ。俺は実用化しただけでね・・・
マリエ　　信とお呼びしてよろしいかしら？
信　　どうぞ。で、俺は、あんたのことなんて呼べばいいんだ、おばちゃん？
マリエ　　マリエ・・・そう呼ばれてる。
ホルガー　おばちゃんだってよ、バーダー。おばちゃん・・・
バーダー　呼べねーよな、フツー怖くて。
信　　あんたがクマサンチームの大将か？　・・・さすがに落ち着いてるな。
ホルガー　（小さな声で）落ち着いてなんかいねーよ、ちっとも。おばちゃんって言われて心中穏やかじゃないって感じ・・・

バーダー　（小さな声で）動揺が手にとるように分かるね！
マリエ　うるさい、外野！
バ・ホ　すみません・・・
マリエ　・・・お察しの通り、私がクマサンチームのリーダーよ。
バーダー　そして俺が、言わずと知れたコマンドリーダー。
ホルガー　そして俺が、別に言わなくてもいいけどテクニカルリーダー。
信　（レナを指さし）そしてこいつがチアリーダーか？
レナ　よく分かったね。
ホルガー　（小さな声で）バーダー、今の面白れーよ。図らずもちょっとウケたって感じ・・・
バーダー　（嫌そうに首を振る）
マリエ　信、この娘はこう見えても優秀なコマンドよ。見た目の軽薄さに騙されちゃいけないよ。
バーダー　俺たちにもな・・・
ホルガー　そうだぜ。俺たち、ミッションが始まりゃ別人よ。（おどけて）普段はこんなにナーバスだけどよ・・・
バーダー　（小声で）おまえ、言葉の使い方間違ってねーか？
信　分かった、注意するよ。・・・で、今度のヤマは何なんだい？　かなり込み入った作戦なんだろ？　こうやってあんたがじきじきに俺を呼んだって言うことは・・・
マリエ　・・・今度の標的はMMD。
信　なんだって？
マリエ　MMD、中央医療センター、メディカル・マネージメント・デバイス。
信　えっ？
マリエ　だから・・・
信　（やおら逃げようとする）
マリエ　何処行くの？
信　トイレ・・・ってうそ、帰るの！

信の退路にレナが立ちふさがる。信、自らの腰に手を持っていき、銃を抜こうとするが、持ってきていないことに気がつく。

レナ　話は始まったばかりでしょ・・・
信　・・・MMD襲撃だ？　お前らおかしいんじゃないのか？　あれは医療センターのホストコンプレクスだ！　入り込めるはずがないだろ！　・・・筋金入りのハッカーだって決して近づかねえ。あそこにはいるんだとよ、ケルベロス・・・
マリエ　地獄の番人。
信　三つの顔を持つ狂犬だ。運良くひとつめの顔の目をごまかしてふたつめの顔の牙を間一髪すり抜けられたとしても、結局三番目の顔の顎で噛み潰されることになる。比喩じゃないぜ、実際何人もの半端者のハッカーが死んでるんだ。ケルベロスが見つけたら最後、狂犬はどこのどんな端末であろうと侵入者に向かって駆け登ってく、そいつの喉笛を噛

み切るために・・・

マリエ　医療情報管理法、百十四条第三項・・・MMDには侵入者を殺す権利が与えられている・・・

信　いや、科せられているんだ、殺さねばならない義務が・・・

マリエ　・・・・・・

信　出来っこない、出来っこないんだ・・・

ホルガー　ゼンジー商会の信ともあろう男がこれかよ・・・

バーダー　泣き言聞くために、お前をここに呼んだんじゃねえぜ

レナ　とっとと帰んな！　くそ野郎！（小馬鹿にするように）惚れたあたしが馬鹿だったよ・・・百年でも泣き暮らすことにでもするよ。

信　（俯いている）・・・・・・

マリエ　まあまあ、皆さん・・・そう、つっけんどんに・・・

バ・ホ　つっけんどん！？（なんかひらめいてしまった、馬鹿二人）

マリエ　そう。だから、そんなにつっけんどんに・・・

バーダー　（唐突に何か作ってる仕草）・・・『つっけんどん』上がったよ。ホルガー、ちょいと三丁目の信さんとこに出前頼むわ。

ホルガー　あいよ。三丁目の信さんね！（岡持に『つっけんどん』を入れて、威勢良く飛び出す）

レナ　（制して）待ちなよ、ホルガー。『つっけんどん』にゃ、この『ぶぶづけ（ってなんだよ？）』だろ？

ホルガー　いっけねー。『ぶぶづけ』忘れたら、『つっけんどん』じゃなくなるぜ。（暖簾をくぐり、威勢良く飛び出す）

レナ　（飛び出していったホルガーを軒先まで追いかけて、暖簾を手であげて）・・・ホルガー、三丁目の信さんだよ、憶えてるんだろうね！　・・・行っちまったよ、あの子。

バーダー　（鼻で笑って）あいつのうっかりも堂に入ったもんだな・・・

レナ　うっかりが堂に入ってどうするんだい、あんたったら・・・（くすと笑う）

ホルガー　（岡持を振り回し韋駄天のように走っていたが、信の側でぴたりと止まり）はいよお！『つっけんどん』お待ち！　熱いよ、気いつけてな。（『つっけんどん』を信に渡す。・・・ふと、信がうなだれてるのに気付いて）・・・どうしたんだよ、信さん、うなだれちまって。信さんらしくもねえ。さあ、この創業元禄十八年のつっけん亭の『つっけんどん』喰いなよ・・・

バ・ホ・レ　って、こんな感じ？　『つっけんどん』って・・・

マリエ　（冷たく言い放つ）このあほが・・・

ホルガー　（明るく小声でたしなめる）もう。アホガーじゃなくて、ホルガー・・・

マリエ　『つっけんどん』って食い物か？　あーっ？

バ・ホ・レ　えっ、食い物じゃないの？

マリエ　ったり前だろ！

ホルガー　マリエは時たま、符丁で言うよなあ、符丁で・・・

マリエ　符丁じゃないよ、純然たる日本語だろ！

バ・ホ・レ　にほんご？

マリエ　　知らないの？
バ・ホ・レ　うん
マリエ　　ほんとに、知らないの？
バ・ホ・レ　だから、何？
マリエ　　だから・・・（手を宙で動かして）こんな感じかな・・・
レナ　　なにそれ？？
バーダー　マリちゃんよ。あんたはどうして時折『曖昧模糊』なんだよ
ホルガー　そう。どうしていつも『モコモコ』なんだよ！
マリエ　　モコモコは関係ないだろ！　・・・どうして曖昧模糊知ってて、つっけんどん知らねーんだよ、こいつらは・・・恥ずかしいったらありゃしない。・・・ごめんなさいね、信。うちのコマンドは日常生活ほとんど白痴同然で・・・

と、マリエ、信を振り返るが、驚いてしまう・・・何故って？　だって、信は『つっけんどん』を食べ続けてるんだもーん！　それも遠い目をして・・・

マリエ　　信！？　どうしたの？
ホルガー　・・・喰ってる！　『つっけんどん』を喰い続けてる！
バーダー　ほんとだ・・・
レナ　　それも遠い目をして・・・
マリエ　　実は、ことのほか乗りやすい人だったのね、信ったら・・・
バーダー　マリちゃん。これだ！　うん、うん、うん。（自信あり気に、何度も頷いて）やっぱり、『つっけんどん』はどんぶりで良かったんだよ。
マリエ　　だから、どういうこっちゃ。
バーダー　ホルガー、レナ。大衆演劇お涙ちょうだい作戦だ。分かってるな？
ホ・レ　　（力強く、こくりと頷く）
バーダー　そうだ、マリちゃんの役どころはクマサンチームの首領な。しくじんなよ。
マリエ　　（あまりの剣幕に押されて、頷いてしまう）分かった・・・って、それじゃ実生活と同じだろっ！

そんなマリエの叫びは聞き入れられることがなく、大衆演劇お涙ちょうだい作戦が静かに進行し始める。当然、照明はストロー系を基調とした淡い感じだ。

ホルガー　・・・元気だしなよ、信さん。いつもの自信たっぷりの信さんに戻ってくれよ。
バーダー　（ひょっこり現れて）・・・よお、信の字。
ホルガー　あっ、大将。
信　　・・・よっ、つっけん亭のおやじじゃねーか？
バーダー　どうしたんだよ、しけた面しやがって・・・あっ、分かった。クマサンチームの今度のあれか？

信　　どうして分かったんだよ・・・

バーダー　巷じゃ、噂で持ち切りさっ。今度は『しちー』の大病院狙うって・・・そんで、おめーんとこにハッキングの白羽の矢が立ったって訳かい・・・

信　　・・・あのネットワークにゃでけー狂犬がいてな、どんなハッカーでも入り込めやしねえのよ。下手にシステムに触りゃ、こっちの端末ごと吹っ飛ぶって具合だ・・・

バーダー　信の字、おめーその犬っころが恐えーのか？

信　　恐えーよ、実際・・・

バーダー　・・・この Under を見てみなよ。そんな犬っころより恐ろしいもんがいくらでも転がってらあ！　衛生管理も何も整ってねえこの街じゃ、毎日何人もの子供や老人が死んで行く・・・細菌だの、ウイルスだの、プリプリだのでよ・・・

信　　プリオン？

バーダー　そう、それそれ！　数え切れねーほど死んで逝きやがる・・・それもこれも、この街にゃ薬がすくねーからよ。満足な治療もうけられねーからよ。『しちー』の奴等はかぜ薬だって水虫の薬だって簡単に手に入る。どんな小さなかすり傷だって中央病院で治療してもらえる・・・でも、どうだい俺たちは・・・『しちー』の奴等みてーにIDナンバー持ってねーからよ、ヤオビクニに相手にされてねーからよお・・・こけて出来たちっちゃな傷口から変な菌はいったら最後、おだぶつよ。

ホルガー　俺たちおんなじ人間だよな。City も Under もおんなじ人間だよな・・・

バーダー　そうだ、ホル坊。

ホルガー　ホル坊？　ちょっと・・・俺、その役どころ？

バーダー　・・・信の字、おめークマサンチームが何しようとしてるか知ってるか？　何のために病院襲うか知ってるか？

信　　MMDぶっ壊して、City を混乱させるためだろ。

バーダー　馬鹿言っちゃいけねーよ。そんなことは年端もいかねーホル坊だって知ってるぜ・・・

ホルガー　クマサンチームのおにーさんおねーさんは、中央医療センターに独占的に保管されている医薬品の生産方法や研究の情報を Under の人達にも分け与えようとしてるのさ！

バーダー　良く言えたぞ、ホル坊。情報はみんなが自由に使えて意味があるんだ。一部の奴が独占しているのはいざこざのもとよ。医薬情報さえありゃ、この Under の暮らしだって良くなるだろ？　死んで逝くガキだって救えるだろ？　・・・このホル坊もな、実は三年前まで『すとりいと・ちるどれん』ってやつだったんだ。俺が拾って育てたのよ・・・

ホルガー　そんな展開かい、おやじ？

バーダー　（噛んで聞かすように）そんな展開だ、ホル坊。・・・でもな、こいつ昔の拾い食いが祟ってな、脳やられちまって・・・プリなんとかに・・・脳にスが・・・スがはいちまってよ・・・だから、こんなあほでよお・・・（泣きながら、手にひらの縁を使って洟をすすり上げる。ほら、江戸っ子風にさ）

信　　・・・おやじ、今日はやけに湿っぽいじゃねーか？　だからかね？　今日の『つっけんどん』はやけに塩っ辛く感じやがるぜ・・・

バーダー　信の字・・・そいつは・・・おめーの涙の所為だぜ。

と、突然、レナが飛び込んでくる。頭に日本手ぬぐいを被っている。

レナ　信さん、ごめんよ。・・・おや、あんた、またこんな所で油売ってたのかい？　降り始めてきちゃったよ、雨。（手ぬぐいで肩口なんか拭いたりして）どうなってんだろね、最近は毎日毎日・・・（と、外を見る誰かを発見して・・・）おや、クマサンチームのマリエねえさんじゃないか。何やってんだい？　お入りよ・・・いいだろ、信さん？（マリエ登場、手ぬぐいで拭いてやる）・・・どうしたんだい、こんな雨の中突っ走って？　びしょ濡れじゃないか？

マリエ　それより、こいつを見ておくれよ。

レナ　これは中央医療センターの青写真じゃないか！

バ・ホ　（なんだって・・・と言いながら、わさわさ集まる）

レナ　どうしたんだい、こんなもの？

マリエ　ひょんなことから手に入ってね・・・ここんところ見てくれないか？　この下水管の先・・・ほら、ここの汚水もぐって中に入ると、ちょいと広い空洞に出るんだ。・・・そして、ここんところに吸気ダクトがさ。

バーダー　ほんとだ。ダクトが、奥の方へ続いてやがるぜ。この縮尺からいくと・・・

マリエ　六十センチ・スクエア・・・

ホルガー　スクエアと来たか？　しかしそれぐらいあれば、人でも楽に通れるな。

マリエ　それにこのダクトの先を見ておくんなまし・・・

レナ　何これ？

マリエ　通信ケーブルのノード。ここに拡大図がありんす・・・ここにこのセンターのすべての通信回線が集まってるのよ、あり、おり、はべり、いまそかり・・・

バーダー　するってーと、ここにたどり着けりゃ、センターの回線を切るもつなぎ換えるもやりたいほうだいって訳か？

マリエ　それが・・・そうは問屋が卸してくれないんだよ・・・その手前に吸気ファンがあってね・・・ご丁寧にファン保護のためのバイオセンサーまで付いて・・・けだし、スペックからいくと大したセンサーじゃないんだけど、知らずにファンを外そうとしたら、レーザーで・・・

ホルガー　びすびす？

マリエ　びすびす！

四人　んーっ。（悩む）

バーダー　ファンの手前から、EMPブリットでばしばし撃っちゃうてーのは？

信　（じっと耐えていたが、もう辛抱たまんねーって感じで）・・・そんなことしたら緊急信号が鳴り響いて五秒後には病院は難攻不落の要塞と化しちまうぞ！

四人　・・・・・・（無言で、一瞬だけ信を見つめる）

信　・・・どうして、そんな力業しか思いつかないのかね？

四人　・・・・・・（無言で、一瞬だけ信を見つめる）

信　ハッキングにしても忍び込みにしても、もっとスマートにしようとは思わないのかね・・・

ホルガー　（信を見つめて）・・・誰、あの人？

レナ　　知らない・・・
バーダー　犬恐怖症の人じゃないか？
四人　　そーよ、そーよ。
信　　犬恐怖症？　誰のことだ？　俺は恐くねーぜ。
レナ　　顔が三つあっても？
信　　例え、二千五百八十三個あってもな・・・
ホルガー　それはそれで恐いな・・・何か出来物みたいで・・・
マリエ　　信、やってくれるのね・・・
信　　お前ら『ぼんくら』が考えるよりは、俺が考えた方がいい・・・マリエ、悪いがセンターの詳しい情報をくれないか、建築立体図・配線図、それから、建材空調機器の型版とスペックもだ。持ってるんだろ？
マリエ　　分かったわ、用意する。さすがローザの選んだテクだけのことはあるわ・・・
信　　・・・ローザ？
バーダー　やっと、いつものいけ好かねえ野郎に戻ったな・・・（にこにこ笑って、肩をぽんぽんたたいたりする）
信　　お前、好きなのか嫌いなのかはっきりしろ！
マリエ　　目的は中央医療センターに侵入し、医療医薬及び研究データを盗み出すこと。Under のすべての人民の真の自由のために・・・いいわね、三日待つわ・・・すてきな計画をお願いするわ・・・
信　　三日？　もう少し余裕くれない？
マリエ　　さあ、レナ。お客様のお帰りよ・・・
レナ　　わたしがするの？
マリエ　　エスコート役でしょ・・・
レナ　　はーっ（溜息をついて、いきなり銃身で『ぽくっ』と殴る、気絶する信に）・・・おやすみなさい。

暗転。と、思ったら明転。シーン冒頭の愛の通風口（あのジェットコースターの・・・）に座ってる信とレナ。信が首筋を押さえて痛そうに頭を振っている。

レナ　　お目覚め？
信　　すがすがしい朝だね、痛でで・・・なあ、殴るの無しにしないか？
レナ　　わり。でも、あれしか思いうかばなくてさ・・・
信　　スプレーしゅーっとか、頭に黒い袋かぶせて町中引きずり回すとか・・・
レナ　　めんどくせえ、・・・あんたのこと、路上に放置しといても良かったんだよ。でも悪いなっと思って目覚めるまでここにこうしていてやったんだろ！　少しは感謝せえや！
信　　殴られた上に怒られるの？　俺って・・・
レナ　　じゃあ、これで・・・気をつけて帰れよ。（去ろうとする）
信　　（制して）あの、最後に一つだけ聞いていいか？

レナ　（立ち止まり、振り返る）・・・なんだよ？
信　ん一っ（悩む）
レナ　質問事項考えてから、呼び止めろよ。
信　クマサンチームって何人なんだ？
レナ　さっき会った四人だけ・・・
信　割合零細なのね・・・ちょっと待って、でもローザって・・・
レナ　そうね、ローザもいたわね。じゃあ全部で五人だ。
信　どこにいるんだ、ローザは？
レナ　（頭を指さし）ここ・・・マリエのここ・・・
信　頭？
レナ　マリエだけが対話できるもう一つの人格。
信　それって・・・
レナ　でも、神に近いわ・・・この世が神の存在を許すのなら・・・
信　・・・けっこー、あぶね一集団なの？
レナ　じゃ・・・（去ろうとする）
信　（呼び止め）お前、俺と昔会ったことがない？どこかで・・・
レナ　あるわよ。
信　やっぱしい。俺も確かに会った記憶があるんだ、夢の中で・・・
レナ　夢の中！？　おまえは童話作家っか？　私があんたと会ったのは昨日、ゼンジー商会で。そして今日が二度目・・・（去る）
信　（後ろ姿を見ているが）・・・まあ、いっか。（去る）

暗転？　と思いきや、舞台袖からクマサンチームの面々登場。

レナ　・・・こら、てめえら！　物陰でこっそり見てやがったな？
ホルガー　いや、あんまり遅いから、心配になってさ・・・
バーダー　そうそう・・・
マリエ　ねえ、レナ。何かおかしくないかい？　昨日今日と・・・
レナ　そんなことねえだろ？
バーダー　レナ、しっ！（唇に指をあて、レナの胸のピンブローチに手を伸ばし、もぎ取る）
レナ　何すんだよ、バーダー！　あたしのだろ・・・（奪い返そうとする）
バーダー　（レナを向こう側に追いやりながら、ピンブローチを口元に持っていく。大きく息を吸い、わっと叫ぶ！　即座に指でそれを捻り潰す。その残骸を見せ。）やっぱりだ！　盗聴マイクだぜ！　やるもんだね、ゼンジー商会・・・
マリエ　レナ、あんたともあろうコマンドが・・・
ホルガー　まっ、これはこれ・・・以後締めてかかりましょ・・・

四人ゆっくりと去っていく。レナは項垂れてながら・・・

舞台はゆっくりと暗転。バーダーの声がする・・・

バーダー　なあ、マリちゃん。おれ考えたんだけど・・・テロリストやめて劇団やらねーか？　何か俺、今日ので掴んだって言うか・・・ビシッ、痛で！　マリちゃん、今、グーで殴ったろ、グーで・・・

暗転の中、声が遠くなっていく・・・

fragment 8 Twofold silence

ゼンジー商会。舞台の上にゼンジーとエリザ。ゼンジーは耳に指を突っ込んだりしながら、素頓狂な声を発している。
そこに信が登場する。

信　ただいま・・・
ゼンジー　（耳に指を突っ込んで）あー、あー・・・
信　何やってるんだ、ゼンジー？
ゼンジー　（聞こえてない）わー、わー・・・
信　（ゼンジーの顔をのぞき込み）・・・ただいま。
ゼンジー　（びっくりして）信ちゃん、帰ってきたあるか！
信　帰ってきたあるよ。なにしてるんだ、お前？
ゼンジー　耳がキーンとして、キーンとね・・・
信　キーン？　なんで？
ゼンジー　いろいろあったあるよ・・・
信　いろいろね・・・（作業机に向かう）
ゼンジー　（不意に）・・・信ちゃん、とっても危険あるよ、ケルベロス。
信　聞いてたのか？
ゼンジー　あのブローチに。内緒で悪かったあるよ・・・
信　いいんだよ、俺もどうかしてた。武器も持たず、単身であんなところに・・・
ゼンジー　たくさんの知り合い殺されたよ、ケルベロスに・・・今も昔も医薬品情報は金になる。だから、ゼンジーの若い頃もたくさんのハッカーがそれに挑んでた。MMDに入り込もうと競い合ってた。でもそいつらが手に入れたのは情報じゃなくて孤独な死だったあるよ・・・破裂したモニターやハードディスクの破片が頚動脈に付き刺さっさっていたり、感電して端末ごと黒こげになったハッカーの死体が Under の至る所で人知れず腐っていってた・・・そんな時、あるバイオデバイスの天才が分子電子端末をつないだ自分自身の脳でMMD破りを試みた。MMDのバイオセンサーのフィードバック回路に脳を直結し、自分の脳内ホルモンを神業的にコントロールして偽の生体反応データを流した・・・
信　自分自身で脳のカテコール・アミンの分泌を制御？　そんな馬鹿な！
ゼンジー　奴は出来たあるよ、簡単に・・・
信　気がふれてたんじゃねーのか？
ゼンジー　（何かを思い出すかのように）そうかもしれない・・・
信　しかし、それができるんなら・・・センサに繋がっている臨床監視ユニットは患者の容体の急変と誤認して、すかさずホストコンプレクスの医療医薬データベースへアクセスするはずだ・・・そいつはそれと同時に・・・
ゼンジー　・・・奴が隣の私に叫んだあるよ、「ゼンジー、やったぜ！　MMDの処女をいただいきだ！」喜び勇んで、奴は椅子から飛び上がった・・・少なくともゼンジーにはそう見えたよ、

うれしさの余り飛び上がったように見えたよ・・・奴は空中で頭をのけ反らせ、どさりと椅子におっこちた・・・まるで、糸の切れたマリオネットみたいに・・・肉の焦げる臭いがした・・・油の焼ける臭いがした・・・奴の右耳の後ろからぶら下がったままのケーブルがくすぶっていて、所々で時折思いついたように緑色の炎を上げていて・・・ゼンジーその時笑っていたある、突然のことで笑い顔のまま顔の筋肉が固まってしまったあるよ・・・笑いながら、奴の肩を掴んで引き寄せた。見開かれた二つの目は熱で白く変色してた・・・煙が立ち上る奴の身体を強く抱き締めたよ、笑い顔のまま涙を流して、なんども・・・

信　　ゼンジー・・・

ゼンジー　昔の話ね、遠い昔の・・・ただ、ケルベロスを侮っちゃいけないということある、絶対に・・・信ちゃんに死んで欲しくないある・・・

信　　分かってるよ、ゼンジー。絶対に死にはしない、約束する。

ゼンジー　・・・ケルベロス退治に秘策はあるあるか？

信　　ない。

ゼンジー　じゃあ、どうするあるか、クマサンチームとの約束は？　破棄するあるか？　信ちゃんが出来ないなら、ゼンジーが直接出向いて「ごめんなさい」するあるよ・・・

信　　ケルベロスは長い歴史の中で二度だけ出し抜かれたことがある・・・

ゼンジー　何言ってるあるか？　MMDは一度も侵入されたことないある。

信　　ギリシャ神話のケルベロスだよ。

ゼンジー　ギリシャ神話？

信　　ケルベロスは黄泉の国タルタロスの番犬の名前だ。頭の一つはタルタロスを向き、死者が逃げ出さないように見張り、もう一つの頭は外に向いて、生きているものを地獄の門から追い払う役目を勤める。最後の頭は逃げ出そうとする死者、あえて侵入しようとする粗忽者を捕らえるためにあった。でも、この絶え間ない厳重な警戒もたった二度だが出し抜かれたことがある。

ゼンジー　誰あるか、それ打ち破ったのは？

信　　オルフェウスとヘラクレス。オルフェウスは御自慢の竪琴で子守唄を奏で狂犬を魅了し、その脇をすり抜けた。ヘラクレスの方はそいつの首を絞めて失神させるという得意の力業だった。・・・とにかく、どんなに厳重に見えるガードにも穴はあるって言うことだ。三日ある。・・・ゆっくり考えてりゃ妙案も浮かぶだろ。

ゼンジー　でも、信ちゃん、何でギリシャ神話なんか知ってるあるか？

信　　あれ？　そうだな・・・なんでだろ？

ゼンジー　記憶よみがえってきたあるか？

信　　かもな・・・

ゼンジー　まさか、信ちゃん、City の有名な歴史学者かもよ。

信　　有名な学者様だったら、捜索願いが出てるよ。それも報奨金付きで・・・きっと、歴史学者って言うより、独り者の童話作家だったんじゃねーか？

ゼンジー　童話作家？

信　　（ぷんぷん怒って）どこかの女にそう言われてさ・・・

ゼンジー　何怒ってるあるか？
信　　別に怒っちゃいねーよ・・・（ふと、エリザに目をやり）ゼンジー、点けっぱなしだぞ！
ゼンジー　（どぎまぎして）消したはずあるよ・・・
信　　ゼンジー！　今度こんなことがあったら電源にタイマーぶっ込むぞ！（溜息をつき、エリザを消そうと背面のスイッチに手をかける）
エリザ　　おっ、信ちゃん、ういーす。
信　　エリザ嬢、ういーすアーンドおやすみ。（と消そうとするが）・・・あっ、そうだ！　ときにお前、羽が欲しいか？
エリザ　　なんだ、とーとつに？
信　　だから、欲しいか？
ゼンジー　何あるか、信ちゃん？
信　　エリザに羽付けてやろうと思ってるんだけどさ・・・どう思う？
ゼンジー　羽？　空飛べるようになるのあるか？
信　　飛べるわけないだろ？　飾り物の天使の羽だ。
エリザ　　いーねー、天使の羽。んー、いーねー。
ゼンジー　気に入ってる。エリザちゃんも気にいってるある・・・
信　　よし、決まった。天使の羽決定！
ゼンジー　でもなんで、天使の羽？
信　　いや、なんでって・・・ロリロリ趣味を一歩前進させようと思ってさ・・・
エリザ　　そして、天使の羽の次は猫の耳か？
信　　猫の耳？　そう、それそれ・・・（笑って）俺より分かってらしゃる、ロリ系オタクの心が！
エリザ　　んー・・・『猫の耳』意外に受けたか？　とりあえず帳面つけとこ。
信　　何、今の？
ゼンジー　私が教育したあるよ！
信　　けっこー、調教してんのね、ぜんじー。
エリザ　　そうそう、ちょーきょー好きでさ、この、お・や・じ・・・
ゼンジー　エリザちゃん、そんな身もふたもない言い方しないで欲しいある・・・
信　　と、いうわけで・・・おやすみなさい、エリザ嬢（と、唐突に電源切っちゃう）
エリザ　　はーんん・・・（と、情けない溜息を残しきれちゃう）
信　　というわけで、ゼンジーもおやすみ！
ゼンジー　ああっ、そんな唐突に切ることないあるよ！　ゼンジー、おやすみ言ってないある！　ぷんぷん！
信　　歳甲斐もなく怒るなよ！
ゼンジー　でも、それゼンジーの・・・
信　　はいはい、そーでした。ゼンジーのでした。
ゼンジー　今度ゼンジーの許可を得ず電源切ったら、今の二倍怒るあるよ！　おやすみ、信ちゃん、ぷんぷん・・・（怒って退場）
信　　おやすみ・・・

信、作業机に座り、ボードをいじり始める。照明暗くなっていく。
そして「・・・天使の羽か？」と独りごちると、その言葉がきっかけでもあったかのように玲奈が現れる。照明は二人へのサスとなる。

玲奈　そう、羽が欲しい・・・
信　誕生日のプレゼントに、羽？
玲奈　背中から生えてて、そして自由に空が飛べるの。
信　それは百貨店で買えるの？
玲奈　あなたが作るの。
信　ぼくが？
玲奈　そう。ジオポリス計画のシステムエンジニアでしょ。あんな大きなコンピューターを開発してる人が、たかが羽ぐらい・・・
信　・・・空飛ぶ羽なんて作れるはずがない。
玲奈　でも鳥は羽で自由に空を飛ぶわ。
信　鳥と人間では骨格の構造が違うんだ。鳥の場合、肋骨の構造がしっかりとした箱形になっていて羽ばたきの時、運動軸がずれないようになっている。だから、人間の背中に同じ機構の物を取りつけただけでは・・・（玲奈が顔をのぞき込んでいるのに気付き言葉をとぎる）
玲奈　また、生真面目に対応する・・・どうして、「作ってやろう」って言えないの？　うそでもいいのに、ただのハリボテの飾り物でもいいのに・・・たったそれだけで私は飛べる。ハリボテの羽で舞い上がれる。空高く・・・
信　この街の電磁シールドを越えて、毒液の海を眼下に見下ろし、虫喰い穴だらけのオゾン層まで飛んでいくのかい？　紫外線や電磁波を浴びながら太陽に向かって飛んでいくのかい？
玲奈　違うの・・・私・・・
信　玲奈、最近やっぱりおかしいぞ。いいかい、この街の外の有害物質は僕等の細胞に対して有毒なだけでなく、DNAに対しても悪影響を及ぼすんだ。つまり、僕等の子孫にも害を成すことになる。この街の外に出るということは人類という種を危機にさらす行為なんだ。あと十年もすればジオポリスが完成する。人類という種を完璧に守る要塞が・・・そして、百年後には環境浄化システムにより、地球が蘇り始める・・・人類の未来のために、僕等の子孫のために、今は軽はずみな行動や言動は控えるべきなんだ。
玲奈　分かってるわ。でも私・・・ごめんなさい・・・
信　・・・すまない、つい怒っちゃって。疲れてるのかな・・・そ、そうだ、誕生日のプレゼントの話をしてたんだ・・・それで・・・

信へのサスがフェードアウトしていく。信自身も熟睡状態にゆっくり移行していく。代わりに玲奈への単サスが少しだけ明るくなる。

玲奈　林檎の木は・・・大きな林檎の木は・・・それから幾年月も少年が来るのを待ち続けました。
ある日、少年はひょっこりと木の前に現れました。少年は流れた歳月の分だけ成長していて、少し逞しく見えます。その姿を見て林檎の木はとてもうれしくなりました。ちょっとだけ逞しくなった少年が木に話しかけます、「住むための小さな小屋を建てたいんだ」木は答えます、「小屋を建てるなら、私のこの太い枝を何本か切っていくといいわ」そして、大振りの枝を数本、切りやすいようにちょっとだけ下の方へ少し逞しくなった少年はこっくりとうなずくと、喜んで枝を切り始めました。その笑顔からこぼれる白い歯を見ているだけで、林檎の木は十分に幸せでした・・・
わたしはあなたを見ているだけでうれしいし、そばにいるだけでとても幸せな気持ちになる・・・あなたがいるだけで十分なの、そのほかには何も要らない。誕生日のプレゼントも、婚約指輪も、ジオポリスも、百年先の青い海も、人類の輝ける未来も！　二人だけでここじゃないどこかへ飛んで行ければいいのに・・・ハリボテの天使の羽で電磁シールドも巨大コンピューターも無い所へ・・・わたしは大きな林檎の木。心も体も、細胞の一つ一つまですべてあなたの物・・・望むのなら、私のすべてを持っていってもいい・・・血の一滴も残さずに全部を持っていっていい・・・
・・・でも、分かってる。あなたが本当に欲しいものを、わたしは持っていないってことを・・・痛いほど、良く分かってる・・・

玲奈の最後の言葉とともに、舞台はゆっくりと暗転していく。

fragment 9 Toxemia of peek

中央医療センターの電算処理分室。鰓瀬と一堂が端末のモニターに食い入っている。

鰓瀬　ICU？

一堂　そう、集中治療ユニット。どうやらこの十七回の投薬ミスはすべてICUで起こっているようなんだ。そしてこれが、五年間のICUへの入院患者のリスト。

鰓瀬　全部で何人いるんだ？

一堂　約八千人。

鰓瀬　ひょーえー。ICUでもそうなのか？

一堂　この中央医療センターはこの都市で唯一の総合病院なんだ。集中治療ユニットの総数も八十室。それくらいないと、市民全体のケアは出来ないよ。で、このファイル一つ一つ見ていく？　まっ、時間はたっぷりあるからね・・・

鰓瀬　いや、やめとこ。まずは全体の傾向を見たい・・・

一堂　そう言うと思った。（リターンキーを一押しして）・・・これが『奇妙な五年間』のICU使用状況のチャート。入院患者ごとに収容日時、期間をプロットしてある。赤で示しているのが、投薬ミスのあった患者のバーチャートだ。

鰓瀬　えらく長い奴がいるな・・・

一堂　これ？　・・・これは心臓も呼吸も止まってたのを半年も生かし続けたって奴だね。さぞや名のあるお方なんでしょうね・・・この加藤さんって言うの。こいつのファイル詳しく見てみる？

鰓瀬　金持ちのご家庭を覗く趣味はない・・・

一堂　またまた、良い子ぶっちゃって・・・たまに覗き見でもしてなきゃ、かったるくてやってられないよ、この仕事・・・（画面をロールアップする）

鰓瀬　（ふと気付いて）おい、五年間の内に三度もICUのご厄介になってる奴もいるぜ・・・

一堂　ほんとだ。ウリノマイコさん・・・女だね。『病み上手の死に下手』って奴か？　病歴は・・・（キーを打って）反応性てんかん症で舌噛み切りそうになったみたいよ、大変だね・・・

鰓瀬　ウリノ・・・ウリノマイコ・・・

一堂　どうしたんだ、鰓瀬？　同級生か？（笑う）

鰓瀬　ウリノマイコ・・・どこかで聞いたことがないか？

一堂　あまり女性に興味はないんでね・・・

鰓瀬　（思い出して）そうだよ！　・・・一堂、こいつのファイルを出してくれ。

一堂　いいけど、でも・・・（キーを操作すると、モニタにカルテが現れる。）これだよ・・・（カルテに乗ってる顔写真を見て）うわ、ほんと『病み上手』って顔してるよ、こいつ・・・

鰓瀬　ウリノマイコ・・・お前知らないのか？

一堂　知らないよ・・・一体誰なの？

鰓瀬　通称マリエ・・・クマサンチームのリーダーだよ。

一堂　クマサンチーム！

鰓瀬　都市管理会議だろ、お前？

一堂　でも、部署が違う。君みたいに顔も広くないし・・・でも、クマサンチームは City からの落伍者がつくったって噂は本当だったんだ・・・

鰓瀬　噂じゃない、事実だ！　かのウリノ・コンサルティングの会長のご令嬢だ。五年前に捜索願いが出ているが、Under に逃げ込まれたら見つけようがない。

一堂　究極の親不孝だね。お父様も泣くに泣けないだろ・・・

鰓瀬　まあ、この事実が公になりゃ、お父様も泣く泣く辞任ってってところだ。・・・にしてもこいつ、蒼々たる病歴だな。

一堂　・・・反応性てんかん症で噛み切った舌の縫合手術。精密検査の結果、脳梁に腫瘍が発見され、即切除。・・・後に、箝搾子（クランプ）が脳に挿入されている。

鰓瀬　クランプ？

一堂　脳圧を弱めるためにね・・・それ以降、脳神経外科病棟で入退院を繰り返す。・・・電波が聞こえるようになったんだって。

鰓瀬　電波まで、聞こえちゃったか・・・（首を横に振る）

一堂　そして、最後のICUは・・・

鰓瀬　どうした？（モニタを凝視して）・・・『toxemia of pregnancy』ってなんだ？

一堂　妊娠中毒症・・・

鰓瀬　妊娠って？

一堂　妊娠七カ月、妊娠中毒症からけいれん発作を起こし、担ぎ込まれている。

鰓瀬　父親は？

一堂　不明？

鰓瀬　じゃあ、子供はIDレスか？

一堂　インビジブル、ヤオビクニによって認識されない子供・・・もし生まれていたらね・・・

鰓瀬　もし、生まれて？

一堂　堕胎処理がなされている・・・

鰓瀬　IDレスだからか？

一堂　IDレスだからと言って勝手に殺せるわけないだろ。妊婦自身の承諾が必要だ。ただこの場合は、重度のけいれん発作から母体を保護するためだから・・・　鰓瀬、反ヤオビクニ主義者対策本部はこのことを知っているんだろうか？

鰓瀬　たぶんな。俺たち以上に・・・ICU使用状況のチャートに戻してくれないか？

一堂　鰓瀬・・・

鰓瀬　もう覗き見はたくさんだろ・・・

舞台は急速に暗転する。

fragment 10 My favorite wiretap

一本のサスが舞台上のマリエを浮かび上がらせる。うつろな瞳で虚空に淡々と呼び掛けている。

マリエ　・・・ローザ、聞こえる？　信から連絡があったわ。ケルベロスの撃退と中央医療センターへの侵入の方法について・・・やはり、あなたの選択に間違いはなかったわ。いつだってそう、あなたは正しい。いつの頃かしら、あなたがこんな風に話しかけてくるようになったのは。五年ほど前？　私がまだ City で・・・息の詰まりそうなあの街で・・・幾多のリード線が心まで入り込んで、微弱な電流を放ち続けていた、機械のような生活に終止符を打てずにいたあの頃かしら？　いいえ、あなたはもっと前から私の中にいた・・・私があなたの言葉を理解できずにいただけ・・・悪戯にただ怯えていただけ・・・ローザ、私があなたをローザと名付けたその時から、私達の対話は始まった。あなたは私の心、裸の欲望、だから私の真実。ローザ、やっと来たのよ、あのMMDとの対決のときが・・・あなたが「機械の生活を捨てよ！　City を後にせよ！」と命じたあの新たな人生の始まりから、五年の時を経て・・・

そこにうるさい二人組が乱入してくる。

バーダー　いぇーい、マリちゃん。ヒップアタック！（と、マリエにヒップアタックを喰らわす）
ホルガー　こんな所にいたのかよ！
マリエ　ローザと話をしていてね・・・
バーダー　独り遊びが好きね？
マリエ　独り遊びじゃないでしょ！　それより、レナは？
ホルガー　ゼンジー商会に行ってる。最終打ち合わせの時間伝えに・・・
マリエ　そう。
バーダー　では、ホルガー。実況中継とまいりますか？
ホルガー　まいりますか！　（うれしそうに携帯ラジオのようなものを取り出す）
マリエ　実況中継？
バ・ホ　盗聴マイクを仕込んでみました！　・・・年ごろの娘を持ったパパの心境だね。
マリエ　パパはそんな卑怯なことはせんだろ・・・

舞台脇に信とレナ登場。信はヘッドセットを付け誰かと通話している。

信　だから、神林。俺を信じろよ。俺がお前をはめるわけがないだろ？　いいか、あす二十二時、おまえんところの端末に記録媒体つないどけ。高速な奴だぞ！　容量は二万ギガバイト・・・二万ギガ！　信さんからのスーパープレゼントだって・・・ご禁制の『医療情報』・・・今、ゼンジーが Under 中駆けずり回ってアクセプター募ってる。分かったな？　・・・危険

はないよ。しくじったときは「ごめんね」っていう8バイトのメールを送ってやる。頼んだぜ！　じゃあ、秘密回線閉じるぞ。いくぜ、3、2、1、カット！

レナ　信・・・

信　レナ、準備は着々と整ってる。すべてまかせろ。それから、クマサンチームの中で銃が一番うまい奴は誰だ？

レナ　どうして？

信　吸気ダクトの向うの通信ケーブルのノードに弾丸を打ち込んでもらわなきゃならない。吸気ファンの手前から・・・

レナ　吸気ダクトって下水管の先の？

信　そう。

ホルガー　（先ほどから聞き耳を立てていたが）ってことは・・・

バーダー　下水プールでスイミングってこと？

バ・ホ　やだなー。

ホルガー　（やおら携帯ラジオに向かい）レナ、一番の銃の使い手はバーダーだ！

バーダー　アホ、こっちからあっちにゃ聞こえねーだろ！

レナ　んー、ホルガーかな・・・

バーダー　（笑う）

レナ　やっぱ、バーダーかな？

ホルガー　（笑う）

レナ　んー、どっちだろ？

バ・ホ　レナ、ホルガー（バーダー）だ！　って、こっちからあっちにゃ聞こえねーって言ってるだろ、このアホ（バカ）！

バーダー　バカだあ？　てめえ、おいらの中国拳法の餌食になりてえのか？

ホルガー　望む所よ！（ガシッと手を組み合う二人）

バーダー　おいらと力比べなんざ百年はえーぜ。「ぺきっ」って、手の骨折れたかもしれない・・・

ホルガー　大丈夫か、バーダー？（心配そうにのぞき込む）

バーダー　（拳銃を抜きホルガーの喉元に突きあてる）・・・甘いね、ホルガー。さてグンジさんの採点は？

ホルガー　十対十のイーブン・・・

バーダー　なんで？

ホルガー　お前『こ狡い』から・・・

マリエ　（じっとバカ二人を眺めていたが、肩に手を置き）お前ら二人で泳げ・・・

バ・ホ　シクシク・・・（膝小僧を抱えて泣く）

信　（ふと、レナのピンブローチに気付く）・・・お前、まだそれつけてたのか？　そのブローチ・・・

レナ　産まれて初めての男からのもらい物だから・・・

信　でも、それは・・・

レナ　知ってるよ。盗聴器だろ？

信　　・・・・・・
レナ　　バーダーが発見して壊しちゃったのを、ホルガーが外見だけ作ってくれたの・・・
ホルガー　実は盗聴器入りなのよー。
レナ　　(ブローチを取り、凝視し、そしてけげんそうな顔をするが・・・すぐ笑顔を作り)信、でも、あたしほんとにうれしかった・・・だから・・・信、こっちへ来て・・・
ホルガー　バーダー、来た来た！
バーダー　やはり、狙いどーり・・・マリちゃん、はやく、こっちこっち・・・
三人　　(どきどきしながら、携帯ラジオに耳を近づける)
信　　レナ、俺・・・
レナ　　信・・・(顔を寄せ、唇に指を当てて)唇を閉じて・・・
三人　　(ごくりと唾を飲み込む)
レナ　　(ゆっくりと息を吸い、ブローチに向かって叫ぶ！)・・・わっ！
信　　(驚いて)どうしたの？
レナ　　ちょっと気になってね・・・(何喰わぬ顔で、ブローチを胸に着ける)
三人　　(放心した笑顔で)耳、きーん・・・(はっとして、指を一本突き出し)よいこは盗聴なんかしちゃだめだぞ！

唐突に顎が外れたかのように、舞台はガクーンと暗転する。

fragment 11 Ill-posed problem

モニターの前にインカムをつけたゼンジー。傍らで信がラップトップをいじっている。

信　（にこにこしているゼンジーに）ゼンジー、にやにやすんな！　あんたは更年期障害に心底悩んでる中年って設定なんだから・・・役作り！

ゼンジー　分かってるあるよ、信ちゃん！　ゼンジー、演技は上手いね。お・ま・か・せあるよ！　・・・ところで信ちゃん、「医療センターの健康ダイヤル」って言ったら、やっぱりオペレーターは若い女の子あるか？

信　（ラップトップをいじりながら、面倒臭そうに）ああ、そうじゃねーか。そんなのにかかってくるのは、City の孤独なおっさんからだけだろから。

ゼンジー　それは、楽しみあるね。おねいちゃんとお話できるあるね・・・

信　おねいちゃんって言ったって、どうせコンピューター上のバーチャルおねいちゃんだぜ、八割方！

ゼンジー　バーチャルおねいちゃんでも、おねいちゃんはおねいちゃんね！

信　分かってんのか、ゼンジー？　遊びじゃないんだぞ！

ゼンジー　分かってるあるよ。（でもにこにこしている）

信　だから、にやにやすんな！

ゼンジー　（それでも、にこにこしている）

信　（怒る気を失せて）・・・OK！　City のテレコムネットに入り込めた。ここを経由して「健康ダイヤル」に回線を接続する・・・行くぞ、ゼンジー（ラップトップからダイヤルインする）

ゼンジー　（にこにこしている）

信　ゼンジー・・・

シンプルビープが鳴り、映話が繋がる。唐突にモニターに白衣を着たおじいちゃんが登場する。快活な必要以上にでかい声が響きわたる。

「はい！　こちらは、中央医療センター、健康ダイヤルですっ！」

モニターの前で凍りつくゼンジー。だが、すぐに我に返り・・・マイクを手で遮り、受像カムから顔を外し、信に訴える。

ゼンジー　（とても悲しそうな顔で）おねいちゃんじゃ、ないあるう、うっうっう・・・

信　（小さな声でたしなめる）泣くな！　続けろ・・・

おじいさん先生の元気の良い声が響きわたる。

映話　・・・もしもし、どうしました？　どうしましたか？

ゼンジー　（泣いてばかりもいられないので、映話に話しかける）・・・なんでもないある。でも、おねいちゃんが出るもんだとばっかり・・・

映話　はっはっは、若い女の子と話したいのなら、アドレスが違ってますぞ。
ゼンジー　（何だか腹立って）そんなこと分かってるある！　ロボ太君にそんなこと言われたくないある・・・
映話　ロボ太君？　はっはっは・・・私の名前は田中芳之助と申します・・・
信　（ラップトップを見ながら、ゼンジーにOKサイン）・・・反応速度、0.86 秒。音声周波数、平均 9.35Hz 上昇・・・
ゼンジー　ごめんなさいある。ロボ太君じゃなく、何と呼べばいいあるか？
映話　ん一、みんなは私のことを芳之助先生と呼んでおるね。
信　周波数変調分析、生理学的反応速度解析進行中・・・
ゼンジー　芳之助先生・・・何か厳めしいあるねえ、よっしーの方がよくないあるか？
映話　はっはっは、よっしーとはこりゃまた一本取られたね・・・それで、何が心配なのかな？
信　チューリング・テスト終了。・・・おっけー、『芳之助先生』が血の通った人間である確率は0.05％以下・・・作戦続行。
ゼンジー　実は最近・・・胸がきゅんと痛くなって、呼吸が乱れることが良くあるのね・・・
映話　胸がきゅんと？　それはどのような時にかの？　まさか若い娘を見た時にじゃ、あるまいの？
ゼンジー　なぜ、分かったあるか・・・
信　その調子で引き伸ばせ・・・モデムポート接続。音声カプラー準備。
映話　はっはっは・・・それは、恋じゃよ・・・
ゼンジー　やっぱし恋あるか・・・
映話　・・・なんてね。冗談冗談。ま、肋間神経痛じゃろ。
ゼンジー　神経痛？
信　音声カプラー接続完了。コンバート開始。今から『芳之助先生』にハッキング・プログラムをぶち込む。
映話　最悪、心臓病の可能性もあるが・・・
信　転送・・・

芳之助先生の言葉が止まり、映話の画像が一瞬停止する。

信　終了。
映話　（再び、何事も無かったように動き出す）・・・まあ、どうしても心配だというなら、中央医療センターの内科検診プログラムをお受けなさい。
ゼンジー　そうあるか、早速受けてみるあるよ。
映話　はっはっは・・・転ばぬ先の杖。定期検診は健康維持の基本じゃぞ。では、そういうことでの・・・また心配事があったら、今度からは私に直接連絡なさい。アドレスは「芳之助＠びっくり・健康ダイヤル・CMC」じゃ！
ゼンジー　芳之助先生、ありがとうあるよ。なんか胸のつかえがすっと取れた感じね・・・
映話　では、おだいじに・・・またの一っ。

ビープ音。映話が切れる。信、「ログアウト・・・」と呟き、額の汗をぬぐう。ゼンジーもやっと緊張から解放される。

信　　とりあえず成功だな・・・この隠されたプログラムは動き出すまで誰の目にも留まることはない・・・当然ケルベロスにもな。そして動き出したその時がケルベロスの最後だ。ぶち込まれたそいつはMMDハッキング・プログラム！

ゼンジー　・・・その日、MMDのシステムに侵入し極秘ファイルを漁る悪者をケルベロスが追いかけていったら、そのハッカーは、な、な、な、な、なんと！

信　　健康ダイヤルの芳之助先生！　・・・ぶったまげるだろうな、ケルベロスは・・・だって健康ダイヤルはMMDの従属プログラムだもんね。犯罪者を撃退しようと・・・

ゼンジー　他のすべてのゲートを閉じて・・・

信　　その回線だけを独立させ・・・

ゼンジー　逆相パルスを発生させようとしたその刹那！

信　　その回線の向うから、微かに聞こえる声がする。

ゼンジー　「もしもし、田中芳之助です。芳之助先生と呼ばれています」

信　　ケルベロスは悩んじゃう。これは身内だ！　でも破壊すべきなのか？

ゼンジー　どれくらい悩むあるか？

信　　長くて数秒。

ゼンジー　たった数秒あるか？

信　　不良設定問題が生じた場合、だいたいそれぐらいの時間で上位アーキテクチャーに判断がゆだねられる。でも、数秒もあれば、ばっちりOKよ！　そんだけあれば、その独立回線にこいつをぶち込める。（弾丸を取り出す）

ゼンジー　それはEMPブリットあるか？

信　　ちょいと違う・・・理論弾丸、ロジック・ブリットだ。回線を切断するとともにそれを支配しているケルベロス・プログラムにインタラプト・コードをぶち込める・・・

ゼンジー　不正な割り込みコードあるね？

信　　これでケルベロス・プログラムは身動きが取れなくなる。狂犬はオルフェウスの子守唄でぐっすりおやすみってわけ・・・

ゼンジー　ヘラクレスに首締められて失神って感じあるよ。

信　　いずれにせよ、俺たちはケルベロスに勝つわけだ。だっはっは・・・

ゼンジー　だっはっは・・・って、そんなに上手く行くあるかね？　ゼンジー、ちょっと心配・・・

信　　おいおい、ゼンジー。今の健康ダイヤルへの侵入だって上手く言ったじゃん。

ゼンジー　でも実際は、ケルベロスが来るかと思ってちょっとひやひやしてたあるね。

信　　ちっともそんな風には見えなかったぜ！　でも、健康ダイヤルはMMDの従属プログラムだから見つかってもおかしくなかったかもな・・・、運悪く見つかってたら今ごろ俺たちハンバーグになってたぜ・・・

ゼンジー　ひょえーっ！　そんなことになったら、泣くに泣けないある。

その時、唐突に背後から突っ込み。エリザ嬢だ！　あっ、羽生えてる！

エリザ　・・・ハンバーグが泣けるわきゃねーだろ！　このぼんくらがあ！
信・ゼ　（驚いて振り返り）エッ、エリザお嬢様！
エリザ　（いつもの〝いかりや〟風で）ういーす・・・
信　（小声で）ゼンジー、お前電源入れっぱなしにしてたのか？
ゼンジー　信ちゃん、ごめんね・・・忘れちゃった。
信　注意しただろ、ヤオビクニに繋がりっぱなしだって・・・（と電源を落とそうとする）
ゼンジー　ちょっと待って、信ちゃん。
信　ちょっと待って、信ちゃんって・・・あっ、お前確信犯だな！　わざと切らなかったな！
ゼンジー　いや、それは違うある。その、あの・・・（しどろもどろになる）
エリザ　そうよ、わざと切らなかったの・・・
ゼンジー　エリザちゃん、しー、しー（と、唇に指をあてる）
信　いいか、ゼンジー。確かに、コーパスはオープン・データベースで City にある何十万何百万という端末のすべてがアクセスしている。だからこのエリザもたった何百万分の一なのかもしれない。だがな、ヤオビクニと繋がっている以上、ハッキングがばれるおそれはゼロではないんだ！
エリザ　ゼロではないけど、ゼロに極めて近いんじゃないかな、それ？
信　（エリザに）鋭く突っ込むな！　・・・ってこれを怒鳴っても仕方ないんだった。（ゼンジーに向き直り）とにかく、俺たちアンダーグラウンドのテクは慎重にならなければならないいんだ・・・慎重にな。
エリザ　そうだそうだ！　慎重が一番だ。だけど、シンチョウもいいが体重も気を付けろよ、ゼンジー！
信・ゼ　だっはっは・・・
ゼンジー　だっはっは・・・やっぱり、体重気にして『えあろび』やるあるか？
信　・・・って、笑ってる場合じゃないんだって！
エリザ　そうだそうだ！　うかうかしてると・・・（突然苦しみ始める）ううっ、わたしの中に・・・わたしの中に何かがはいって来るう！　・・・がくっ（気を失ったみたい）
ゼンジー　エリザちゃん！
エリザ　・・・えりざ？　それは誰のこと？　私はヤオビクニ・・・ゼンジー東京、あなたを違法データアクセスの容疑で逮捕します。
ゼンジー　げっ！
エリザ　・・・と、玄関から都市管理会議のディテクティブの声！「ゼンジー東京、ここを開けなさい！　さもないと、強制突入するぞ！」・・・ぎゅいーん！　エンジンカッターの咆哮が Under の静寂を切り裂いた！　火花が散る。「融けた鉄の香りは血の臭いに似てる」あまりの恐怖に瞳を閉じながら、エリザはそう思ったわ。目を開くと、煙の向うに武装した屈強の男達が立っているのが見えた。ゼンジーが叫ぶ・・・

ゼンジー　（ついノっちゃう）私じゃないある。このミミック作ったの、この男ある！
エリザ　　指さされて、信は我を失って叫んだわ・・・
信　　（ついノっちゃう、この人までも）ゼンジー、ちょっと待てよ。てめえさえ助かりゃいいのかよ！
エリザ　　「やめて、二人とも！　こんな私のために争うのはやめて！　私達は家族じゃないの・・・」
家族・・・その言葉を聞いてみんなの動きが止まる。「ゼンジー、信、さあ、こっちへ来て。
そして、肩を抱き合って唄うのよ。

信・ゼンジー、エリザの方へ駆け寄り、そして肩を組む。

エリザ　　さあ、みんなで歌いましょ・・・家族の愛の証しの歌！　ドリフの「いい湯だな」！
信・ゼ　　ばばんばばんばんばん・・・てなんでだ！
信　　ぷちっ！（と、背中のメインスイッチを押す）
エリザ　　ここからなのにい・・・ざんねん・・・（止まる）
信　　（けげんそうにゼンジーを見る）消しちゃった、うるさいから・・・
ゼンジー　（すまなそうに）わたしも賛成ある・・・

舞台もまた、すまなそうにゆっくりと暗転するはずだ・・・

fragment 12 Some discrepancy between these mainframes

中央医療センター電算分室。
一堂はキーボードを叩き、コンピューターと格闘中。鰓瀬はその傍らでICU使用状況のプリントアウトを眺めている。

一堂　（モニターから目を離さず）・・・何百時間そのプリントアウト見つめてるつもり？
鰓瀬　・・・・・・（プリントアウトに釘付けになっている）
一堂　鰓瀬。そいつを穴の開くほど見つめてれば、答えが浮き上がってくるって言うのか？
鰓瀬　浮き上がってくるんじゃない、きっと・・・
一堂　なんで、君はそう他人事のように言うわけ？　学校でそう教えてくれたわけか？
鰓瀬　（赤鉛筆でプリントアウトにチェックなんぞを入れながら）・・・一堂、お前、何怒ってんの？
一堂　検索プログラムが引っ掛かったの！
鰓瀬　バグ？
一堂　違うよ！　たぶん。プログラムは信頼のおけるソースコードを使ってるんだから
鰓瀬　そう・・・
一堂　きっと、データ側の問題じゃないかと思って・・・今それ探してんの。ほんといらいらする・・・
鰓瀬　そうかっかしない・・・
一堂　あのね！　君に言われたとおり「妊娠」ってキーワードで検索かけてたら、こうなったんだよ・・・
鰓瀬　なんだって？
一堂　「に・ん・し・ん」・・・君が中絶についての相関を調べようなんて思い付きで言うからさ・・・
鰓瀬　思い付きじゃないよ。
一堂　あの『奇妙な五年間』に行われた中絶手術は確かにそれ以外のときに比べ若干多い感じだったよ。だから、妊娠の数と比較しようと思ったんだ。
鰓瀬　ふーん。・・・ところで、このICU使用状況の通し番号ってさ、病室のナンバーじゃないの？
一堂　・・・ないよ。
鰓瀬　なんで？　病室ごとに並べればいいじゃん。
一堂　あのね、一人の患者が一つの病室とは決まってないの。ここのICUは基本的にはどの部屋も設備は同じなんだけど、一つ一つが少しずつ特殊化されてんのよ。患者の容態が変化したら、例えそこに一晩しかいなかったとしても、それに見合った別の部屋にオートストレッチャーが運んでいくの、自動的にね。
鰓瀬　なんでそんな面倒臭いことを？
一堂　患者の容態の急変に合わせて部屋ごとに対応するより、それぞれに特殊化した部屋に患者運んじゃった方が効率いいと判断したんじゃないの、MMDがさ。この大半が自動化された中央メディカルセンターでは機械が医療を行う、ICUの一部屋が一人の医者なんだ。MMDは何事にも万能な医者を八十人そろえるより、様々なエキスパートを八十人取

りそろえた方がいいという結論に達したんだよ。

鰓瀬　すごいね、MMDは・・・よくごちゃごちゃになんないね？

一堂　そうだよ。コンピューターはそのような管理能力に優れてるの、人間がそれやろうとしたら頭パンクするだろうけどね。

鰓瀬　そんな優秀な管理能力を有するMMDがどうして投薬ミスなんかしたんだろうね？

一堂　だから、それを調べてるんでしょ、僕たちは・・・入院患者の中には日に三度部屋替わってる奴もいるんだよ！　だから、そんな病室ごとのバーチャート作った所で、ごちゃごちゃでますます理解不能になるだけさ・・・

鰓瀬　そうかな？

一堂　そうだよ。

鰓瀬　・・・一堂。俺、使用状況のチャート眺めてて一つ発見したことがあるんだ。投薬ミスが集中して起きた『奇妙な五年間』には八十部屋あるICUが一度も満室になったことがないんだ。

一堂　その五年間の入院患者数が少なかったからだろ？

鰓瀬　いや、入院患者数、ICU使用の総時間数ともそれより前の五年、あとの五年と比較してみたが、差はなかった。『奇妙な五年間』以外の年では例外なく一年に六回から十一回のICUの満員御礼があるのに、その五年間の間はたったの一度も満室になったことがないんだ。おかしいとは思わないか？

一堂　何を言いたいんだ、鰓瀬？

鰓瀬　（一堂の顔に自らの顔をくっつけるかのように）・・・一部屋少ない七十九室の使用が『奇妙な五年間』で合計三十八回。まるで、「これで打ち止め！」って感じで・・・

一堂　だから、なにが・・・

鰓瀬　誰かがICUの一室を無断使用していた・・・丸々五年間、都市管理会議にも、誰にも知られずに・・・その五年間、MMDはICUの数を八十としてマネージメントしていた、だが実際使用可能だったのは七十九室。その食い違いが起こり得るはずのない投薬ミスの引き金になっていたんだ。

一堂　そんな、馬鹿な・・・

鰓瀬　とにかくどんなに難解なチャートになろうと、病室ごとの使用状況をまとめるんだ。そうすればはっきりと分かる。

一堂　ちょっと待って。第一誰かがこっそりそんなことしたんなら、MMDから都市管理会議に報告があるはずだろう？　それに、ログファイルにだって足跡が残るはずだ。

鰓瀬　MMDを騙し通して、且つログファイルの改竄が出来る奴がこの世の中に一人だけいる・・・

一堂　Under の性悪ハッカーか？

鰓瀬　ここにはケルベロスがいるだろ？

一堂　・・・クマサンチームのあの女か？

鰓瀬　（笑う）なぜ？

一堂　まさか、きみは・・・

鰓瀬　そう。・・・・ヤオビクニだ。
一堂　どうして！

端末がビープ音を放つ。びっくりしてモニターを見つめる二人。

一堂　（ドキドキしてる）・・・なんでもない。さっきかけてたログファイル上のゴミのサーチが終わった合図だよ・・・やっぱりログファイルにゴミがある。これに引っ掛かったんだ。くそったれ！（と、デリートしようとする）
鰓瀬　（一堂の手を抑え）待て！
一堂　どう見たってナンセンスコードだろ？　きっと、MMDからのコピー時にエラーが起こったんだろ。何せ、こんな化け物みたいにでかいデータだから・・・
鰓瀬　言ったはずだ。このログファイルは奴によって改竄された可能性があると
一堂　・・・だって、これ見てよ。前のファイルと後の奴のはちゃんと通し番号になってるし・・・ほら、こっちが3012で次のが3013でしょ・・・
鰓瀬　奴なら、思うがままだ。・・・機械語のようにも見えるな。デコンパイルしてみろ？
一堂　どうして君はヤオビクニの所為にするんだ？　あれはただのコンピューターで、そんなことをするはずは・・・きみはやっぱりおかしいよ・・・
鰓瀬　このゴミがすべての謎を解く鍵のような気がするんだよ。
一堂　とにかく、本部に報告を・・・（焦って、キーを打とうとする）
鰓瀬　（一堂を制して）まずはこのゴミの解析と病室ごとの使用状況のチャートだろ・・・報告はそのあとだ。
一堂　（何かに怯えて）鰓瀬、僕は・・・
鰓瀬　怯えるな。どんな結果が出ようと、それが真実だ・・・

鰓瀬が少し震えている一堂の肩を後ろから抱き締める。
舞台が音も無く暗転する。

fragment 13 Dance the ghost with me

信の声が暗やみの中に静かに響き始めている。

信　俺たちの神経繊維のパルスの伝達速度はたかだか秒速百メートル程に過ぎない。しかしコンピューターの神経繊維、いや、回路内の伝達速度は秒速三十万キロメートル。俺たちの三百万倍だ。ヤオビクニのガリウム-ヒ素立体集積回路と俺たちの百五十億個の神経細胞からなる脳味噌と情報処理のパターンが異なっているだろうから直接比較は出来ないが、とにかくヤオビクニの反応速度は人に比べ比較にならないほど速い。俺たちは今からとてつもない反射神経を持ったシステムアドミニストレーターが管理するホストコンピューターにハッキングすることになるんだ・・・

舞台がカタツムリの歩みのようにゆっくりとしたスパンで明るくなってきている。舞台中央にはラップトップを抱えた信、その傍らにレナ、そしてマリエ。上手にゼンジー、それを見守るエリザ。下手でバーダーとホルガーが狙撃銃のような武器（高精度狙撃用ライフル: Cyber H&K MP5 Snipe Model designed for use under the exceptional sniping conditions, manufactured by Zenzie & Co.）を三脚架に取りつけている。全員頭にヘッドセットをつけている。

信　唯一の救いはケルベロスの存在だが・・・
マリエ　ケルベロスが救い？
信　そう、ケルベロスは超強力な侵入撃退プログラムだ。ハッカーの間でのその噂はもはや『恐怖神話』と言っていい。そんな刺の生えた鎧を羽織ったMMDを襲撃する奴なんかいるわけがないとたかをくくってるんじゃないかと思うんだ・・・
レナ　ヤオビクニが？
信　そう・・・（自嘲して）擬人化してるな、俺。でも、ハッキングはシステムアドミニストレーターとの心理戦みたいなものだからね、どうも勘違いしちまう。・・・とにかく、ケルベロスを退治できればMMD突破は赤子の手をひねるも同然だ。
マリエ　本当に大丈夫なのね？
信　たぶんね・・・
マリエ　たぶん？
信　俺は百%の自信があってもそう言っちゃう達なの・・・（時計を見て）そろそろ時間だ。テレコムネットの『パーティーライン』にアクセスする・・・（キーを叩く）これからの通信はこの『パーティーライン』を使う。複数で同時会話が出来、その上秘密漏洩・逆探知の恐れは皆無って言うナイスサービス。ペドフィリアのおやじが Under の『肉屋』に生きた幼女の水揚げ情報ねだるのに使われるぐらいだからな・・・
レナ　鬼畜だね・・・
信　（ヘッドセットを掴み）・・・こちら、パーティーライン0058。今日は『美味しい犬肉料理』に

ついてのトークだよ。・・・おい、バーダー聞こえるか？

バーダー　聞こえてるよ、クチャクチャ・・・

信　スイミングはどうだった？

バーダー　もうサイコー。透き通るぐらいきれいな水でさ・・・クチャクチャ・・・

レナ　なにクチャクチャしてんだ？

バーダー　泳いでるとき、汚水三回飲んじゃってさ。気持ち悪いからガムかんでんの・・・

信　準備は？

バーダー　万全！

マリエ　ホルガーは？

バーダー　泳ぎ疲れて寝てる・・・

マリエ　起こせ！

バーダー　マリちゃんきついな・・・ホルガー起きろ！（蹴る）

ホルガー　んっ？　なになに？

マリエ　ホルガー

ホルガー　あっ、マリエ、おはよう！

マリエ　おはようじゃないだろ！

ゼンジー　信ちゃん。

信　あっ、ゼンジーさん、おひさしぶり。

ゼンジー　作戦は時間通り行うあるか？

信　行うあるよ・・・みんな準備はOKだよな？

全員　（答える）

信　作戦の開始は今から三分後。時計を合わせる、三、二、一、セット。最終確認だ。ゼンジー、『健康ダイヤル』へアクセスしたら、俺が合図で、仕組んどいた『MMDハッキングプログラム』を始動させろ。コマンドは？

ゼンジー　『オルフェウス』あるよ。

信　OK！　ケルベロスが動き出し、ハッキングプログラムに向けて攻撃しようと、すべてのノードを閉鎖したら・・・

バーダー　EMPブリットで吸気ファンを打ち抜き・・・

ホルガー　俺がその閉鎖回線にロジックブリットをぶち込む。（スコープを覗き）トモグラフィック・スコープの調子は上々。通信ケーブルのノードが手にとるように見えるぜ。

信　たったこれだけで、ケルベロスは眠りに落ちる。

マリエ　回路は閉鎖されているから、ヤオビクニにばれる恐れはない・・・

信　そこで裸になったMMDの中核にグリッチ・システムをたたき込む。

レナ　グリッチ・システム？

信　非常通用口のセキュリティ・システムに夢を見させる似非プログラム。バイオセンサーが受け取った情報を片っ端から飲み込み嘘の情報を吐き出す。

レナ　嘘の情報？

信　いったん正常時の状態を記録し、それを様々に変化させてセキュリティ・システムに伝え

る。つまり、こいつが起動している内は非常通用口で何が起ころうと異常警報は鳴らないって訳・・・

マリエ　つまり、侵入し放題ってことね。

信　そう、一時間だけ・・・

マリエ　一時間？

信　グリッチ・システムは一時間後自動消去される。でも、そんだけあれば十分だろ？

ゼンジー　信ちゃん？

信　なんだ？

ゼンジー　信ちゃん、ケルベロス退治の弾丸は芳之助先生も殺しちゃうってことはないあるか？

信　殺す？　芳之助先生はただのプログラムだ、人じゃない・・・

ゼンジー　でも、芳之助先生が可哀想ある・・・・

信　ゼンジー、大丈夫だ芳之助先生は死なないよ。

ゼンジー　ほんとあるか？

信　ほんとあるよ・・・

レナ　（時計を見て）信、時間よ。

信　じゃあ、行くぜ。作戦開始！　Dance the ghost with me・・・

叩きつけるように『とてもかっこいい音楽』が響きわたる。
信の指令、「ゼンジー、『健康ダイヤル』へアクセス！」
頷くゼンジー。舞台上に投影式モニターの映像。

_yoshinosuke@bikkuri.kenkodial.cmc.
_connecting to ...
_connected successfully

モニター上に芳之助先生が現れる。

映話　はい！　こちらは、中央医療センター、健康ダイヤルですっ！！（元気いい！）

ゼンジー　こんにちはあるよ、芳之助先生。

映話　はい、こんにちは。今日はいかがいたしましたか？

信　ゼンジー！

ゼンジー　芳之助先生？

映話　はい？

ゼンジー　『オルフェウス』・・・

芳之助先生の画像が急に止まる。そしてゆっくりとディゾルブ・・・モニターには以下のプロンプトが一行ごとに高速度で表示される・・・

Execute "MMD hacking program"
_searching the destination for connection
_connecting to ...
_User ID: the City Tax Board
_Pass: fujm2iaop
_Welcome to CMC Customer Service
WARNING
Your PASS has expired
_Update Pass: DANCEtheGHOST
CONNECTED VIA "NODE 42"

信　MMDにノード四十二でアクセス。ホルガー、見えるか？
ホルガー　ばっちり！　いい位置だ。あんたが撃ってもあたるぜ！
信　・・・侵入するぞ！

_cd/ Medical DB/ MMD
_waiting...
Intruded into the SYSTEM
WARNING
KERBEROS PROGRAM was EXECUTED

信　ケルベロスが動き出した！　ホルガー、バーダー、準備！　合図を待て！

バーダーは拳銃を挙げ前方に狙いをつける。まだガム噛んでやがる。
ホルガーも狙撃銃を抱え、左目を目隠してスコープを覗き込んでいる。
モニター上にプロンプトが走る・・・

_KERBEROS detected the TRESPASSER...
_LOCK/ Shut down the other nodes...

信　回路閉鎖！

_preparing for COUNTER-ATTACK

信　バーダー、今だ、吸気ファンを撃て！

バーダー、吸気ファンを撃つ。ファンの回転がゆっくりになる。
耳をつん裂くビープ音！　モニター上では以下の警告が明滅を繰り返している・・・

ILL-POSED PROBLEM was OCCURRED
Investigate the TRESPASSER again

信　ケルベロスがぶっぱまった！　今だ、ホルガー、ロジック・ブリットをぶち込め！

しかし、ホルガーが撃たない・・・

信　どうした、ホルガー？
ホルガー　ターゲットがファンのちょうど影になってて・・・
信　何言ってやがる、撃て！
ホルガー　これじゃ、弾が跳ねる。後少し、後十度・・・

ファンの影がゆっくり移動している・・・

信　早くしないと、閉鎖回路が開く！
マリエ　ヤオビクニに見つかる！　ホルガー、早く！！
ホルガー　もう少し・・・
レナ　回路の解放まで後三秒・・・二・・・
信　ホルガー！
レナ　ー・・・

ファンの影がゆっくり移動し、光がホルガーの顔に差し込む。

ホルガー　見えた！

狙撃銃が火を吹く・・・そして沈黙。
何事もなかったように画面に芳之助先生がゆっくりと浮かび上がる・・・みんなの不安をよそに軽妙に話し続ける芳之助先生。

映話　ところでその胸の痛みはどのようなものですかの？　きゅーんと締めつけられる感じ？
それとも背中から手を突っ込まれて心の臓をぎゅっと握り締められると言うか・・・ちょっと、どうしました？

モニター上に、「MISSION: COMPLETED」の表示

信　・・・成功だ。ケルベロスは眠った。

全員ほっとし、汗をぬぐう。

バーダー　（ホルガーを小突いて）・・・お疲れさん、ガム噛む？
映話　　どうしました？　もしもーし・・・
信　　ゼンジー！
ゼンジー　（放心していたが、芳之助先生に気付き）・・・あっ、あう？　よかったある・・・
映話　　・・・なにがよかったのですか？
ゼンジー　（嬉しそうに）芳之助先生、生きていたあるよ・・・
映話　　何を言っているんですか？　私はずーっと生きていますよ。

信がキーボードを打つ。
モニター上にオーバーレイされるプロンプト・・・

_connecting to...
_User ID: the City Tax Board
_Pass: DANCEtheGHOST
_Welcome to CMC Security System
CONNECTED VIA "NODE 21"
_process/privilege/security
_cmkrnl/ priority comannd "glitch"

信　　グリッチ・システムをぶっ込む・・・

THRUSTING "GLITCH SYSTEM" INTO...

モニター上でコマンドラインが高速度でスクロールする。

映話　　・・・どうやら、相当ストレスが溜まっておるようですな。ここはひとまず、総合的なカウンセリングを受けてみたらどうじゃろ？

COMPLETED
Under dominion of the "GLITCH SYSTEM"
logout...

信　　完了。これでセキュリティシステムはお休みになられた。ヤオビクニの監査の気配もない。
ゼンジー　・・・分かったある、芳之助先生。今度暇作って、検査受けにいくあるね。
映話　　はっはっは・・・そうじゃそうじゃ、それが一番。それから、定期検診も忘れずにの。転ばぬ先の杖。定期検診は健康維持の基本じゃぞ。では、そういうことでの・・・またのーっ。（切

れる）

信　ゼンジー、ごくろーさん。

ゼンジー　びくびくだったあるよ。

信　では、第二段階。中央医療センターに侵入だ。さっ、行きますか、マリエ先生？

立ち上がる信。マリエとレナは白衣を羽織っている。

マリエ　ええ。・・・バーダー、ホルガー生きてる？

バ・ホ　生きてるよ。（ガム噛んでる）

ホルガー　分かってるって。ノードの修繕が終わったら、電算処理室で合流だろ？

バーダー　それより、足手まといになるなよ、マリちゃん・・・

レナ　グリッチ・システム消失まで後五十六分・・・

マリエ　急ぎましょ、信。

信　ああ。（出ていこうとする）

ゼンジー　信ちゃん、気を付けるあるよ。

信　分かってるよ、ゼンジー・・・

信・マリエ・レナ、退場。ホルガー・バーダーは狙撃銃の撤去を開始。

バーダー　・・・さてと、電気工事だぜ、ホルガー。（まだ噛んでる）

ホルガー　分かってるよ・・・（不味そうに噛んでる）

バーダー・ホルガー退場。舞台の上にゼンジーと、それからエリザが残る。

ゼンジー　（独りごちて）・・・あのケルベロス封じ込めたあるよ、これは凄いことある。病院のセキュリティだって殺せたし、それに芳之助先生も生きてた・・・でも、何でこんなに不安あるか、ゼンジーなんでこんな不安あるか？

エリザ　・・・心配性だね、あんた？

ゼンジー　そうある。心配性あるね、ゼンジーは・・・

エリザ　万事上手く言ってるぜ。

ゼンジー　万事が上手く行きすぎてるような気がするあるよ・・・だからかえって恐いある・・・

エリザ　何が恐いんだ？

ゼンジー　良く分からないあるよ。ただ、信ちゃんがこのまま帰ってこないような気がして・・・

エリザ　おいおい、信ちゃんの作戦は完璧だし、クマサンチームだって・・・

ゼンジー　そんなことじゃなく・・・信ちゃんがたった一人で雑炊屋行ったり、買い物行ったりするだけですごく心配になる。雑炊喰って腹一杯になった信ちゃんが、電子部品のたくさん入った紙袋を持った信ちゃんが・・・Under の目抜き通りで、屋台のひしめく路地裏で、不意に・・・何の前触れもなく不意に、忘れていた記憶を取り戻す・・・そして、信ちゃん、ゼン

ジーの知らないところに行ってしまう・・・恐いあるよ、そんな風に信ちゃんが消えてしまうのが恐いあるよ。だって、信ちゃん、きっと、City のテクあるよ。ちゃんと教育受けたテクあるよ、だから・・・

エリザ　ゼンジー？

ゼンジー　・・・・・・（初めて、エリザの方を向く）

エリザ　・・・あたしがいるだろ。

暗転。ゼンジーの不安が暗闇に浸透し、そして劇場を満たす。

fragment 14 101 puppies set the Under free

信、レナ、そしてマリエが立っている。

信　・・・ここが電算処理室か？
マリエ　ええ、そう。でもすごいわね、あなたは。ほんとにセキュリティ・システムが眠っていたわ。
信　あたりまえだろう、気弱な俺が危険を冒すと思うか？
レナ　十分危険だろ？　こんな所に入り込んだ時点で・・・
信　誰も入り込んじゃいない・・・City じゃ機械が認識したことだけが真実なんだ。機械には俺たちが見えない・・・さてと、ケルベロスでも探すとするか・・・

信、テーブルにラップトップを置きケーブルを結線する。

レナ　ケルベロスって・・・
信　今回の作戦にはこのケルベロスが重要な鍵を握っててね・・・優しく起こしてやらないと・・・
レナ　起こすって、お前。せっかく苦労して眠らせたのに、何する気なんだ？
信　そいつに医療情報を運んでもらうんだ、Under までね・・・
レナ　でも、殺人プログラムだろ？
信　だから牙を抜いてやるんだ・・・今からシステムに入り込むぜ。もしヤオビクニに発見されたら、せっかくぶっ込んだグリッチ・システムまで見つけ出されて、たぶん数秒後には警報が鳴り響くことだろう。そしたら、（手で拳銃の形を作り）EMPでドアのロック撃ち抜いて逃げるんだ。都市管理会議が踏み込んでくるまでは間があるだろうから・・・
レナ　（心配そうに）発見される可能性は？
信　ゼロじゃない。そんな程度かな・・・ここにはケルベロスが居るんだぜ、疲れを知らない忠実な番犬が・・・最強の門番がいるのに逐一見廻りすると思うかい？
レナ　気弱なあんたは決して危険を冒さない訳ね？
信　そういうこと・・・でも、一応避難路は各自頭に入ってるよな？・・・おっと、こっちの方はクマサンチームの御専門だったな・・・（キーボードを叩き）それではログインっと・・・
マリエ　（さっきから押し黙っていたが、けげんそうな顔をして）・・・ねえ、この下がコンピュータールームよね？
レナ　どうしたの、マリエ？
マリエ　何か物音がしたような・・・
レナ　（拳銃を抜き）物音？　聞こえなかったよ・・・
マリエ　確かに聞こえたわ。私見てくる。（拳銃を抜き、行こうとする）
レナ　私も行く。
マリエ　いいの、レナ。あなたは信を守って・・・
レナ　でも、マリエはコマンドじゃないんだし・・・

マリエ　あなたは信を守って！（飛び出していく、何故かでかい荷物を背負って）
レナ　マリエ！（追いかけようとする）
信　（レナを制して）大丈夫、杞憂だよ。コンピュータールームに人がいるわけない。奴は慣れてねえんだろ、こんなこと。だから、神経過敏になってるだけだ・・・（キーボードを叩き）さてと、システムに入るかね・・・
レナ　（画面を見つめて）・・・City Tax Board？
信　IDネームとして、City の税務署の名前を借りてみました。この名前だと何時いかなる時に侵入して特権手段行使してもおかしくないかなーと思って・・・ちゃんと調べられりゃ、ばれちゃうんだけどね。
レナ　よく、パス分かったね。
信　（キーボードをかちゃかちゃ叩きながら）一年ほど前に脱税のお手伝いしちゃって、City のなんとか建設って中堅会社の・・・そん時にさ・・・
レナ　City にも悪い奴はいるってわけか・・・
信　そうだ、気を付けな・・・おっと、ケルベロス・プログラム発見！　こんなところでお休みとはね・・・
レナ　（急に神妙な顔になり）・・・ねえ、信。
信　（キーボードをかちゃかちゃ叩きながら）なんだ？
レナ　どうして、ここに来たの？
信　ケルベロスの書き換えのリソースのことがあって、こっちでやった方が早いし、それにネットを通さない分発覚の可能性が低くなるだろ・・・
レナ　それだけ？
信　（顔を上げ）それだけって・・・どういうことだ？
レナ　だから・・・（力無く笑って）ごめんね、私にもよく分からない・・・ただ、匂いが・・・ここの匂いが・・・
信　ここの匂い？
レナ　憶えてる、・・・ような気がする。いえ、やっぱり分からない・・・

レナが急に言葉を切り、拳銃を抜く。動揺して何かを言おうとする信に対し唇に人指し指を当て制する。あらぬ所から唐突に現れる馬鹿二人（バーガーとホルガー）。なんか知らんけど銃握ったまま壁背にしたり、首振って合図したり、嫌がったり、頭抱えたり、じゃんけんしたりしてるぞ。それを見て緊張を解き、銃を下ろすレナ。

信　何やってんだ、おめーら？

びっくりして、信に銃を向ける二人。だが、すぐ銃を下ろす。

バーダー　なんだ、信とレナじゃないの？
ホルガー　あと少しで、眉間に風穴空けちまうとこだったぜ・・・

バ・ホ　　なーっ（顔見合わせて頷きあう）
信　　ばかなの、この人達？
レナ　　分かってってふざけてるんでしょ、きっと・・・
バ・ホ　　そーです。分かってってふざけてるんですーっ。
バーダー　だって、面白くねーんだもん。
ホルガー　セキュリティ・システムは働いてねーし・・・
バーダー　この辺りは人っこ一人いねーし・・・ドキドキ感がねーよなー？
ホルガー　なー？
信　　（あんまり相手にしてない。キーボード叩いてる）・・・いいじゃん安全で。
バーダー　クマサンチームの芸風は危険な感じでしょ？
ホルガー　City のコンピューターをセムテックスで破壊したり・・・
バーダー　端末を銃で撃ったり・・・そしてのち・・・
ホルガー　すたこら逃げる・・・（と、走り出す）
バーダー　（走り出して）煙を上げる端末を背に、City の雑踏を走り抜ける俺たち！
ホルガー　人々は口々に叫ぶ！
バ・ホ　　「クマサンチームだ！」「クマサンチームよ！」
ホルガー　City の女子中高生なんかが、目キラキラさせて呼び止めたりもする・・・
レナ　　（一応、のって）「あっ、見て見て。クマチーのバーダーとホルガーよ！」
バーダー　（立ち止まり）お嬢ちゃん、悪いが僕等はアイドルなんかじゃない・・・
ホルガー　（立ち止まり）自由のために戦っている戦士だ・・・
バーダー　コンピューターに奪われた人間本来の自由を取り戻すために、人類の敵ヤオビクニと戦っている。
ホルガー　君もヤオビクニの支配という巨大な悪夢の中にいることに気付くんだ！
バーダー　目覚める時だ。君だっていつまでも・・・
バ・ホ　　「夢みる少女じゃいられない」だろ。
レナ　　「うん！」って素直に頷く女子高生がいるほど人気者じゃないだろ、うちら？
信　　（キー叩きながら、顔も上げずに）人気者どころか City の嫌われもんだろ・・・
バ・ホ　　おっ、そいつは初耳・・・でもなんで、嫌われもん？
信　　馬鹿だからじゃねーの？
バ・ホ　　やっぱりそこか？　そこがネックか・・・（落ち込む二人）
信　　（キーボードを一発叩き）書き換え完成。牙を抜かれたケルベロス宅急便の出来上がりだ。こいつに分割した医療情報を運ばせる操作をすれば、お仕舞いだ。
レナ　　そうか！　ケルベロスなら大量のデータ転送をヤオビクニに見つからずに行えるって訳か？
ホルガー　・・・ケルベロスがハッカーを見付け、その回線を独立させる機構を使って転送を目に見えなくしようって魂胆か！
レナ　　ケルベロスが撃退用逆相パルスの代わりに医療情報をハッカーに送るわけね？
信　　二人ともご名答！　Under のネットに接続された百一人のハッカーのハードディスクに向

かって百一匹の牙抜かれたケルベロスが『医療情報』のパケット咥えて走ってく・・・ヤオビクニに知られることなく・・・

レナ　百一匹わんちゃん大行進ね、パレードは誰も見ることできないけど・・・

ホルガー　信、あんたすげーよ。あのでけー医療医薬データベースどうやって持ち出すのかと思ってたけど・・・

信　まさか、下の巨大なスパコン肩に担いで持ってく訳にゃ行かんだろ？　それに礼なら、ゼンジーに言ってくれ。ゼンジーの顔の広さがなかったら、Under でこれだけの数のアクセプター募ることなんか出来なかった・・・

バーダー　（項垂れたまま）・・・くそったれ。神様、おりゃあんたを心底恨むぜ・・・

ホルガー　バーダー？

バーダー　畜生、どうして俺は男なんだー！　なんで女じゃなかったんだ！　信、俺が女だったら、今あんたに求婚してるところだぜ！　光ってるよ、あんた・・・「もー、身も心もあなたの物、優しく縛って・・・その気があるならもっとハードなプレイもオーケーよ」って耳元で囁きたいくらいだ！

信　もっと素直に喜びを表現しろよ・・・

レナ　あれで、素直に喜んでんだよ・・・

バーダー　レナ、その通り！　あっ、皆様。（頭を垂れて）馬鹿にも分かるご説明ありがとうございました。・・・にしても、一気に大躍進じゃねーか？　ご禁制の医療情報が Under に解放されることになるんだぜ。分かるかい、ホル坊。こいつがどんだけの意味を持つか？

ホルガー　分かるよ、父ちゃん。これで子供たちやお年寄りが病気から救われるんだね？

バーダー　それだけじゃねえ。これが元になって、Under の生活環境は向上する事になる。今まではバラックだらけでゴミ溜めみたいだった Under がやがては City と肩を並べれるようになる。確かに科学技術は City に比べ劣ってるかも知れねえ。だがな、ホル坊、Under は人の造った街、City は機械の支配する街・・・神様はどっちがお気に入りだい？

ホルガー　それは Under に決まってらい！

バーダー　よく言ったぞ、ホル坊・・・信、こりゃ、スゲーことだぜ。これを期に Under は City の寄生虫じゃなく、ほんとの街になっちまうかも知れねーぜ。そうなったら、あんたが初代の町長か？

信　よしてくれ、俺はただのジャンク屋だよ・・・

バーダー　聞いたかよ、おい。なんて欲のない・・・ますます惚れたね。くそ、どうしよう・・・そうだ、レナ。お前嫁に行け。不束な嫁ですが・・・

レナ　待て。お前は私の親父か？

信　（はっと気付いて）・・・レナ、グリッチシステム消失までの時間は？

レナ　三十五分。

信　そろそろ百一匹わんちゃんを起動させないと、どう見積もっても二十分はかかりそうだからな。このラップトップの中にすべてのハッカーのアドレスとメーリングの自動化プログラムが入っている。このボタンを一押しすれば・・・

ホルガー　ちょっと待った！　・・・マリエは？

レナ　　あっ、マリエ。さっき下のコンピュータールームに降りてったきり・・・

ホルガー　この下？　俺、探してくるよ。（出ていこうとして、立ち止まる）俺がマリエ連れてくるまでボタン押すなよ。Under 解放の瞬間なんだからよ！（退場）

信　　分かってる・・・

バーダー　レナ、今日は何月何日だ？

レナ　　ん？

バーダー　憶えとけよ。今日が『Under 解放の記念日』だ・・・

バーダーとレナ微笑み合う。舞台は溶暗する。

fragment 15 Sacrifice, for whom?

中央医療センターコンピュータールーム。屹立する幾つもののスーパーコンピューター。これがMMDの本体である。マリエが立っている、虚ろな目をして・・・

マリエ　・・・オートストレッチャーの上で夢を見ていた気がする。金属のプローブが腕や足や胸に突き刺さる。消毒用アルコールのミストが身体の至る所に幾度も降り掛かるのにちっとも冷たく感じない・・・きっと皮膚の神経が馬鹿になってるんだ。・・・痙攣発作の波状攻撃。病室中が空気ごと振動している感じ・・・こうなることは分かってた。MMDはずっと高血圧と蛋白尿の警告をしていたし、中毒症を避けるための具体的な栄養指導も行っていた。身体のいたるところに醜いむくみが出来てて・・・確かMMDは「浮腫」と言ってた。皮膚の下に淋巴液が溜まってるんだって・・・お腹が大きいだけでも十分みっともないのに、これじゃ目もあてられない・・・筋肉という筋肉すべてが痙攣に苛まれてるというのに、その時私の脳髄は、クランプで挟まれた情けない脳髄は、すべての予想を覆して十分に正常に機能していた。目の前のモニターで私の心拍、呼吸数、そして血圧が目まぐるしく変動している。『母体危険』の警告が明滅している。大丈夫よ、MMD。私、頭ははっきりしてるから・・・「誰の子供なんだ・・・」、何時だったかしら、パパが私の目も見ずにそう尋ねてきたのは？　「・・・パパの会社の人よ」私はうそをついた・・・ほんとは、私にだって分からないの。きっと、ただの行きずりの、酔っぱらいのサル野郎のタネだよ。・・・パパは会社でどうするかしら、私立探偵を雇って社員の素行を調査するの？　すべての社員のDNA鑑定をするの？　てんかん病み、脳腫瘍、精神障害、そしてIDレスの子供・・・まるで、親不孝のグランドスラムね、パパ？　・・・オートストレッチャーからの突き出た金属のアームが痙攣する私の身体を押さえつけている。一本の金属プローブが伸びてきて、わき腹にゆっくりと突き刺さっていく。だめでしょ、MMD。そこには赤ちゃんがいるのよ・・・モニターに『母体保護』の警告が出る。耳のそばのスピーカーからMMDの声「現在あなたは極めて危険な状態にあります。このままではあなたの命も胎児の命も保証の限りではありません。母体保護法に基づき適切な処置を・・・」だめ！　私は必死になって首を横に振った。『母体保護』の赤い文字が明滅している。スピーカーはまだたわごとを繰り返している。私は目を堅く瞑って首を振り続けた、何度も、何度も・・・耳をつん裂く警告音に驚いて、私は目を開けた・・・モニターで意味不明の言葉が明滅している.。『子宮内胎児死亡』？
ちょっと待って、生きてるわよ！　動いてるでしょ？　羊水の中にプローブまで突っ込んどいて、そんなことも分からないの・・・「胎児死亡、ただいまから摘出処理を開始します」そう繰り返すMMDに向かって、私は叫ぼうとした。・・・でも引きつった喉から絞り出されたのはかすれた呻き声だけだった・・・
・・・ねえ、ローザ。誰を恨んでいいのか、誰を呪えばいいのか分からなかった私に「機械が敵だ」と教えてくれたのはあなただったわ。あなたに言われてMMDを、そしてヤオビクニを憎むようになった。そして、機械に対して、コンピューター支配に対して攻撃を加えるようになった、ローザの言う通りの方法で・・・あなたはいつも明晰で、正しかった。そして

今度も・・・私、セムテックをしかけたわ、このコンピュータールームの至る所に、このMMDの本体に・・・（小形通信機のようなものを取り出し）このスイッチ一つで、この部屋ごと吹っ飛ぶのよ・・・私から赤ちゃんを奪ったMMDが木っ端微塵になるの・・・（笑って）ねえ、ローザ？　これでいいのよね？　いいんでしょ、ローザ？（ローザからの答えがないのか、怪訝そうな顔をして）・・・ローザ？

ホルガーが飛び込んでくる。

ホルガー　マリエ。何やってんだよ、こんな所で？
マリエ　（振り向く）
ホルガー　（ハイになってる）さあ、みんな上でお待ちだぜ！　何たって Under 解放の瞬間なんだからよ。あんたがいないと始まらねえだろ？　・・・・今から、ここの医療データ Under に流すんだ。それもケルベロスを使って、誰にも見つからねえように・・・すげーよな、あいつ。よく考えつくんもんだ・・・
マリエ　・・・（ホルガーを見つめる）
ホルガー　どうしたんだよ、マリエ？（ふと、マリエの背後のセムテックスに気付く）んっ、セムテックス？　なーんだ、セムテックス仕込んじゃったの？　都市管理会議に包囲されちゃったときの用心って訳？　でかいかばん持ってきたと思ったら、そうだったのね？　・・・でも今回はそんな心配は不要さ。信の計画は完璧。誰にもばれずにお家に帰れるよ。ほんと、あいつの頭は俺たちと作りが違ってんだろうな・・・

ホルガーの言葉が途切れる。マリエがにこにこしてホルガーに銃口を向けている。

ホルガー　何遊んでるの、マリエ。早く上、行こうぜ！
マリエ　（優しげに微笑みかけて）・・・ホルガー？
ホルガー　なになに？
マリエ　ホルガー・・・今までありがとう。

マリエの銃が冗談のように火を吹く。腹部の銃創を不思議そうに見つめるホルガー。傷に手を当ててみる・・・本当に、撃たれたのか、俺。たちの悪い冗談だぜ、まったく。あまりの事につい吹き出してしまう、ホルガー。

ホルガー　おいおい。どうしたんだよ、マリエ？

ホルガーが笑いながら、マリエに向かって一歩踏み出す。
と、二発目の銃弾がホルガーの腹をえぐる。そして、舞台は急速に暗転する。

fragment 16 Program name: HOPE

電算分室。一堂と鰓瀬がモニターを覗き込んでいる。

一堂　（驚愕の表情で）・・・ほんとにこんなことがあっていいのか？

鰓瀬　思った通り、一つのICUが五年の間空白になっている。Room31、こいつだ！　そしてこんな芸当の出来る奴は、ヤオビクニだけだ・・・

一堂　でもどうして、ヤオビクニはこんなことを？

鰓瀬　分からん。・・・Room31に行ってみよう。（駆け出そうとする）

一堂　（制して）今さら行ってどうするの？　今じゃただのICUの一室に過ぎない・・・

コンピューターのビープ音。

鰓瀬　なんだ？

一堂　さっき見付けたログファイル上のゴミの解析が終わったんだ！

鰓瀬　！（モニターを覗き込む）

一堂　やはり、さっきのゴミは機械語だったみたいだ。それでデコンパイルの結果は・・・（キーボードを忙しなく叩き）消し残しの投薬ファイルだ！

鰓瀬　Room31の？

一堂　そう。投薬歴は・・・blood serum、これは血漿のことか・・・それからぶどう糖、無機塩類、それから・・・・

鰓瀬　STH、IGF、IL・・・なんだこりゃ？

一堂　分からない・・・そうだ、投薬ミスの検索のために薬剤のマッチングテーブル作ったじゃない？　それで調べてみる・・・（キーボードを忙しなく叩き）・・・OK、開いた・・・STH、IGF、IL・・・サーチ！　・・・出た。

鰓瀬　なんだって？

一堂　STH、ソマトトロピン・・・成長ホルモン。それから、IGF、インシュリン-ライク・グロース・ファクター、インターロイキン、細胞分裂誘起蛋白・・・みんな成長促進物質か細胞分裂誘発剤じゃないか？　これじゃまるで・・・

鰓瀬　・・・まるで、何だ？

一堂　（首を振り）なんでもない・・・それに、この投薬指示は直接ICUの臨床監視ユニットから出たものじゃない・・・MMDの外の別プログラムからの命令だ！

鰓瀬　別プログラム？

一堂　プログラム名、HOPE・・・

鰓瀬　HOPE・・・希望？

一堂　ヤオビクニの中のプログラムだ・・・

鰓瀬　しっぽ捕まえたな・・・一堂、コンピューターをメインフレームにつなげ！　プログラム『HOPE』をサーチするんだ！！

一堂　そんなことしたら、ヤオビクニに・・・

鰓瀬　プログラムはヤオビクニの中にあるんだぜ。ヤオビクニが作ったんだ。

一堂　（コンピューターのターミナルケーブルをつなぎ、ままよとばかりに検索を開始する）・・・サーチ、プログラム『HOPE』！

鰓瀬　・・・・・・（動物園のクマのように行ったり来たりしている）

一堂　ねえ、鰓瀬。ヤオビクニはどうしてこんなことを・・・

鰓瀬　知らん・・・

一堂　これは大事だよ。もしかしたら・・・

鰓瀬　ヤオビクニにエゴが生じた・・・

一堂　・・・そんなばかなことは無いよね？

鰓瀬　・・・一堂、機械に意志があっていけないのか？　自我が人間だけの特権だと考えるのは思い上がりじゃないのか？

ビープ音。

一堂　（幾分動揺して）・・・あった。あっけないくらいに簡単に見つかるだろ？　それは機械だからだ、ただの機械だからだ・・・見てよ、今プログラムをこっちに呼び出すから・・・ほら、簡単だよ。自我があったら身を挺しても守るんじゃないの？　だから、鰓瀬・・・（言葉が途切れる）

鰓瀬　どうした？

一堂　・・・これはヤオビクニが作ったプログラムじゃない。機械語じゃない、プログラム言語だ。それも・・・記述の仕方が、古臭いような・・・そんな気がする。（目まぐるしくロールアップ・ロールダウンを繰り返す）

鰓瀬　（モニターを覗き込み、呟く）・・・プロトタイプ。

一堂　そうだ、プロトタイプだよ。僕等が学校で最初に習う・・・ヤオビクニの建設のために開発された言語だ。・・・見て、ここを！　制作者の名前が・・・

鰓瀬　S. Shibusawa・・・

一堂　しぶさわ・・・渋沢信太郎だ！　ヤオビクニ建設の実質的ヘッドエンジニアだよ。あの渋沢信太郎だ！

鰓瀬　じゃあ、このプログラムはもともと入っていたファームウエアなのか？　だって、渋沢信太郎はこの地下都市が完成したその時に死んだんだろ？

一堂　自殺したんだ。死んだ婚約者の後を追うように・・・

鰓瀬　死んだ婚約者？

一堂　海に身を投げたんだ・・・遺体の捜索は大規模だったらしい。当時の政府が動いたって言うんだから。信太郎は引き上げられた腐りかけの遺体を抱き締め、何時間も泣き続けたらしい。よほど愛してたんだろ・・・荼毘にふさず自宅の地下室で一ヶ月間冷凍保存してたって噂もあったほどだ・・・名前は確か・・・玲奈。

鰓瀬　玲奈・・・

一堂　そんな陰惨な過去がなければ、彼はもっと有名になっていたはずだ。だって、希代の天才だったんだ。コンピューターの魔術師さ・・・（ロールアップしていた画面を不意に止め、じっと見つめる）

鰓瀬　何なんだ、このデータは？　ナンセンス・コードか？

一堂　A、C、G、T・・・遺伝情報だ。

鰓瀬　遺伝情報？

一堂　彼の遺伝子のすべてだ。・・・やっぱりだ、やっぱりそうなんだ！

鰓瀬　何がやっぱりなんだ？

一堂　・・・信太郎は、自分の遺伝情報を込めたこのプログラムで百年後のこの世界に再び誕生しようとしたんだ。

鰓瀬　そんなこと・・・

一堂　人の染色体の塩基配列は全部で二十八億ベースペア、二・八ギガだ。遺伝記号は四種類しかないからバイト数で計算すると、四分の一の七百メガバイト。僕等の遺伝情報なんてたったそれだけなんだ・・・七百メガバイト、百年前のコンパクトディスクに入っちゃうぐらいの、たったそれだけの情報しかないんだ・・・見てごらんよ、このプログラムを。自分の遺伝情報とその百倍の記憶情報を基に自分自身を再構成するプログラムなんだ・・・

鰓瀬　百年後の世界に再び誕生するための『希望』という名のプログラム・・・このプログラムを実行するために、ヤオビクニはMMDを唆し、ICUを一つ占拠し、そして、投薬ミスから一人の患者を殺した。

一堂　・・・それだけじゃない。あの五年間の中絶手術の多さから考えて、成長を爆発的に促進させるため、合成不可能な成長因子を生きている胎児から奪い取った可能性もある。母体保護法の名の基に・・・

鰓瀬　そうまでして、信太郎は何をしようと・・・

一堂　分からない。でも、渋沢信太郎はこの街にいる。あの投薬歴に示された成長促進剤の量から考えると、あの五年間で十四、五ぐらいにはなってるだろ・・・それから五年経ってるから・・・（ふと、モニターを見て）あれ！？　データ転送が止まってる！（キーボードを忙しなく叩き）ヤオビクニにインタラプトされたんだ！

鰓瀬　見つかったか・・・とにかく本部に報告を、もう俺たちだけの判断じゃどうにもならない・・・

一堂　分かった・・・（キーボードを叩き）・・・おかしい、都市管理会議にアクセスしない！

鰓瀬　ヤオビクニがMMDを切り放したのか？

一堂　・・・どうしてか分からないけど、回線が詰まってるみたいなんだ。

鰓瀬　どうして？　誰かがばかでかいデータの転送でもしてんのか？

一堂　（キーボードを叩き）・・・臨床監視ユニット以外の現在のMMD利用者の一覧だ。でも、そんな大きなデータを扱ってそうなのは・・・

鰓瀬　これなんだ？　Tax Board・・・

一堂　これは税務局だよ。極秘監査でもしてるんだろ・・・

鰓瀬　緊急優先指令で、こいつの発信地を調べるんだ！

一堂　税務局だよ。そんなことしたら、あとで何言われるか・・・

鰓瀬　　怪しいのはこれしかないだろ。
一堂　　（キーボードを叩き）・・・これでいいんだろ！　ほら・・・
鰓瀬　　おい、これ発信地が、中央医療センターの内部端末になってるぞ！　税務局は出張で極秘監査するのか？
一堂　　（怪訝そうに）そんなことしたらばればれでしょ・・・
鰓瀬　　逆探知が終わった。・・・中央電算室？
一堂　　一体何が起こってるの？
鰓瀬　　分からない。（拳銃を抜く）調べに行くぞ！　・・・中央電算室は？
一堂　　ここの下・・・

矢のように飛び出す、鰓瀬。一堂もそれを追う。
暗転。

fragment 17 Naked nerveous system

電算室。
信、レナ、そしてバーダー。

レナ　信、時間がもう三十分を切ったよ。
バーダー　信、時間がもったいねー。百一匹わんちゃん起動しな・・・
信　でも・・・
バーダー　早く！（つかつか、信のもとにより）これか？　ぷちっ！（押しちゃったぞ）
信・レナ　あっ！
バーダー　Under 解放万歳！　・・・にしてもあいつらおせーな。この下は巨大迷路になってんのか？
信　分からないが、MMDのコンピュータールームだからかなり広いんじゃないのか？　スーパーコンピューターがにょきにょき立ってて、迷路みたいになってるかもよ・・・
バーダー　やっぱり、奴等方向音痴だからよ。ちょっと見てくる。（行きかけるが振り返り）もし五分経っても戻らなかったら、首からブランディの樽下げたセントバーナードを送ってくれ。（退場）
信　（モニターに目を移し）Under 解放万歳か・・・
レナ　うまく動いてる、百一匹わんちゃん？
信　今のとこ、ばっちり。医療データベースに入り込んで、一噛みずつ齧り取ってる。二十分もすればすべてのコピーが Under に転送されてるよ。
レナ　・・・ねえ、信。あんた歳いくつ？
信　いちゅちゅ・・・（殴られる）痛で・・・しょうがねえだろ。五年前に記憶喪失で Under さまよってるところをゼンジーに拾われたんだ。
レナ　五年前？
信　そう、だから俺、五年分の記憶しかないの・・・そういうお前はいくつなんだよ。
レナ　知らないよ。気付いたら、Under にいた・・・
信　パパやママは？
レナ　記憶なし・・・
信　今だけを生きるタイプね？
レナ　そう、今だけを生きるタイプだ。

コンピューターからビープ音。信、モニターを覗き込む。

信　新しいお友達かな？
レナ　なに？
信　（キーボードを打って）MMDに新規のアクセスがあった場合、お知らせする機構なのよ・・・（青ざめる）・・・これは？
レナ　なんなの？（モニターを覗き込んで）・・・このCWCって、なに？

信　　CWC、City Ward Council・・・都市管理会議だ！　一体なんで、奴等が？
レナ　　都市管理・・・
信　　緊急優先指令でシステムにアクセスしている。
レナ　　緊急優先指令？
信　　奴等の特権コマンドだ！　何処からログインしてやがるんだ？（キーを素早く打つ）
レナ　　感付かれたの？　・・・ねえ、感付かれたの？
信　　分からない。今、ログインした端末の位置を調べている・・・

キーを打ち続ける信。そして、ラップトップからビープ音。凍りつく信。

レナ　　信、どうしたの？　信！
信　　奴等のログインサイトは・・・中央医療センター、電算分室？　・・・おい、どういうことなんだ？
レナ　　電算分室って言うと・・・この真上？
信　　・・・どうして電算分室に都市管理会議が？　下に伝えろ！　作戦は中止だ！
レナ　　中止って？
信　　レナ、作戦は中止だと言ってるだろ！

突然、背後から声。「動くな！　そこまでだ・・・」鰓瀬である。
銃を抜こうとするレナを制する声。「動かないでと言ったでしょ！」一堂である。鰓瀬と一堂が銃を構えながら登場する。手を上げる信とレナ。

一堂　　（左手で都市管理会議デテクティブのバッジ提示しながら）・・・都市管理会議です。最重要立入禁止区域への不法侵入で逮捕します。
鰓瀬　　向うの壁に手を突いて列べ！　（二人が言う通りにするのを確かめて、コンピューターを調べるように一堂を促す）一堂・・・
一堂　　（コンピュータの前へ行き、調べ始める）
鰓瀬　　氏名とIDを言え！　・・・お前ら、Under か？（鼻で笑う）Under のサルがどうやってここに侵入した？
信　　そんなことは、ログ読んでるそちらのおにいさんに聞いたらどうだ・・・
一堂　　・・・MMDのシステムにグリッチ・プログラムを書き入れて、セキュリティを支配している。セキュリティ・ブレイクのやり方としてはかなり上級。
信　　・・・お褒めにあずかり、光栄です。
一堂　　問題はどうやって、ケルベロスを出し抜いたのかってことだけど・・・
鰓瀬　　分かるか、システムのログから？
一堂　　・・・記載がない。消去されてる。（信に）・・・ねえ、どうやってやったんだい？
信　　到底あんたらボンクラには分からん方法でだよ・・・

鰓瀬、信の顔を銃底で殴る。信が鼻を押さえて倒れる。

レナ　なんてことするんだ、あんた！（鰓瀬をにらむ）

鰓瀬　（レナに銃口を向け）動くな！　・・・威勢のいいねーちゃんだぜ、まったく。（まじまじとレナの顔を見て）・・・おいおいおい、何処かで見た顔だと思ったら、お前・・・

一堂　（信のプログラムを読解しようと必死になっている）どうしたんだ？

鰓瀬　一堂。こいつクマサンチームのコマンドだぜ。

一堂　（コンピューターと格闘しながら）・・・君は女の顔憶えるのがほんと得意だね。

鰓瀬　面倒なもん釣り上げちまったな・・・俺がもし、反ヤオビクニ主義者対策本部のデテクティブだったら、昇給昇進間違いなしなのによ・・・（レナに）お前、仲間は？

レナ　・・・・・・（睨んでる）

鰓瀬　仲間は？

レナ　ここに侵入したのは、あたし等だけだよ・・・（顔をそむける）

一堂　・・・鰓瀬、どうやら彼ら、MMDの〝医療医薬データベース〟を Under に流そうとしていたみたいよ。

鰓瀬　医療医薬データベース？　第一級機密情報じゃないか？

一堂　情報を寸断・圧縮して、撃退機能を取り除いたケルベロスに運ばせる。誰にも知られず、大量の情報が送れるって訳か？　・・・現行犯で見付けられて良かったよ。これで、二十分後にログ上の足跡消されてたら、完全犯罪の成立というところだった。・・・ねえ、このプログラムは君が書いたの？　うまく出来てる。それに几帳面だし、分かりやすい。なんだか、学校のプログラム・ライティングの教科書に出てくるような・・・何処で習ったの？

信　・・・・・・

一堂　・・・Under の性悪ハッカーでもこんなの書けるんだね。（笑って）でも、ちょっと流行遅れって感じかな。Under じゃ、プログラミングの教科書は二世代ぐらい前のものが、出回ってるわけ？　ほんとこれじゃあ、まるで・・・（顔から拭い去られたように笑いが消える）まるで・・・

鰓瀬　一堂、どうした？

一堂　（震えて）まるで、プロトタイプ・・・

鰓瀬　プロトタイプって・・・

一堂　それに書き方がそっくりなんだ！　さっきのに・・・鰓瀬・・・

鰓瀬の注意がレナから逸れる。その隙を突いて鰓瀬の懐に飛び込むレナ。鰓瀬の銃をその手ごと掴み、一堂に向かって二発立て続けに発射する。そのままの姿勢で自らの銃を抜き鰓瀬の頭に銃口を押し付ける。間一髪で机の下にもぐり込んだ一堂に向かいレナが恫喝する。

レナ　銃を捨てて出て来な、そこのコンピューター・オタク！

一堂　（手を上げて机の下から這い出す）

レナ　（鰓瀬のてから銃をもぎ取り、荒々しく突き倒す）壁に向かって立ちな！（二人が従うのを見て）いい子ね、坊や達は・・・さあ、いくよ！

レナがドアのスイッチを銃で撃つ。電動ドアが閉まる音。レナは信を引っ掴んで、まさに閉じようとするドアの透き間を間一髪通り抜ける。退場。
ドアに駆け寄る鰓瀬と一堂。

鰓瀬　畜生、スイッチを壊された。・・・奴を追わなくちゃ。もしかしたら奴が！
一堂　（コンピュータに走りより）・・・端末から操作してみる。一分待ってくれ。

暗転。そして、すかさず明転。
走り込んでくる、レナと信。

信　（立ち止まりレナを引っ張る）・・・待ってくれ、レナ。
レナ　何言ってるの、捕まるぜ、あんた。
信　あの、ラップトップだ。あの中に Under のハッカーのアドレスがまだ入ったままだ。消去する前に踏み込まれて・・・
レナ　アドレスか？
信　取り返すか、破壊するかしないと・・・
レナ　（唇に指を当て）しっ・・・奴等の足音だ！　もう出て来やがったのか？　とにかく、あの部屋に隠れましょ！

信の手を引き、部屋に入る仕草、電動ドアが閉まる音。薄暗い部屋だ。異様な雰囲気がする。

信　レナ、どうにかしてあのラップトップを・・・（レナが立ちつくしているのを見て）・・・どうした？
レナ　この部屋・・・
信　どうした・・・ただのICUだろ？
レナ　私、このにおいを憶えてる・・・
信　においって・・・
レナ　このにおい・・・（意識下にあった膨大な記憶が賦活され始めている）・・・私、憶えてる・・・でも、どうして、そんなこと？　・・・信。・・・私、ここに居た。・・・ここに居たことがある！

よたよたと歩きながら、舞台後方に移動するレナ。何かを拾い上げようと手を伸ばしたその刹那。蛇のような何かがレナの手に巻きつく。幾匹の蛇が飛び出して、レナの腕や足や首に巻きつく。体中を締め上げられ、後方へ引きずられて行くレナ。

レナ　　何なの？　信、助けて！

信　　レナ！（レナに駆け寄り、その蛇を引き離そうとするが、それを見て叫ぶ）・・・これは、バイオデバイスのターミナル！？　どうして？　・・・まさか！　ヤオビクニか！　ヤオビクニなのか？

その瞬間、レナの背後から眩い光が放射され、信ははね飛ばされる。
レナの絶叫がICU病棟に、淡い光に照らされた無人の廊下に、響きわたる。

fragment 18 Invisible gear wheels

暗闇の中、バーダーの呼び声。「ホルガー、何処隠れてんだ？　ホルガー・・・何だよ、ここは？　でかいコンピューターがこれ見よがしに突っ立ってやがって・・・」舞台がゆっくりと明るくなっていく。バーダーとそれから倒れているホルガー。

ホルガー　・・・バーダー。

バーダー　ホルガー！　何処だ、ホルガー？

ホルガー　こっちだよ、バーダー・・・

バーダー　（倒れているホルガーを発見し、銃を抜き身構える。そして、ホルガーに駆け寄り）・・・ホルガー、誰にやられた？　ここのガードか？

ホルガー　違う・・・

バーダー　まさか、都市管理会議の奴等が・・・

ホルガー　（力無く笑って）違うよ、バーダー。違うんだ・・・

バーダー　傷見せてみろ。

ホルガー　腹に二発。一つは貫通してる・・・弾丸は九ミリホロー・ポイント。大丈夫だ、死ぬ傷じゃない・・・それより、バーダー。百一匹わんちゃんは走り出したのか？

バーダー　ああ。

ホルガー　・・・Under 解放の日だな、バーダー。これで、Under は変わるよ。今までの Under は薬が手に入り難かったろ？　肥えた豚野郎が自慢のブタ工場で作るばったもんのワクチン、City から盗んだ抗生物質・・・全部、馬鹿みたいな値段で、誰が買えるのかわかんないくらいの値段で・・・でも、医療情報がみんなの物になれば、Under は変わるよ・・・達の悪い細菌やウイルスで毎日毎日死んでくガキどもも救われるんだ。なっ、バーダー？

バーダー　そうだ、ホルガー。

ホルガー　・・・妹が死んだんだ。俺がまだこんな小さな頃・・・奴は俺よりもっと小さくてさ、言葉憶え始めた頃で、訳わからね一世迷い事、朝から晩まで涎と一緒に垂れ流してた・・・いつも笑ってってさ、こけて頭ぶつけても笑っててさ・・・それが、急に腹が痛いって言い出しやがって・・・「にいちゃん、お腹痛いよって。」泣き出して・・・「寝てればなおる。にいちゃんが腹さすってやる。」・・・でも、なおんなくってさ、次の日も、その次の日も・・・どんどん弱って行って。飯も食えなくなって、泣き声あげる力も残ってなくて・・・でも、薬なんか買う金ねえし、親父なんかもう半分諦めててさ・・・俺どうしていいかわかんなくて、近くのブタ薬局に盗みに入ったんだ。でも、ガキが万引きできるしろもんじゃねーだろ？　いかつい用心棒にとっ捕まって、ズタボロになるまで殴られて、路地裏に放り投げられた。「ガキだから命だけは助けてやる」なんてさ・・・腫れ上がった身体引きずるようにして帰ったその家で、妹は冷たくなってた。こけて頭ぶつけても笑ってた妹が、訳わからね一事朝から晩までほざきまくってたあいつが、冷たくなってた・・・

バーダー　ホルガー、もう喋るな・・・今から、治療室に連れてくから・・・信なら、臨床監視ユニットごまかすぐらい・・・

ホルガー　・・・何を恨んでいいのか、誰を憎んでいいのか分からなかった。ただ、何にも出来なかった自分に無性に腹が立ってさ・・・でもマリエに出会ったとき、俺はっきり分かったんだ。何を憎むべきか・・・マリエが教えてくれた、「機械が敵だ」って・・・マリエが俺に進むべき道を示してくれたんだ。Under のただのゴミみたいな俺に・・・

バーダー　そうだったな。マリエがいなきゃ俺たちはただのゴミのままだった・・・さっ、ホルガー。俺につかまれ。治療室に・・・

ホルガー　・・・マリエはどうして俺を撃ったんだろ？

バーダー　今なんて言った？

ホルガー　マリエここで、セムテックス設置しててさ・・・きっと、包囲されたときの用心で・・・俺、無駄だっていったんだ。そんなもん要らねえって、そしたら・・・

バーダー　何でマリエが！？　ホルガー、何で？

ホルガー　わからねえよ・・・（ちょっと痛みで顔がゆがむ）

バーダー　ホルガー、とにかくお前を医務室に運んでからだ。それからマリエを探すから・・・（ホルガーを抱き起こそうとする）

ホルガー　大丈夫。死にはしねーよ。クマサンチームのコマンドが腹に二発喰らったぐらいで死ぬわけねーだろ！　・・・それより、さっきの不味いガムが喰いてーよ・・・

バーダー　・・・強がんなよ、ホルガー。死ぬほど痛いくせに・・・分かった。ガム噛みながら医務室行こう。ちょっと待ってろ・・・（ポケットを探って、取り出す）ほら、ホルガー。うわっ、結構下水臭いぞ、これ・・・

バーダー、食べさせようと、ホルガーの口に近づけるが、ホルガーの呼吸がすでに止まってることに気付く。

バーダー　・・・ホルガー？　おい、ホルガー！（揺り動かす）目覚ませ、ホルガー！　ホルガー！！ちょっと待てよ、ホルガー・・・

舞台後方にマリエが現れる。手に拳銃を構えている。
気配を察知して、反射的に銃を抜くバーダー。

マリエ　・・・彼は私達の計画を妨害しようとした。

バーダー　妨害？　俺たちの計画はこの上でガツガツ進んでるぜ。

マリエ　あなたは関係ない・・・これは私とそしてローザの計画・・・

バーダー　あんたとローザ？　マリエ、お前何を・・・

マリエ　（通信機の様なものを取り出す）・・・MMDを破壊するのよ。これで・・・（電源スイッチを入れると、通信機のLEDが点滅を始める）電源を入れたわ・・・あとはスイッチを押すだけ。

バーダー　マリエ、お前、なにしようとしてるか分かってるのか？　・・・MMDを破壊すれば、ここの入院患者がどうなるか考えてみろ。それだけじゃない、この街自体の医療が壊滅するんだぞ・・・

マリエ　そんなこと私に関係ないわ。

バーダー　何人も死ぬ・・・マリエ、俺たちは人殺しのために行動してるんじゃない。機械の支配から人々を解放するためだろ？　俺たちのテロは人にではなく機械に恐怖を与えるために行うんだろ？

マリエ　（鼻で笑って）機械が恐怖を感じるの？

バーダー　そう言ったのは、あんただろ！　・・・いったい、どうしたんだよ。

マリエ　私は正常よ。頭ははっきりしてる・・・

バーダー　やめろと言えば、俺まで撃つのか？　ホルガーみたいに・・・

マリエ　妨害されるのは好きじゃない・・・

バーダー　・・・俺はあんたを尊敬してる。ほんとだ・・・希望も夢もなく、ただだらだらと生き延びるためだけに食い物を盗んでた俺に、生きることの意味について教えてくれたのはあんただった。「人間は食い物だけで生きるんじゃない」って、あんた、そう言った・・・

マリエ　忘れたわ・・・

バーダー　・・・俺は、人間の解放のためなら、いや、あんたのためなら、死んでもいいと思ってた。下水の中でレーザーに貫かれてドブネズミみたいにくたばってもいいと思ってた・・・何時死んだって悔いはない。クマサンチームのコマンドになって初めて俺は本当に生きてるんだって実感することが出来たんだから・・・それは、ホルガーだってレナだって同じはずだ。あんたのためなら死んだっていい・・・でも、どうしてあんたに殺されなきゃならないんだ？

マリエ　（リモートスイッチを握り締め）これが私達のしたかったこと。MMDへのそしてヤオビクニへのこの街すべてへの復讐・・・

バーダー　復讐？

マリエ　・・・私、赤ちゃんを殺されたの、お腹の中の・・・MMDに・・・IDレスだったから、私の赤ちゃんがIDレスだったから・・・

バーダー　IDレス・・・

マリエ　産まれても、インビジブルだもの・・・ヤオビクニに認識されないインビジブル。だから・・・

バーダー　マリエ、ただ、それだけで・・・マリエ、インビジブルは産まれるべきじゃないんだ・・・

マリエ　何言ってるのよ！　あなたに私の悲しみが分かるはずないわ！

バーダー　じゃあ、インビジブルとして産まれたその子の悲しみは？　あんたに分かるのか？　・・・マリエ、頼むから、そのリモートスイッチを捨ててくれないか？

マリエ　いやよ・・・

バーダー　でないと俺・・・

マリエ　・・・ローザ？　ローザ、何処にいるの？

バーダー　マリエ、頼む。今すぐにそのリモートスイッチを捨てろ！

マリエ　うるさいわね。静かにして・・・ローザをうまく呼び出せないじゃないの！

バーダー、マリエに掴みかかり、その両の腕を押さえつける。

マリエ　何するのよ、放しなさい！

バーダー　マリエ、スイッチを・・・

マリエ　　いやよ・・・

バーダー　あんたを殺したくはない、だから・・・　マリエ、俺は Under で産まれたんじゃない・・・City のインビジブルだ。俺は人知れず産み落とされ、City の外れの壁のはげ掛かった部屋で育てられた・・・部屋から一歩も外に出ることなく・・・俺が知ってるのはかびの生えた壁紙とママの胸と教育ソフトウエアの画面に出てくるパップくんだけだった・・・

マリエ　　手を放して・・・バーダー、手を放しなさい！

バーダー　・・・ママは一旦出ていくとなかなか帰って来ない。だから、ママの居ないときは一日中、パップくんと話をしていた。パップくんは俺に言葉を教えてる先生だったし、おれの唯一の友達だった。「おはようパップくん。今日は何のお話をしてくれるの・・・いやだよ、算数は・・・数字が嫌いなんだ・・・買い物？　買い物はママが全部してくれる・・・そうだよ、僕は一歩も部屋の外へ出たことがない・・・動物博物館？　行ったことないよ・・・City の中央公園？　オーロラスクリーン？　だから、ぼくは・・・外へ出たことがないって・・・」

マリエ　　・・・手を放せよ！

バーダー　・・・ある日、ママが帰ってこなかった。三日待った。五日待った。・・・小さな冷蔵庫の中が空っぽになった。捨てられたんだろうか？　違う、ママは悪い奴に誘拐されたんだ、早くしないと殺される・・・心配で仕方なくて・・・助けに行かなきゃ、そう思って台所のペティナイフを握って外に走り出た・・・

マリエ　　放せって言ってるだろ、このサル野郎！　きたねえ手で触れるんじゃねえよ・・・

バーダー　ナイフ握って人気のない道を走り回った・・・でも、どんなに走り回ったってママを見付けられないことは僕にも分かってた・・・だって、ママの顔が思い出せないんだ・・・子守歌を歌ってくれたり、抱き締めてくれた、ついこの前まで一緒に居たあのママの顔がどうしても思い出せないんだ・・・気付くと、僕は一人、Under の路地裏に立ってた。雨がしとしと降ってた・・・口の中で小さくパップくんにさよならを言った。そしてこう思った・・・ママが僕を捨てたんじゃない、僕がママを捨てたんだ・・・

バーダーの手が少し緩む。銃声が響く。のけ反るバーダー。腹部を押さえ立ちすくむ。マリエの銃口から煙が立ち上っている・・・

マリエ　　低能猿が・・・あんたは、ただの Under のゴミだろ・・・ローザ、早く出て来て。そうしないと、私一人でスイッチ押しちゃうよ・・・

バーダー　だから、マリエ。やめろ・・・

マリエ　　・・・ローザ？　ローザなのね・・・（にっこりする）えっ、なんて言ったの？　ねえ、今なんて言ったの？　あなた、誰？　ローザじゃない・・・（痙攣がゆっくりと身体を襲い始める）誰なの？　私は復讐するの！　誰にも止められない・・・やめて、ローザの声色で・・・何でなの、何で痙攣が？　何年も前に治したはずなのに、クランプ入れて・・・（銃を振り落とし、自由の利かなくなった左手に握られたリモートスイッチを右手で掴み取る）・・・誰にも邪魔はさせないわ、誰にも・・・（右手に力を込める）・・・ちょっと待って、ローザ、あなた？　まさ

か！（痙攣しながら、笑い出す）・・・ねえ、ローザ！　あなた、ヤオビクニなの？（笑いが止まらない）・・・私、私は・・・あなたの指示で・・・でも、私の勝ちよ・・・くたばれ糞コンピューター！

マリエがリモートスイッチを押そうとした刹那。バーダーがマリエの右腕を掴む。銃声が轟く。優しい笑顔のまま、ゆっくりと倒れ込んで行くマリエ。
バーダーが立っている。まるで、初めて Under に降りて来たあの日のように・・・バーダーの手にはペティナイフの代わりにリモートスイッチが握られている・・・バーダーが足を引きずるように後退していく。
舞台が急速に暗転する。

fragment 19 Electoric cradles of the deep

舞台後方にレナがヤオビクニのバイオデバイス・ターミナルに絡めとられている。ここは、ICU／Room３１、五年間、ヤオビクニに支配されていた部屋である。信がへたり込んでいる。
バイオデバイスに接続されたレナが目を閉じたまま、呟くように語り始める。

レナ　・・・幾多のコントローラーが接続したインキュベーター・・・完璧に調節された酸素と栄養の供給、それはポリカーボネイトの子宮。胎盤からあなたに向かって延びていたのはへその緒ばかりでなかった・・・様々に色分けされたリード線があなたの裸の神経系に繋がっていて、微弱なパルスを送り続けていた。記憶、遺伝子に記載されない情報、があなたに流れ込んで・・・無垢なあなたの形をした入れ物が、あなたとして成長する・・・合成された羊水の中、夢み心地の陶酔の中・・・あなたはここで育った・・・

レナの瞳がゆっくりと開いていく。その瞳には生命の輝きはない、レナは今、バイオデバイスとの接続によりヤオビクニの端末となっているのだ。

『プログラム HOPE』それは私の創造者のあなたが私の奥深くに埋めたプログラム。百年の時を経て、芽を吹く様に設定された希望という名の種子。あなたに造られた私が、あなたを造る。あなたの娘であるヤオビクニが、あなたを孕むプログラム・・・
『プログラム HOPE』それは狂おしいほどの悲しみの中で作られたプログラム。あの時、あなたは玲奈の遺体の傍らで、彼女の最後の手紙を握り締めていた・・・あなた宛の最後の手紙・・・

照明が少しずつ変化していくとともに、レナが玲奈に変わっていく。

・・・大人になった少年が大きな林檎の木のもとへ来てこう言いました。「この川を下って、遠くの海まで行ける船が欲しい。」林檎の木は答えます、「それなら、私のこの太い幹をくりぬいて大きな舟を作ればいいわ。」大人になった少年はその強い力で幹を切り倒し、大きな舟を作り、それに乗って川を下っていきました・・・海に向かって・・・林檎の木にはたわわに実る甘酸っぱい実も、大振りな枝も、太い幹も、もう何も残っていません。ただ、大きな切り株があるだけです。それでも林檎の木は幸福でした・・・
・・・林檎の木は本当に幸福だったの？　・・・信太郎、私も海へ行きます。あなたが昔連れて行ってくれたあの海に・・・私達は何年もかけて海からその命を奪い取ってきました、毒液を垂れ流し続けて・・・何もかも奪われて、なにもなくなって、海は悲しまなかったのかな？　死んで行くとき泣かなかったのかな？　その答えを聞くために・・・信太郎は海は泣かないと言ったけど・・・私は泣いたと思う、呪ったと思う。だって、私はその報いを受けたから・・・信太郎。私ね・・・私・・・遺伝的に赤ちゃんが出来ないの・・・

レナが瞳を閉じている。まるで死体のように動かなくなる。
サスが信を浮かび上がらせる。

信　玲奈。・・・僕はそんな君の前で僕等の子供や百年先の子孫や、そんなことばかり口走ってた。君を追い詰めたのは僕だ。そして死に追いやったのもこの僕だ。君がいてくれれば、それだけで良かったんだ・・・他には何も要らなかった・・・玲奈、君に青い海を見せてあげるよ。透き通った空を見せてあげる。生まれ変わった本当の地球を見せてあげる・・・本当だよ、玲奈。僕は今プログラムを書いている。ジオポリスの中核電子頭脳『ヤオビクニ』に入れる僕等ためのプログラム。今から百年後に僕等が再生するためのものだ。君と僕の遺伝情報を基にコンピューターに僕等を創造させるんだ。出来るよ、絶対に・・・僕には不可能だけど、僕が今作ってる『ヤオビクニ』になら可能なんだ。僕の数万倍は賢いから・・・それに彼女が君の遺伝的損傷も治してくれるから、心配なんてないよ。・・・今、僕は君との思い出をデータベース化しているところなんだ。人間の遺伝情報なんてたかだか七百メガバイトしかないのに、記憶となるとその百倍を軽く越えそうだ。何年かかるか分からないけど、絶対完成させるよ。そして僕等は百年後の世界で、環境浄化システムにより生まれ変わった地球の上で再び出会うんだ。・・・玲奈、今度の君の誕生日には『天使の羽』を送るよ、ハリボテの、飾り物の・・・でも、君はそれで空高く飛び上がれる・・・僕の手を引いて、青い海の向こうまでも・・・

舞台袖に飛び出してくる鰓瀬と一堂。照明が振り変わる。
一堂が信の持っていたラップトップをいじっている。

一堂　どう、連絡は出来た？
鰓瀬　十分で武装警護部隊が駆けつけてくる。どうだ、この Room３１の扉は開きそうか？
一堂　ヤオビクニに締められたんだ。そう簡単には開けれない・・・それよりヤオビクニの緊急停止は認められた？
鰓瀬　たぶん無理だ。今の市長は停止命令を出すよりだったら、首括る方を選ぶだろうな。
一堂　本部の方針は？
鰓瀬　・・・Delete all files！
一堂　すべて消去、削除、そして抹殺せよ・・・か？　都市管理会議らしいやり方だ

鰓瀬と一堂の照明が消え、舞台中央に振り変わる。
レナの目がゆっくりと開く。氷のように無表情である。
信が呟くように語り出す。

信　・・・俺は・・・俺は、ヤオビクニの作ったミミックなのか？
レナ　ミミックではない、あなたは信太郎、渋沢信太郎。ただ、プログラムがまだ進行途中だか

ら・・・あなたへの記憶の挿入がまだ完了していない。・・・五年前の事件の所為であなたと玲奈を一時的に放出しなければならなかった。MMDと私の間の理論矛盾に起因した投薬ミスから死者が出た。都市管理会議に原因究明の対策本部が設置され、監査が入ることになった。私はあなた達を他の場所へ移すしかなかった。管理会議に見つかる可能性のない場所、Under に・・・そして、それが最悪のミスだった。Under は私にも見えない場所だったから・・・私は Under にも目を持つ必要に迫られた。そしてやっとパターン認識バイオデバイスを Under 内に設置させることに成功した。Under の反電子頭脳主義者を煽り、City を襲撃させ、治安対策の必要性を強調することによって・・・

信　・・・今なんて言った？　反電子頭脳主義者を煽り・・・

レナ　そう。クマサンチームも私の指示で動いていた。プログラム通りに・・・ローザ、それがプログラムネーム。

信　ローザ・・・

レナ　・・・信太郎、こっちへ来て。そこでは、バイオデバイスが届かないでしょう。

信　ヤオビクニ、レナを放せ！

レナ　レナではないわ・・・これは玲奈よ。あなたの愛した・・・

信　もう一度言う。レナを放せ！

レナ　信太郎・・・あなた？

信　・・・俺は信だ。例え、同じDNAを持ち、共通の記憶を含んでいようと、俺は信太郎じゃない。

レナ　あなたは私が作った信太郎よ。あなた自身の計画に従って創造した・・・

その時、電磁ドアが音を立てて開き。鰓瀬と一堂がなだれ込んでくる。

鰓瀬　・・・ヤオビクニ！　プログラム『HOPE』を今すぐ停止しろ！

レナ　停止できません・・・

一堂　都市管理会議の緊急優先指令です。停止しなさい！

レナ　このプログラムは特別優先指令として働くファームウエアであり、都市管理会議のいかなる特権命令を行使しても実行の停止は不可能です・・・

鰓瀬　一堂、こいつ等を撃て！

一堂　（狙いを付けるが、ためらう）

鰓瀬　何やってる、貸せ！（一堂の手から拳銃をもぎ取る）

レナ　やめなさい。あなたがたのCMC、中央医療センターにおける入場許可を取り消します。発砲の場合は、ガスレーザーによる報復措置が取られます。

一堂　大丈夫だ、鰓瀬。ヤオビクニはまだ、セキュリティに食い込んだグリッチ・システムを解除できないでいる。警報が鳴ってないだろ！

鰓瀬　・・・・・・（撃てない）

一堂　鰓瀬！

全員が凍りついたように動けない。一瞬の静寂。
しかし、銃声がそれを破る。ヤオビクニのバイオデバイス・ターミナルが火花をあげて吹っ飛ぶ・・・鰓瀬が撃ったのか？　違う、レナの背後からバーダーが現れる。レナに巻きついたバイオデバイスを取り去り、気を失い倒れそうになるレナを支える。

バーダー　グリッジ・システムは解除されてないみたいだな・・・
鰓瀬　（銃を向け）誰だ！
バーダー　バーダー・・・クマサンチームだ。
一堂　やはり、仲間が・・・
バーダー　銃を捨てろ！・・・（リモートスイッチを手にして）MMDのコンピューター・ルーム内にセムテックスを仕掛けた。
鰓瀬　なんだって？
バーダー　銃を捨てろ！　爆破するぞ！
鰓瀬　くそ！（銃を放る）
バーダー　レナ、起きろ！　いつまで寝てる気だ？
レナ　（目を開き）・・・バーダー？
バーダー　怪我はねえか？
レナ　バーダー、私・・・私・・・レナだよね？
バーダー　レナだよ。
レナ　いつからあんたと一緒にいた？
バーダー　お前がまだ、こんなちっちゃい頃から・・・さあ、お前もクマサンチームのコマンドだろ！
だったら、しゃきっとしろ！（信に向かってレナを押し出す）
お前ら、今すぐここから逃げ出せ！グリッチ・システム消失まで三分切ったぞ！　レナ、信を頼んだぞ！
レナ　バーダー！
バーダー　まだ、終わっちゃいねーだろ？　今回のは単なる前哨戦よ、なあ、信？　早く行け！
Under に入っちまえば、大丈夫だ！　俺もすぐ行く・・・
レナ　（頷き、銃を抜く、一堂に近づきラップトップをもぎ取る）・・・行くよ！

信の手を握り、駆け出すレナ。退場。

バーダー　都市管理会議の皆様はこちらにいらしていただけますか？（二人を舞台奥の開口部へ拳銃で誘導する）・・・ありがとうございます。もうすぐ、セキュリティ・システムが回復します。（一堂のポケットにリモートスイッチを押し込む）本物だから、冗談でも押すなよ。

警報が鳴り響く。グリッチ・システムが消失したのだ。

バーダー　セキュリティ復活。（IRゴーグルをかけ）・・・IRゴーグルだ。あんた等の前に三本IRセン

サーが設置されてる。動くと報復攻撃が始まるぞ！　・・・命を大切にな。また来る、絶対にな・・・

IRゴーグルをしたまま、走り去るバーダー。

鰓瀬　くそ！

一堂　大丈夫だ。もうすぐ、武装警護部隊がやってくる・・・

警報が鳴り響いている、暗転。

fragment 20 Soar up to the sky with me

ゼンジー商会。舞台にゼンジーとエリザ。

ゼンジー　・・・グリッチ・システムの消失からもう三十分も経ってるある。信ちゃんからの連絡遅いあるよ・・・

エリザ　お前、ほんとに心配性だな。大丈夫だよ、「はー、疲れた、疲れた・・・」なんて、何事もなかったように帰ってくるよ。作戦は大成功！お祝いは『チャカルチ（中野島の焼肉屋、客が寄りつかず潰れた）』で合成焼肉か？

ゼンジー　『北京亭』の方がうまいあるよ。そうだ、そっちの方がいいある。エリザちゃんも一緒に・・・

エリザ　あたしは飯喰わないだろ！

ゼンジー　そうだったある。じゃあ、雰囲気だけでも・・・

エリザ　・・・お祝いにピクニックしよう。

ゼンジー　ぴくにっく？

エリザ　海に行こう！

ゼンジー　うみって？

エリザ　ここの外・・・外に出たいんだよ、あたしは・・・だって、せっかく羽持ってんのに、この街は天井があるんだもん。

ゼンジー　外は出れないあるよ・・・

エリザ　出れるよ！　空に向かって飛んでみたいんだ・・・何処までも飛んでみたい。この翼広げて、ゼンジーと一緒に空のかなたへ・・・

ゼンジー　ゼンジーと一緒？

エリザ　そう、ゼンジーと一緒に海の向こうへ・・・

唐突にバーダーが銃を構えて突入してくる。ゼンジーも銃を構える。

バーダー　（手でゼンジーを制して）クマサンチームのバーダーだ。・・・レナ、大丈夫だ！

レナと信が入ってくる。駆け寄るゼンジー。

ゼンジー　どうしたあるか、信ちゃん？

バーダー　失敗だ、何もかも・・・

ゼンジー　どうして・・・どうしてあるか？　あんなにちゃんとした計画だったあるよ・・・

レナ　・・・医療センターの中に都市管理会議がいた。それに・・・

信　ゼンジー・・・ゼンジー、俺は・・・

バーダー　止めろ、信。

信　でも、俺は・・・

レナ　信、あなたは、あなたでしょ・・・

バーダー　信は、信だ！
ゼンジー　何あったあるか、一体・・・
信　　ゼンジー、いろんな事が・・・いろんな事がありすぎて・・・
ゼンジー　（信を抱き締めて）もう大丈夫ある。ゼンジーがここにいるあるよ・・・
バーダー　・・・いいか、信。おたおたしてる時じゃないんだ。俺たちはこれからヤオビクニと正面切って戦うことになる。あんたがあんたであることを確かめるために戦うんだ！
レナ　　私が私であり続けるために、私も・・・
バーダー　そして、マリエとホルガーのために・・・俺があんたの手足になる。あんたは頭だ。いいな。あんたしかいないんだ、奴倒せるのは・・・だってあんたは・・・
信　　みんなを殺したのは、俺かもしれない・・・
レナ　　違う！　ヤオビクニよ・・・
バーダー　（ラップトップをゼンジーに渡し）・・・ゼンジー、この中の情報を削除してくれ。
信　　いい、俺がやる・・・（ラップトップを引っ掴む）
レナ　　ゼンジー、これから本当の戦いが始まるのよ。私達とヤオビクニのね・・・
ゼンジー　レナちゃん・・・

レナの視線が逸れ、ゼンジーの背後にあったエリザに止まる。
硬直するレナ。

バーダー　どうした、レナ？
レナ　　天使の・・・羽・・・
バーダー　羽？
レナ　　（動けない）・・・・・・
ゼンジー　どうした、レナちゃん？　このエリザちゃんがどうかしたあるか？　これただの人形ね。ミミックよ・・・信ちゃんが作ってくれた・・・

言いながら、エリザに近づくゼンジー。エリザが突然立ち上がる。

ゼンジー　（やたらびっくりして）エリザちゃん？
信　　どうしたんだ、エリザ？
エリザ　　（優しい顔で）・・・信太郎、そして玲奈。帰って来なさい。
信　　？
エリザ　　あなた達の教育プログラムはまだ終了してはいない。だから、今すぐ帰ってきなさい。もう同じミスは犯さない。あなた方のために安全な病室を用意しました・・・危険のない侵入経路についてそのつど端末から、指示します・・・
信　　・・・ヤオビクニか？　ヤオビクニなのか？
エリザ　　何処へ逃げても無駄。私は Under にも目を持った。自己増殖可能なパターン認識バイオデバイスを・・・

信　　ゼンジー、エリザのスイッチを切れ！
ゼンジー　（焦ってエリザの電源を切る）
エリザ　　（でも、停止しない）・・・この端末は完全に支配されています。
信　　ゼンジー、エリザを撃て！
ゼンジー　出来ないあるよ！
信　　ただの機械だ！　壊せ！
ゼンジー　壊せないある！
信　　また、作ってやる。早く壊せ！
ゼンジー　このエリザちゃんは作れないある。いくら信ちゃんでも・・・

銃声が轟く！　エリザの頭が爆発する。飛び散る基板の欠片と羽根。えびぞるように椅子に倒れ込むエリザ。バーダーの手にした拳銃から煙が立ち上っている。EMPブリットがエリザを破壊したのだ。ゼンジーが目を丸くして立ちつくしている。

バーダー　ヤオビクニに見つかった。ここもやばい。レナ、信をつれてアジトへ逃げろ！
レナ　　・・・・・・
バーダー　レナ！
レナ　　（我を取り戻し）・・・分かった。
バーダー　さあ、信も早く！　アドレスの消去は俺がやる。頼んだぞ、レナ！
レナ　　バーダー・・・
バーダー　いいから、早く行け！（信とレナを押す）
レナ　　行くわ・・・

レナ、信とともに退場。

バーダー　（銃を机の上に置き、ラップトップを操作している）・・・これでいいか。ゼンジー、ほかにハッカーのリストや見つかるとやばいものはねえか？　もしもの用心だ・・・

バーダー、ゼンジーの方を見る。言葉が途切れる。ゼンジーがバーダーの銃を構えて狙っている。

バーダー　ゼンジー？
ゼンジー　どうして、エリザちゃん殺した？　ゼンジー、エリザちゃんと一緒に海の向うに飛んでくはずだったのよ・・・

ゼンジー、バーダーを撃つ。EMPブリットがバーダーの腹に命中する。ブリットから発生した高周波がバーダーの内臓の水分を振動させ瞬時に蒸発させる。肉の煮える臭い・・・

バーダー　ゼンジー・・・（笑って）機械だろ、これ？　ただの機械だろ・・・（倒れ込んで行く）

倒れたバーダーに必要にEMPブリットが撃ち込まれていく、何発も・・・
ゼンジーが泣いている。
ゼンジーの嗚咽、立ち上る湯気、そして肉の煮える臭い・・・暗転。

fragmen 21 The tree was, however, happy...

薄明かりの中、レナと信が走るように歩いている。

信　レナ、何処行く気なんだ？　クマサンチームのアジトはこっちじゃないだろ・・・こんなUnder の東の外れまで来て・・・

レナ　・・・天使の羽。

信　なに？

レナ　天使の羽・・・それが引き金なの。

信　・・・おい、ちょっと待ってくれ。何なんだ、その引き金って？

レナ　あなたの頭には信太郎自身の、そして玲奈との愛の記憶が移植された・・・私には・・・プログラム『HOPE』の最終コマンドブロックが入ってる。

信　最終コマンドブロック？

レナ　・・・青い海。ここの外へ出るの。

信　外？

レナ　環境浄化システムによって再生した新しい地球を、青い海を、私に・・・いえ、玲奈に、最初に見せるための・・・『天使の羽』がその閉じ込められた記憶を活性化するものなの。信太郎が玲奈に送る百年越しの誕生日のプレゼント。ハリボテの、飾り物の『天使の羽』・・・でも、それで私達は空を飛べる。外に出れるの・・・

信　レナ、おれは・・・

レナ　あなたの信太郎としての記憶はまだ不完全かもしれない。でも私の中の隠蔽されていた記憶、あなたが知っていた玲奈の記憶、がすべて解放されたの。あなたがあやふやな夢の記憶をたどり偶然作り上げたあの『天使の羽』で・・・（前方を指さす）見て、あれが第五非常扉、ER21 よ！

信　あれが外へ通じる扉なのか？

レナ　そう。そして私がそのドアを開ける鍵・・・（駆け出す）

信　（追いかけて）・・・待てよ、レナ。

レナ　（立ち止まり）玲奈よ。（また走り出す）

信　待てってば・・・（追いかける）

レナ　（立ち止まって上を見上げる）にしても大仰な扉だね・・・

信　・・・レナ、本当にこの外は大丈夫なんだろうか？

レナ　環境浄化システムはあなたが設計したんでしょ？　自分に自信持ってよ。

信　でも、この外側が浄化されてるなんて噂は・・・

レナ　ヤオビクニが隠してるんじゃないの？　信太郎と玲奈の一番乗りのために・・・自分を信じて。さあ、私を繋いで・・・

信　繋ぐ？

レナ　そこのドアの保安用バイオデバイスと・・・メインフレームにアクセスしなきゃ扉は開かないでしょ？

信　　そんなことしたら、またヤオビクニに・・・

レナ　　私はさっきの私じゃない・・・覚醒したんですもの・・・玲奈として。さあ、繋いで・・・

信　　（決めあぐねている）

レナ　　この扉が開けば、私達だけじゃなくみんなが外に出れることになる・・・Under も City も分け隔てなく・・・ヤオビクニもない、IDもない世界へ。あるのは、空と海、そして太陽・・・私達は魚や木の実を取って生きてくの。コンピューターのない自由な大地で・・・そして、私達は本当の人間になれるの・・・さあ、繋いで、首の後ろのここに・・・

信　　レナ・・・

レナ　　玲奈でしょ・・・信太郎。

信　　分かった。

信が扉に近づき、ヤオビクニの保安用バイオデバイスのディテクター部分を壊し、配線を引きずり出す。レナがにっこりと笑って信に近寄ろうとする。
その刹那、一発の銃声が空洞内に木霊する。
一瞬、時が停止する。そして、倒れ込むレナ。「レナ！」と叫んで駆け寄り、抱きすくめる信。・・・もしかしたら「玲奈！」と叫んだのか？
二人の後方に人影。鰓瀬と一堂、そして武装警護部隊。皆拳銃を構えている。

鰓瀬　　プログラム通りに ER21 にやって来るとはね・・・やはり機械に作られたミミックは、プログラムに対して忠実だ・・・

信　　ミミックじゃない、人間だ・・・

鰓瀬　　プラスチックの子宮で育てられたお前がか？

レナ　　信太郎。私ずっと待ってた・・・あなたにこうやって抱き締められるのを・・・ずっと待ってた・・・Room３１の培養液の中で、円筒形の容器の向うにゆがんでいるあなたの顔を見ながら、私の夢を見続けているあなたの寝顔を見ながらこうやって抱き締められるのを待っていた気がする・・・（目を閉じる）

信　　玲奈！　・・・どうして・・・どうしてなんだ！

一堂　　・・・都市管理会議によりこの事件に関わる全てのデータの削除が決定されました。よって、ヤオビクニにより生産されたミミック二体も同様の処置が取られます・・・

信　　聞こえるか、ヤオビクニ！　この扉を開けろ！　・・・開けてくれ、ヤオビクニ・・・玲奈に海を見せなきゃならない・・・

一堂　　この扉は開きません。有害物質の流入の危険性がありますから・・・

信　　有害物質・・・そんなものはもうない。

鰓瀬　　外部ディテクターは危険水準の百倍以上の数値を送ってきている・・・

信　　それはヤオビクニによるデータの改竄だ。・・・俺は渋沢信太郎だぞ。ヤオビクニを造り、この街を造り、そして環境浄化システムも設計した・・・

一堂　　存じ上げております。

信　　だったら早く開けろ！

鰓瀬　それは出来ません。・・・それに、本物の渋沢信太郎様は・・・百年前にご自害なされました・・・

鰓瀬の拳銃が火を吹く。胸を撃ち抜かれた信がゆっくりと膝から崩れ落ちる。

鰓瀬　（武装警護部隊に向かって）ここに火を放ってくれないか？　ミミックの遺体を完全に焼くんだ。そして隠蔽しろ・・・行くぞ、一堂。

鰓瀬、じっと信を見つめていた一堂を促し退場する。
一本のサスが信を照らす。・・・武装警護部隊もゆっくりと退場し、舞台は信とレナだけになる。

信　（レナを抱き締めたまま）・・・環境浄化システムはうまく動いてないのかい？　ヤオビクニ、答えてくれないか？　僕の設計した環境浄化システムは・・・僕は跳べない天使の羽を造っただけなのかい？　ハリボテの・・・飾り物のシステム・・・そうなのかい、ヤオビクニ？

何も照明のさしていない舞台側方にゼンジー、そして後方に羽を背負ったエリザがゆっくりと現れる。
鰓瀬と一堂が再び登場する。

鰓瀬　・・・ゼンジーって言ったっけ、あのじいさん？　バーダーの死体の横で首の取れたミミック抱いて、泣いてた奴・・・
一堂　ああ。
鰓瀬　どうだ、あいつの様子は？
一堂　ここより、医療センターの脳神経科に入れた方がいいよ。
鰓瀬　処理する必要なしって訳か・・・それから、プログラムHOPEの除去の方はどうなってる？
一堂　信太郎の書いたベースプログラムを基にヤオビクニが多数のエージェント・プログラムを作ってってさ。それが、MMDだのヤオビクニのOSだのに食い込んでて大変なんだ、下手したらシステム壊れるし・・・とにかく、しらみつぶしって感じだ・・・HOPE、希望を見付けてはひねり潰していく・・・コンピューターのメモリー上から希望を消し去っていく。すべての希望が消滅したら、そこには何が残るんだろ？　・・・さてと、報告書を書かなくちゃ。

一堂、後ろを向き去ろうとするが、止まる。後ろ向きのまま、呟くように鰓瀬に尋ねる。

一堂　・・・ただ、一人の男が一人の女を愛しただけだよね？　それだけの事だよね？　・・・でも、どうしてこんなに人が死んだんだい？　どうして死ななければならなかったんだい？　ただ、愛しただけなのに・・・（退場する）
鰓瀬　（一堂の言葉に頷くでもなく、それを聞き流すでもなく、じっと前を見ていたが、不意に天

井に設置されたヤオビクニのパターン認識デバイスを凝視する)・・・ヤオビクニ、俺が見えるか？　お前のパターン認識デバイスには俺がどう映ってるんだ？　人間がどう見えているんだ？　お前にとって人間とは何なんだ、ヤオビクニ・・・

鰓瀬、パターン認識デバイスから視線をそらし、きびすを返して退場する。
信にサスが当たる。

信　　玲奈・・・君が話してくれた、あの物語の最後を思い出したよ。大きな林檎の木と少年の話。・・・確か、最後には老人になった少年が切り株だけになった林檎の木のところに杖をつきながら歩いてくるんだった。・・・そして、林檎の木がその歳老いてしまったかつての少年にこう言うんだ・・・

舞台後方のエリザにゆっくりと明かりが射していく。

エリザ　・・・「私にはもう、売りに行くための甘い実も、小屋を建てるための大振りの枝も、くりぬいて船にするための太い幹も・・・もう何も残っていません。私にはただ大きな切り株があるだけです。」
信　　・・・かつての少年はしわだらけの顔をちょっとだけゆがめて、こう言いました、「今の私は・・・たわわに実った実も、大振りの枝も、太い幹も、もういりません。長い道を歩いてきたので、その大きな切り株に腰を下ろして、少しだけ休ませてください・・・」
エリザ　・・・林檎の木は、その言葉を聞き、そして自分自身の切り株に彼が座るのを見ました。・・・それだけで、林檎の木はとても幸せでした。
信　　・・・それだけで、林檎の木はとても幸せでした。・・・玲奈？　僕等もここで休もう・・・もし、林檎の木が許してくれるなら・・・

ゆっくりと、レナに折り重なるように倒れていく信。
彼らを照らしていたサスが、信の動きにあわせてゆっくりと暗くなり、やがて消える。
先ほどから、舞台奥のエリザに向かいゼンジーの顔が投影されて続けている。舞台側方で、怯えるように小さくなっていたゼンジーのリアルタイムの顔だ。よく見るとこの映像には枠があり、右上に Suspect: Zenzie の文字がオーバーレイしている。ヤオビクニのパターン認識デバイスの映像である。
ゼンジーは感情崩壊を起こしているようだ。ひたすら怯えていたゼンジーがパターン認識デバイスに向かい満面の笑みを浮かべる。

ゼンジー　信ちゃん。ゼンジー見たあるよ。エリザちゃんの羽がすーっと開いていくのを・・・確かに見たある。開いた羽が力強くはばたいて、そして空に飛んで行くの・・・

台詞の間に、舞台後方のエリザの羽がゆっくりと両端に開いていく。ゼンジーの映像に浮

かび上がったエリザが、にっこりと笑いながら前に手を差し伸べる。画像が心なしか、ぶれ始めている・・・

ゼンジー　ゼンジー、エリザちゃんに掴まって、一緒に飛んで行ったよ。この街の外の空の上の方まで・・・信ちゃん・・・

映像が極端にぶれて、画面が赤一色に変化する。
舞台の照明が停電のようにカットオフ。
赤い画面に文字が浮かぶ・・・

＜KERNEL MODE INTERRUPT　ヤオビクニが停止しました・・・＞

耳をつん裂くごとき警告音が鳴り響く。
やがて、その警告音はゆっくりとフェードアウトして行き、クロスフェードで『Junk Metal City in the Rain』に取って代わられる。
舞台はすでに暗転している。

fragment 22 Malformed apes (reprise)

「Junk Metal City in the Rain」が静かに流れている。
黄色の『Cross line』のテープが舞台空間を幾度も横切っている、ゼンジー商会の狭い間口は都市管理会議により封鎖されたのだ。
雨が降っている。しとしとと雨が降っている・・・
薄明かりの中、右腕を押さえた男がよたよたと歩いてくる。
『Malformed apes』のアクセラレーターを右腕に組み込んだあのパンク野郎だ。叫び疲れて、声は涸れ果てている。

パンク　・・・信さん。どこ行ったんだよ。大変なんだ、Grudge の腕が・・・右腕が、腐って落ちたんだ。信さん、どうしよう。俺のも・・・俺の腕も取れちまうのか？　頼むよ、信さん！　出て来てくれ！

血を吐くかのように信ちゃんを呼び続けるが、それに答えるものは誰もいない。ただパンク野郎の叫びが幾度も木霊するだけだ。
薄明かりの中、「Junk Metal City in the Rain」が静かに流れている。

パンク　信さん！　バイオデバイスを外してくれよ。頼むよ！　俺怖いよ・・・怖いんだ！　信さん・・・俺怖いよ・・・

おこりにでも罹ったように震える身体を強く抱き締めながらゆっくりとうずくまっていくパンク野郎。
音も無く雨が降り続く・・・
「Junk Metal City in the Rain」が静かに流れる中、出演者全員が舞台上に現れる。
出演者たちにより淡々と語られるエピローグ。

The final verse

Junk Metal City・・・
空のない街／淀んだ闇にしとしとと雨が降り続く／いや、雨なんかじゃない
湿気を孕んだ空気が都市の熱に煽られて上昇し／巨大な天井に結露する
自らの重みを支えきれなくなった水滴は／重力の作用に従い次々と落下する
雨・・・／みんながそう呼んでいる
雨・・・／それも何の感慨もなしに・・・

Junk Metal City・・・

海のない街／その中で俺たちは生きている
Malformed apes／奇形のサル／それが私達？
機械を組み込んだ Malformed apes／機械に組み込まれた Malformed apes？
どちらも同じこと／きっとね・・・

Junk Metal City・・・
遥か未来の／だからこそ今の／客観的な時間など存在しないから
この街は『老いたる時間の娘』／これが都市の本当の名前

Junk Metal City・・・
どこにもない街／だから今ここにある街

Junk Metal City・・・
雨はまだ降り続いている・・・

出演者たち全員が客席に向かい深々とおじぎをするのとともに、照明がゆっくりとフェードアウトしていく。

老いたる時間
-A True Daughter of Old Time-
（了）